

# コルグ デジタル・ピアノ コンサート

KORG DIGITAL PIANO CONCERT



## Ci-9600 Ci-8600



## 取扱説明書

**ai** AI<sup>2</sup> Synthesis System

**XG**

GENERAL  
**MIDI**

**XF**

# KORG

**PCI/F**

# 安全上のご注意

## WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

	<b>CAUTION</b> RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN	
<b>AVERTISSEMENT:</b> RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.		
<b>注意</b> 感電の恐れあり、キャビネットをあけるな		
CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.		

## マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近に置いて、お子様から専門家の方まで幅広く愛用していただけます。デジタル・ピアノは大きくて重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での置き場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。小さなお子様には、最初にご家族の方が教えてあげてください。



## 警告



- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は、水平で平らな床面に行ってください。
- 本製品を移動するときは、デジタル・ピアノ本体とスタンドを別々にし、必ず2人以上で持ち上げてください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、製品に液体がこぼれたとき
  - 製品が（雨などで）濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき



- 本製品は、キーカバーまたは譜面立ての開閉時に、指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分に注意してください。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。最寄りのコルグ・サービスセンターまたはコルグ営業技術課へ、必ず相談してください。
- 本製品の上へ乗ったり、下へもぐり込んで遊ばないでください。
- 本製品の上へ、物を置かないでください。落ちると危険です。
- デジタル・ピアノ本体に、前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。
- 地震時は、本製品に近づかないでください。

- 電源コードは、無理に曲げたり、重いものを上に乗せないでください。電源コードに傷がつき危険です。
- 本製品を単独で、またはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合、設定によっては、永久的に難聴になる程の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。
- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
  - ホコリの多い場所
  - 振動の多い場所



- 濡れた手で、本製品を使用しないでください。



- 風呂場、シャワー室などで、本製品を使用しないでください。



- 本製品を水気のある場所で使用しないでください。
- 本製品に水をかけたり、水をこぼさないでください。



- この機器を分解したり、改造しないでください。



## 警告 (スタンド)



- 付属のスタンドは、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、確実にデジタル・ピアノ本体を設置し、使用してください。
- 長期間使用になりますと、スタンドのネジが緩む場

合があります。使用中にスタンドの揺れを大きく感じるときは、安全のため、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

## 警告 (イス)



- 付属の椅子は、ピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり踏台にすると、転倒したり壊れたりして危険です。
- 付属されている椅子の高さ調節は、椅子から降りてから、確実に行ってください。腰掛けたままで行くと、手を挟むことなどが危険です。



- 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。

## 注意



- 本製品は、正常な通気が妨げられることのない所に設置し、使用してください。
- 本製品は、マイクロコンピュータを使用した機器です。このため、ラジオやテレビなどを接近して同時に使用すると、それらに雑音が入ることがあります。また、ラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて、誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは、十分に離して使用してください。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- スイッチやツマミに必要以上の力を加えると、故障の原因となりますので注意してください。
- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は、絶対に使用しないでください(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。



- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。






## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはフロッピーディスク等にセーブしておいてください。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

# 目次

安全上のご注意 .....	ii
 はじめに .....	7
1. ご使用になる前に .....	7
付属品の確認 .....	7
2. 本書の使い方 .....	7
本書の表記について .....	7
3. 各部のなまえ .....	8
4. おもな特長 .....	12
 演奏するための準備 .....	13
1. 演奏を始める前に .....	13
音量を調節するときは .....	14
ヘッドホンを使うときは .....	14
譜面立てを使うときは .....	14
 基本操作 .....	15
1. LCD画面 .....	15
2. 操作パネル .....	16
3. フロッピー・ディスク .....	17
フロッピー・ディスクの入れかた .....	17
ライト・プロテクトについて .....	17
4. ヘルプ機能 .....	18
 デモ演奏 .....	19
1. デモ演奏を聴く .....	19
デモ曲を聴くときは .....	19
2. デモ曲でピアノ演奏の練習をする .....	20
右手と左手を別々に練習するときは .....	20
デモ演奏のテンポを変えるときは .....	20
デモ演奏を一時停止するときは .....	20
 弾いてみましょう .....	21
1. 音色を選ぶ .....	21
プログラムを変更するときは .....	21
打楽器の音色を選ぶときは .....	22
[USER/DISK]プログラム・グループの音色を選ぶときは .....	22
ピアノとして演奏するときは .....	22
2. プログラムを組み合わせる .....	23
2つの音色を組み合わせで演奏するときは(レイヤー機能) .....	23
鍵盤の左右にちがう音色を設定して使うときは (スプリット機能) .....	24
3. 音色に効果を加える .....	26
音に残響効果を加えるときは .....	26
音に変化などの効果を加えるときは .....	26
4. ペダルを使う .....	28
レイヤー、スプリット時のダンパー・ペダルの設定 .....	28
センター・ペダルの機能を変更するときは .....	29
5. メトロノームに合わせて演奏する .....	30
メトロノームを鳴らすときは .....	30
テンポを調節するときは .....	30

6. 鍵盤のタッチ感を変える .....	31
7. [USER/DISK]プログラム・グループを使う .....	32
[USER/DISK]プログラム・グループに好みの音色を集めるときは .....	32
プログラム名を変更するとき .....	33
フロッピー・ディスクから1プログラムずつ読み込むときは .....	34
フロッピー・ディスクに保存するとき .....	34
ファイル名を変更するとき .....	35
フロッピー・ディスクのプログラムを読み込むときは .....	36

## **自動伴奏..... 37**

1. 自動伴奏を使った演奏 .....	37
自動伴奏を使うときは .....	37
コード指定方法を変更するとき .....	39
自動伴奏のスタート/ストップ方法を選ぶときは .....	40
テンポを変更するとき .....	42
全体の音量を調節するとき .....	43
パートごとに音量を調節するとき .....	43
パートをミュートするとき .....	43
2. いろいろな自動伴奏の機能 .....	44
アンサンブルで演奏するとき .....	44
バリエーションをつけるときは .....	44
イントロをつけるときは .....	45
エンディングをつけるときは .....	45
フィルをつけるときは .....	46
リズム・スタイルといっしょにプログラムを切り換えるときは .....	46
パートを減らした伴奏にするときは .....	46
3. [USER/DISK]リズム・スタイル・グループを使う .....	47
フロッピー・ディスクのリズム・スタイルを読み込むときは .....	47
フロッピー・ディスクに保存するとき .....	48
[USER/DISK]リズム・スタイル・グループに好みのスタイルを集めるとき .....	48
4. カスタム・リズム・スタイルの編集 .....	50
自分でリズム・スタイルを作るとき .....	50
○ カスタム・スタイルのパラメーター一覧 .....	52

## **ソング..... 55**

1. ソングを再生する .....	55
音楽データを再生するとき .....	55
一部のパートをミュートして再生するとき .....	56
ジュークボックス機能 .....	57
2. ソングの音量調節 .....	58
全体の音量を調節するとき .....	58
パートごとに音量調節するとき .....	58
パートをミュートするとき .....	59
パートごとのさまざまな設定を変更するとき .....	59
3. カラオケ機能 .....	60
マイクを使うとき .....	60
マイク・エフェクトを使うとき .....	61
4. ソングのエディット .....	62
イベント・エディット .....	62
エディットした曲をSMFで保存するとき .....	63
ソング名を変更するとき .....	63
○ イベント・エディットの操作 .....	64

## 録音してみよう ..... 65

1. 演奏を録音する ..... 65
  - 基本的な録音 (リアルタイム・レコーディング) ..... 65
  - 保存した曲データを読み込むときは ..... 67
2. いろいろな録音方法 ..... 68
  - 自動伴奏を録音する方法 (ステップ・レコーディング) ..... 68
  - ステップ・レコーディングの操作 ..... 69
  - ステップ・レコーディングでコードを入力してみましょう ..... 70
  - 多重録音 ..... 71
  - 曲の途中から録音するときは ..... 72
  - オート・パンチ・イン/アウト ..... 73
3. 編集機能 ..... 74
  - 保存した録音データを編集するときは ..... 74
  - SMF形式にして保存するときは ..... 75
  - "Rec 3/3" ページ項目詳細 ..... 76

## ファンクション ..... 81

1. 音の高さの調整 ..... 81
  - 音の高さを微調整するときは ..... 81
  - キーを変更するときは (移調) ..... 81
  - オクターブを変更するときは ..... 81
2. 音律を選ぶ ..... 82
  - 音律を設定するときは ..... 82
  - 好みの音律を作るときは ..... 82
3. レジストレーション ..... 83
  - 登録するときは ..... 83
  - 呼び出すときは ..... 83
  - レジストレーションをフロッピー・ディスクに保存するときは ..... 83
  - レジストレーションをフロッピー・ディスクから読み込むときは ..... 83
4. オール・セットアップ ..... 84
  - 各設定を本体に記憶させるときは ..... 84
  - オール・セットアップを保存するときは ..... 85
  - オール・セットアップを呼び出すときは ..... 85
5. フロッピー・ディスク ..... 85
  - フォーマットするときは ..... 85
  - ファイルを消去するときは ..... 85
6. 便利な機能 ..... 86
  - 音の左右のバランスを調整するときは ..... 86
  - ポップアップ画面の表示時間を変更するときは ..... 86

## 他の機器との接続 ..... 87

1. MIDI 機器との接続 ..... 87
  - MIDI (ミディ) とは? ..... 87
  - MIDI の接続方法 ..... 87
  - MIDI チャンネルの設定 ..... 87
  - 本機をマルチティンバー音源として使うときは ..... 88
  - ローカル・オン/オフの設定 ..... 88
  - 外部シーケンサーと同期させるには ..... 88
  - MIDI トランスポート ..... 88
  - MIDI Filter ..... 89
2. コンピュータとの接続 ..... 89
  - IBM PC 互換機との接続 ..... 89



Apple Macintoshシリーズとの接続 .....	90
NEC PC-9800シリーズとの接続 .....	90

## 付録 ..... 91

故障とお思いになる前に .....	91
仕 様 .....	92
ST-9600Ciの組み立て方 .....	93
ST-8600Ciの組み立て方 .....	95
プログラム・リスト .....	97
リズム・スタイル・リスト .....	100
ドラム・キット・リスト .....	102
デモ曲・リスト .....	106
付属ディスク・リスト(CID-001PJ) .....	107
認識できるコード一覧 .....	108

## はじめに

このたびは、コルグ・デジタル・ピアノCi-9600/Ci-8600をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

### 1. ご使用になる前に

本書iiページにある「安全上のご注意」、「火災・感電・人身障害の危険を防止するには」、「注意」、「警告」の各項をよくご確認ください。

#### 付属品の確認

下記の付属品が揃っていることを確認してください。

- ・「取扱説明書」(本書です)
- ・フロッピー・ディスク  
Ci-9600およびCi-8600で使用する音色や自動伴奏のデータ、カラオケの曲データなどが収められています。データの内容についてはp.107～参照してください。
- ・専用スタンド  
Ci-9600またはCi-8600の専用スタンドです。p.93、95「スタンドの組み立て方」を参照し、組み立てて正しくお使いください。
- ・専用椅子  
別紙(箱に入っています)の「組み立て方」を参照し、組み立てて正しくお使いください。
- ・日本語シート  
使用方法はシートに印刷された内容をご覧ください。
- ・ヘッドホン
- ・AC電源コード

### 2. 本書の使い方

#### 本書の表記について

 p. ■■

参照するページを表します。



MeMO

これらのマークは、順番に、使用上の注意、アドバイスに関する説明を表します。

LCD画面: “...”セル、“...”ボタン

“...”で括った名称はLCD画面上にありますので、LCD画面に表示するセル、ボタン、チェック・ボックス、ラジオ・ボタンを操作してください。



ヘルプ機能の言語設定で“English”にすると、すべて英語表示になります。“Japanese”にしたとき一部日本語表示にならないところもあります。

※LCD画面の表示

本書に記載されている各種のパラメーターの数値などは表示の一例ですので、本体のLCD画面の表示と必ずしも一致しない場合があります。

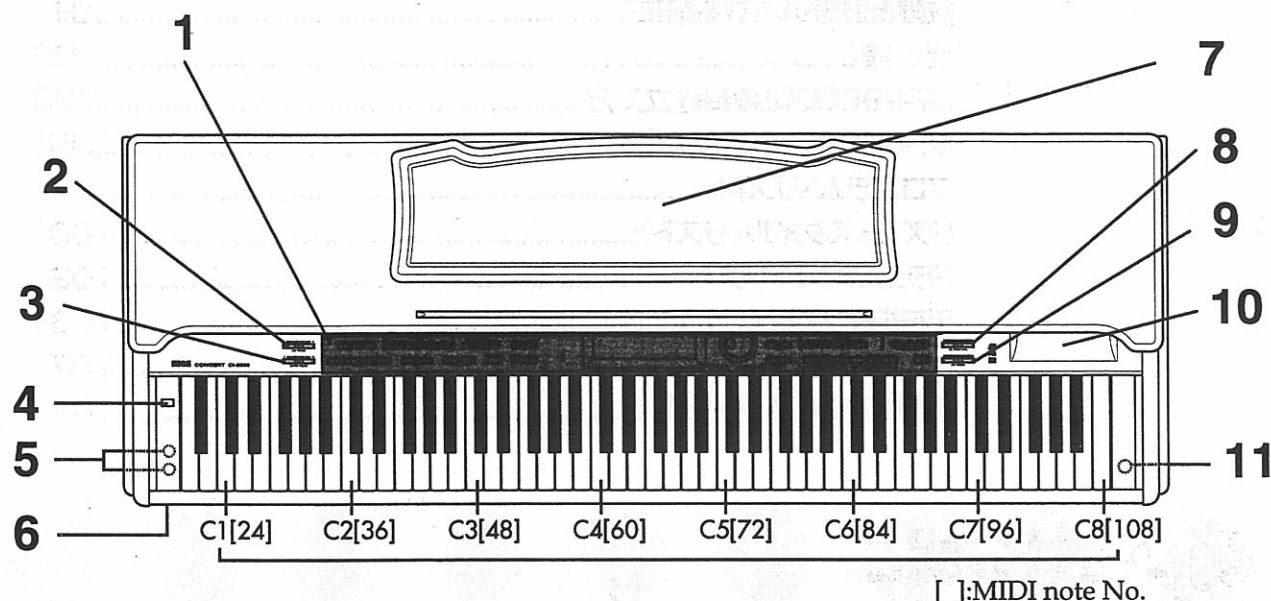
パネル:[...]スイッチ、ダイヤル、[...]スライダー

[...]で括った名称はフロント・パネル上にありますので、それぞれを操作してください。



### 3. 各部のなまえ

#### フロント・パネル



#### 1. 操作パネル

それぞれのスイッチの名前については、p.10、11の「操作パネル」を参照してください。

#### 2. [ACC VOLUME] (アカンパニメント・ボリューム) スライダー

鍵盤以外の自動伴奏やデモ演奏、ソングを再生する音量を調節します。このボリュームを0にすると鍵盤の音以外は出ません。

#### 3. [MASTER VOLUME] (マスター・ボリューム) スライダー

スピーカーやヘッドホン、アウトプットから出る本機の全体の音量を調節します。(p.14)

#### 4. [POWER] (パワー) スイッチ

電源をオンまたはオフにします。押すたびにオン、オフが切り替わります。(p.14)

#### 5. ヘッドホン端子(本体の底面にあります)

ステレオ・ヘッドホンをつなぐと、周囲に音を出さずにCi-9600/8600を演奏したり、音を聴いたりすることができます。ヘッドホンは、2つまで同時につなぐことができます。市販のヘッドホンを使用される場合には、ステレオ・ヘッドホンの標準プラグ・タイプのものをお選びください。

#### 6. パワー・ランプ

Ci-9600/8600の電源をオンにすると点灯します。電源をオフにすると消灯します。

#### 7. 譜面立て

p.14

#### 8. [VOCAL EFFECT LEVEL] (ボーカル・エフェクト・レベル) スライダー

マイクをマイク・インプット端子に接続したときに、マイクの音声にかかるエコーなどのエフェクトのかかり具合を調節します。

#### 9. [MIC VOLUME] (マイク・ボリューム) スライダー

マイクをマイク・インプット端子に接続したときに、マイクの音量を調整します。

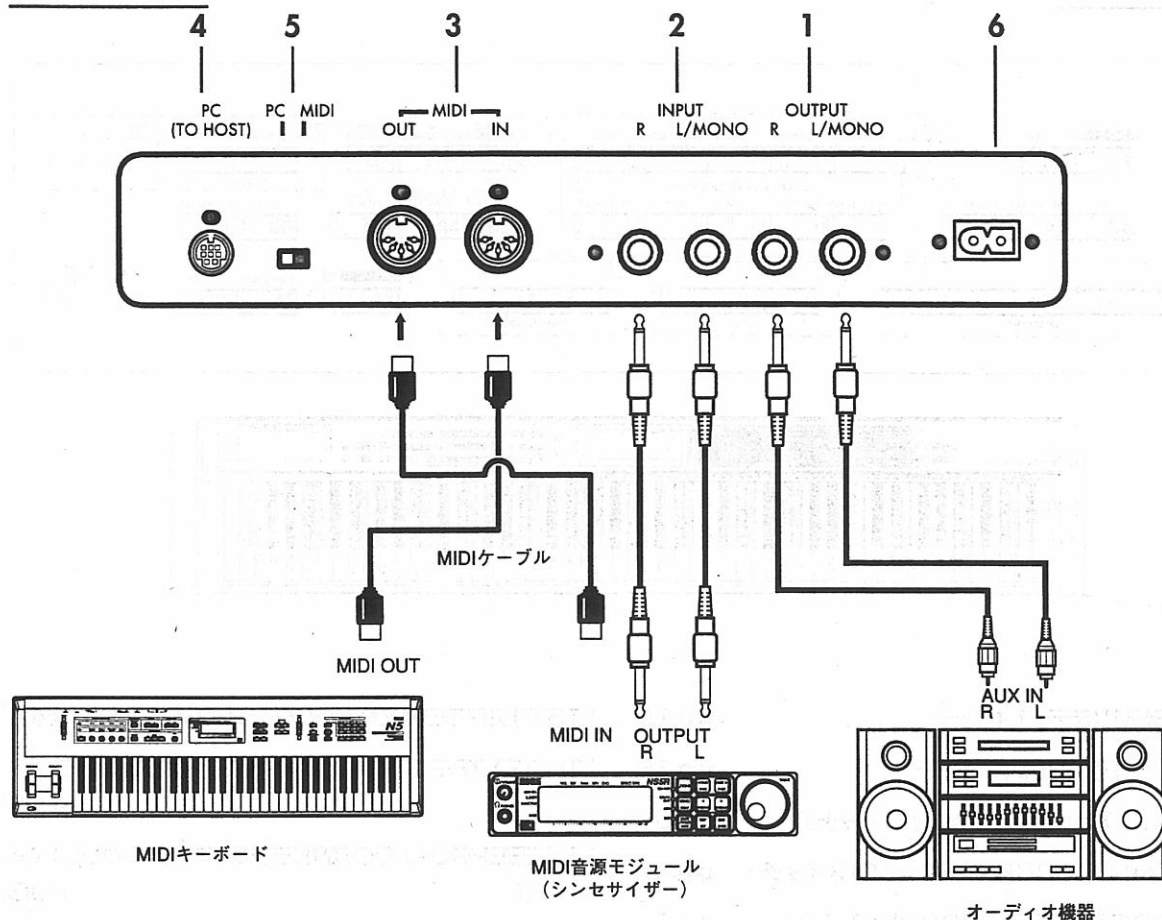
#### 10. フロッピー・ディスク・ドライブ

3.5インチ両面倍密度(2DD)または両面高密度(2HD)のフロッピー・ディスクを挿入してプログラム、ソングやスタイルを読み込んだり、保存したりします。フロッピー・ディスクの取り扱いについては、p.17の「フロッピー・ディスクについて」を参照してください。

#### 11. マイク・インプット端子(本体の底面にあります)

マイクを接続して、市販のSMFデータの演奏や自動伴奏に合わせてカラオケを楽しむことができます。

## リア・パネル



### 1. OUTPUT (アウトプット) 端子

オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するときに使用する端子です。音量は本機の[MASTER VOLUME]スライダーで調節してください。

ステレオで接続するときはL/MONO端子とR端子に接続し、モノラルで接続するときはL/MONO端子だけに接続してください。

### 2. INPUT (インプット) 端子

シンセサイザーなどの楽器やオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本機の内蔵スピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した楽器やオーディオ機器のボリュームで調節してください。

ステレオで接続するときはL/MONO端子とR端子に接続し、モノラルで接続するときはL/MONO端子だけに接続してください。

### 3. MIDI 端子

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどのMIDI機器と接続して、情報を交換するための端子です。

☞p.87「MIDI機器との接続」

### 4. PC (TO HOST) 端子

MIDIインターフェイスを持たないコンピュータなどとCi-9600/8600とを直接接続して、データをやり取りする端子です。接続するには、つなぐコンピュータの種類にあわせてケーブルを購入してください。

☞p.89「コンピュータとの接続」

### 5. PC/MIDI切替スイッチ

MIDI端子を使うか、PC (TO HOST) 端子を使うかを切り替えるスイッチです。(☞p.87, 89)



PC/MIDI切替スイッチは、必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。

### 6. AC 端子

付属の電源コードを接続します。(☞p.94, 96「ST-9600 Ci/ST-8600Ciの組み立て方」)

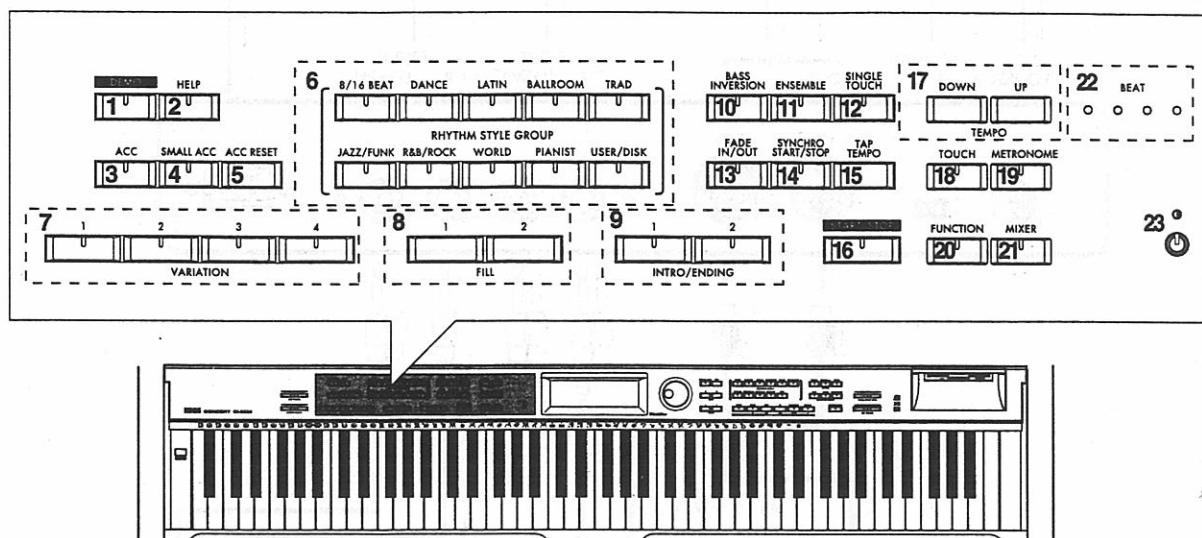
### 7. PEDAL (ペダル) 端子 (底面にあります)

専用スタンドST-8600Ci/9600Ciのペダル用コネクタを接続します。(☞p.94, 96「ST-9600Ci/ST-8600Ciの組み立て方」)

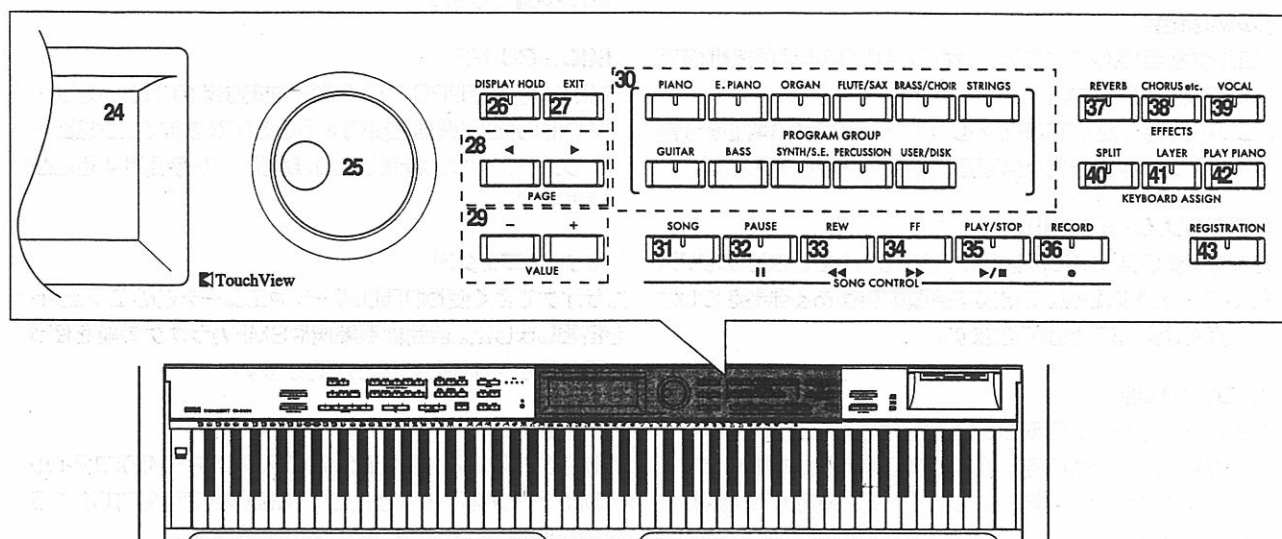


3、4、7の端子には向きがあります。向きに注意して接続してください。

## 操作パネル



- |   |        |   |        |
|---|--------|---|--------|
| 1. [DEMO] (デモ) スイッチ                                 | ☞ p.19 | 15. [TAP TEMPO] (タップ・テンポ) スイッチ          | ☞ p.42 |
| 2. [HELP] (ヘルプ) スイッチ                                | ☞ p.18 | 16. [START/STOP] (スタート/ストップ) スイッチ       | ☞ p.38 |
| 3. [ACC] (Accompaniment) スイッチ                       | ☞ p.37 | 17. [TEMPO UP, DOWN] (テンポ・アップ、ダウン) スイッチ | ☞ p.30 |
| 4. [SMALL ACC] (スモールACC) スイッチ                       | ☞ p.46 | 18. [TOUCH] (タッチ) スイッチ                  | ☞ p.31 |
| 5. [ACC RESET] (ACCリセット) スイッチ                       | ☞ p.38 | 19. [METRONOME] (メトロノーム) スイッチ           | ☞ p.30 |
| 6. [RHYTHM STYLE GROUP] (リズム・スタイル・グループ)             | ☞ p.37 | 20. [FUNCTION] (ファンクション) スイッチ           | ☞ p.81 |
| 7. [VARIATION 1, 2, 3, 4] (バリエーション 1, 2, 3, 4) スイッチ | ☞ p.44 | 21. [MIXER] (ミキサー) スイッチ                 | ☞ p.43 |
| 8. [FILL 1, 2] (フィル 1, 2) スイッチ                      | ☞ p.46 | 22. [BEAT] (ビート) ランプ                    | ☞ p.38 |
| 9. [INTRO/ENDING 1, 2] (イントロ/エンディング 1, 2) スイッチ      | ☞ p.45 | 23. [CONTRAST] (コントラスト) つまみ             | ☞ p.15 |
| 10. [BASS INVERSION] (ベース・インバージョン) スイッチ             | ☞ p.39 |   |        |
| 11. [ENSEMBLE] (アンサンブル) スイッチ                        | ☞ p.44 |   |        |
| 12. [SINGLE TOUCH] (シングル・タッチ) スイッチ                  | ☞ p.46 |   |        |
| 13. [FADE IN/OUT] (フェード・イン/アウト) スイッチ                | ☞ p.41 |   |        |
| 14. [SYNCHRO START/STOP] (シンクロ・スタート/ストップ) スイッチ      | ☞ p.40 |   |        |



- 24. タッチ・スイッチ付きLCD画面 p.15
- 25. ダイヤル p.16
- 26. [DISPLAY HOLD](ディスプレイ・ホールド)スイッチ p.16
- 27. [EXIT](エグジット)スイッチ p.16
- 28. [PAGE◀, ▶](ページ◀, ▶)スイッチ p.16
- 29. [VALUE-, +](バリュー -, +)スイッチ p.16
- 30. [PROGRAM GROUP](プログラム・グループ) p.21
- 31. [SONG](ソング)スイッチ p.55
- 32. [PAUSE](ポーズ)スイッチ p.56
- 33. [REW](REWIND: 巻き戻し)スイッチ p.56
- 34. [FF](FAST FORWARD: 早送り)スイッチ p.56
- 35. [PLAY/STOP](プレイ/ストップ)スイッチ p.55
- 36. [RECORD](レコード)スイッチ p.65
- 37. [REVERB](リバーブ)スイッチ p.26
- 38. [CHORUS etc.](コーラス)スイッチ p.27
- 39. [VOCAL](ボーカル)スイッチ p.61
- 40. [SPLIT](スプリット)スイッチ p.24
- 41. [LAYER](レイヤー)スイッチ p.23
- 42. [PLAY PIANO](プレイ・ピアノ)スイッチ p.22
- 43. [REGISTRATION](レジストレーション)スイッチ p.83

## 4. おもな特長

### 多彩な音色

コルグ独自のAIスクエアシンセシスの346音色を鍵盤で弾くことができます。

2つの音色を重ねて演奏するレイヤー機能や、鍵盤を分割して2つの音色を割り当てるスプリット機能も使えます。

### 多彩なリズム・スタイル

自動伴奏のスタイルは世界各地で作られたさまざまなリズム・スタイルを搭載しています。各国の特徴ある伴奏をつけて演奏を楽しむことができます。

### エフェクト機能

コンサート・ホールで演奏しているような響きを加えるリバーブ効果や、音にうねりを与え広がりのある豊かな響きにするコーラスなどのデジタル・エフェクトを2系統(37種類)内蔵しています。

### ペダル効果

ピアノ演奏にかかすことのできない、ハーフ・ダンパー効果付きのダンパー・ペダルとソフト・ペダル、グランドピアノに付いていることの多い中央のソステヌート・ペダルの3本のペダルがあります。

### メトロノーム機能

練習に便利な、メトロノームもスイッチひとつで使うことができます。

音量調節もできますので、曲や周りの状況にあわせて設定できます。

### レコーダー機能

テープ・レコーダ感覚で操作のできるレコーダがあります。また、鍵盤以外に5トラック分の録音ができますので、ちょっとした室内楽やバンド楽譜の入力もできます。もちろん、自動伴奏の録音もできますので、簡単に伴奏だけ録音ができます。

### ステップ・レコーディング機能

レコーダには自動伴奏をコードとパネル操作に分けて1つずつ入力できるステップ・レコーディング機能があります。この機能により、ピアノが弾けなくてもコード付きの楽譜から簡単に録音することができます。

### タッチ・コントロール機能

ピアノで一番たいせつなタッチを6種類変えることができます。タッチが弱くなりがちなお子さまから、本格的に弾きこなせる人まで使うことができます。

また強弱のないタッチも選べますので、オルガン等の音色の演奏に使うことができます。

### 音律

10種類の音律で古典音楽や中近東音楽なども弾くことができます。

また、ユーザー・スケールにより自分で4種類までの音律を作ることができます。

### 音程の調節(トランスポーズ)

トランスポーズ機能がありますので、声の調子に合わせて簡単に移調できます。

### MIDI、PC I/F

MIDI(切替えてPC I/F)の端子がありますので、コンピュータや他のMIDI機器と接続することができます。コンピュータのシーケンサに録音したり、練習ソフトを使用することができます。

### マイク・エフェクト

カラオケでよく使われるリバーブやエコーなどのエフェクトを搭載しました。自動伴奏機能やSMFカラオケ機能を使ってカラオケを楽しむことができます。

### XG音源

市販されているXG音源対応のスタンダードMIDIファイルの曲データを再生するときに、XG規格に完全対応したXG音源を使用して再生することができます。

### カラオケ機能

日本語のカラオケはXF及び、SMFwith lyricsに対応しました。

### タッチビュー方式のLCD画面

64x256ドットLCDを採用して、グラフィカルでわかりやすい表示です。

LCD画面のパネル面を軽く触れるだけでスイッチとして働きます。

### キャビネット一体構造バスレフ・システム

13cmスピーカーと5cmツイーターをボックスにいれることにより、豊かな低音とクリアな高音の再生を実現しました。

### ベース・エンハンサー

"Bass Enhancer"(ベース・エンハンサー)回路を搭載することにより、"自然"で"豊かな"低音を再現しました。

### リアルウエイテッド・ハンマー・アクション鍵盤(Ci-9600のみ)

グランド・ピアノと同様に低音部では重く、高音部では軽めという音程による重量感を再現しました。

### ゆっくりと静かに閉まるキー・カバー(Ci-9600のみ)

蓋がゆっくりと静かに閉まるタイプのキー・カバーを採用しました。お子さまがご使用になるときに安心です。



# 演奏するための準備

## 1. 演奏を始める前に

### 1 電源コードを差し込みます

電源コードの片側を本体背面のソケットに差し込みます。(p.94、96)  
電源コードのプラグをコンセントに差し込んでください。



必ずAC100Vの電源コンセントに、差し込んでください。

### 2 キー・カバーを開けます

#### Ci-9600をご購入された方へ

キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの手前のへりを両手で持ち上げて静かに開けてください。

キー・カバーを閉めるときは、手前のへりを持ち、静かに閉めてください。

閉めるときは、途中から自然にゆっくりと閉まる構造になっていますので無理に閉めないでください。(図.1)

⚠ キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。  
無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。(図.2)

⚠ キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの上に紙やコインなどがいないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。

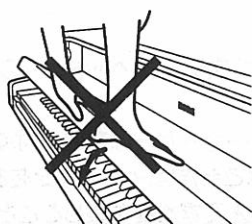


図.1



図.2

#### Ci-8600をご購入された方へ

キー・カバーを開けるときは、へりの中央部分を軽く持ち上げて、支えながら静かに奥の方へスライドさせます。

キー・カバーを閉めるときは、へりの中央部分を軽く持ち、手前へスライドさせます。



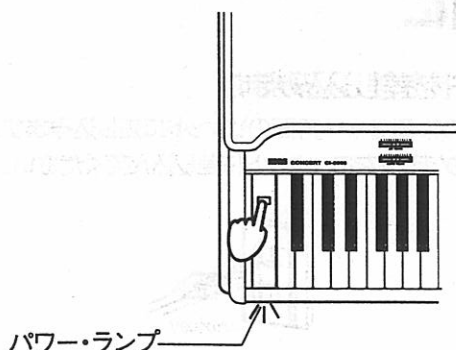
⚠ キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの上に紙やコインなどがいないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。

⚠ キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。  
無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。

### 3

#### 電源をオンにします

[POWER] スイッチを押します。電源をオンにすると、正面左側にあるパワー・ランプが点灯します。



#### 電源をオフにするときは

もう一度 [POWER] スイッチを押します。電源をオフにすると、正面左側にあるパワー・ランプが消灯します。

#### 音量を調節するときは

[MASTER VOLUME] スライダーで、本体のスピーカーとヘッドホン端子、リア・パネルの [OUTPUT] 端子から出力される音量を調節します。



[MASTER VOLUME] スライダーを中程まで上げます。スライダーを右に動かすと音が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。"0" の位置では音が出ません。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。

#### ヘッドホンを使うときは

本体左側底面にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ (標準プラグ) を差し込みます。

ヘッドホンを差し込むと、本体のスピーカーからは音が出なくなります。

夜間などの周囲へ伝わる音が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。



ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、変換プラグ部分を持って抜き差ししてください。

#### 譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。





# 基本操作

## 1. LCD画面

### LCD画面のオブジェクトの名称

Ci-9600/8600のLCD画面は、タッチ・パネル式のタッチ・ビュー・システムを搭載しています。

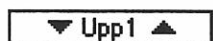
LCD画面に表示されるボタンやセル（これらをオブジェクトといいます）を直接押すことで、ページの選択、値の設定、選択位置の移動、設定の変更など、さまざまな操作を行ないます。

セル（角の丸い四角枠）



このセルを押すとセルの表示が反転します。このときにダイヤルや[VALUE]スイッチでその値を変更することができます。セルに“▲”、“▼”があるときは、“▲”、“▼”の部分を押してセル自身の値を変更することができます。

ボタン（四角い枠）



このボタンを押すことによって、ボタンに表記している内容を実行したり、ページを開いたりします。ボタンに“▲”、“▼”があるときは、“▲”、“▼”の部分を押して対応するセルの値を変更することができます。

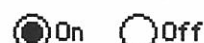
チェック・ボックス



このチェック・ボックスを押すと、押すごとにオン、オフが切り替わります。

オンのときはボックスが塗り潰された状態になります。

ラジオ・ボタン



このボタンはいくつかの項目の中から1つの項目だけ選ぶときに使います。ボタンを押すとその項目が選択されます。

### LCD画面の濃さ

LCD画面の濃さは[CONTRAST]つまみを回して調節します。



## LCD画面の使い方

LCD画面に表示されるオブジェクトは、軽く指で触るだけで反応します。

あまり強く押すと、反応しなかったり故障の原因になりますので注意してください。

表示されているオブジェクトがグレー表示（網かけ）になっているときは、そのオブジェクトを押すことができません。

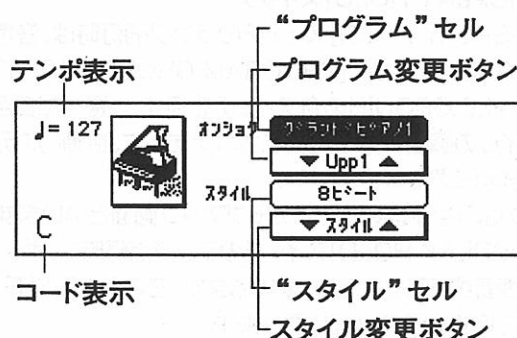


LCD画面を破損する恐れがありますので、下記のようなことは、絶対にやらないでください。

- ・シャープ・ペンシルのように先の鋭いものや硬いもので、LCD画面を強く押したり、こすったりする。
- ・LCD画面の隅を、ペンや爪などで強くこする。

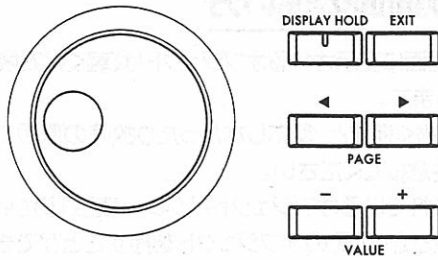
## 基本画面

電源をオンにしたときに表示されるページです。本機の演奏はおもにこの基本画面上で行います。



LCD画面表示に電源オン、オフ時にしま状にノイズが出ることがありますが、故障ではありません。

## 2. 操作パネル



### [PAGE ◀, ▶]スイッチ

音色やスタイルを選ぶときなど、LCD画面に“1/2”、“1/3”などの表示がある場合は、このスイッチを使ってLCD画面のページを前後させることができます。

### [EXIT]スイッチ

元の画面に戻るときに使います。

### [DISPLAY HOLD]スイッチ

[DISPLAY HOLD]スイッチのランプ消灯時は、音色やスタイルを選ぶために[PROGRAM GROUP]や[RHYTHM STYLE GROUP]の各スイッチを押すと、選んだ音色やスタイルの画面が数秒間表示されたあとに、自動的に元の画面表示に戻ります。

このような画面のことを**ポップアップ画面**といいます。

[DISPLAY HOLD]スイッチのランプ点灯時は、ポップアップ画面が表示されたままになります。このとき[EXIT]スイッチを押すと元の画面に戻ります。

ポップアップ画面を表示している時間は自由に設定することができます。(p.86)

電源オン時は、[DISPLAY HOLD]スイッチはオフ(ランプ消灯)になっていますが、ご自分の好みに合わせて設定を切り換えてください。

### VALUE[+]スイッチ、[-]スイッチ、ダイヤル

LCD画面内のセルの値は、フロント・パネルのダイヤルまたは[+]スイッチ、[-]スイッチで設定します。

値を小さく変化させるときは[+]スイッチ、[-]スイッチを使用し、値を大きく変化させるときはダイヤルを使用します。

### 3. フロッピー・ディスク

#### フロッピー・ディスクの種類

フロッピー・ディスクは、2DDまたは2HDの3.5インチのフロッピー・ディスクを使用してください。

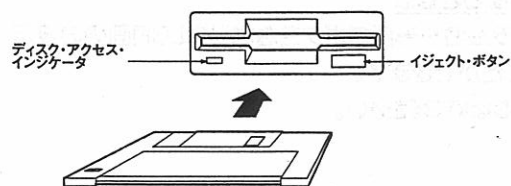
買ってきたばかりのフロッピー・ディスクを、本機で使用する場合には、フォーマットをする必要があります。

2DDのフロッピー・ディスクはMS-DOS 720KByteフォーマット、2HDはMS-DOS 1.44MByteフォーマットで使用してください。

フォーマットの方法についてはp.85を参照してください。

#### フロッピー・ディスクの入れかた

フロッピー・ディスクはラベル面を上にして、フロッピー・ディスク・ドライブに対して、まっすぐに「カチッ」という音がするまで挿入してください。

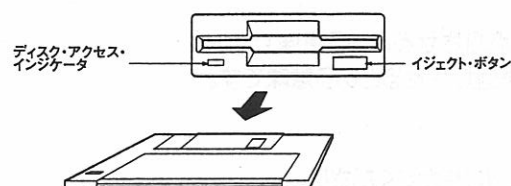


**⚠** フロッピー・ディスクを無理に押し込むと、故障の原因になりますので注意してください。

#### フロッピー・ディスクの取り出しかた

フロッピー・ディスクをディスク・ドライブから取り出すときは、ディスク・アクセス・インジケータが消灯していることを確認してから、イジェクト・ボタンを押して取り出します。ディスク・アクセス・インジケータはフロッピー・ディスクの書き込み、または読み出し時に点灯します。

このボタンを押してもフロッピー・ディスクが出てこないときは、無理にフロッピー・ディスクを取り出さずに、最寄りの楽器店または(株)コルグの営業技術課へご相談ください。



**⚠** ディスク・アクセス・インジケータが点灯しているときは、絶対にフロッピー・ディスクを取り出さないでください。

#### フロッピー・ディスクの取り扱いについて

フロッピー・ディスクを取り扱うときは、次の点に注意してください。磁気ディスクが汚れたり、傷つくと読み出し/書き込みができなくなります。

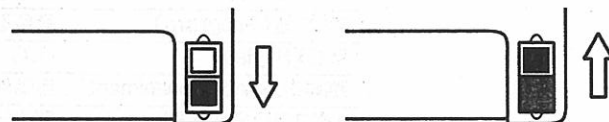
- シャッター部分を開けたり、フロッピー・ディスク内の磁気面に直接触れないでください。
- フロッピー・ディスクを本体のフロッピー・ディスク・ドライブに入れたまま、本機を輸送しないでください。(ヘッドがフロッピー・ディスクを傷つけるため)。
- フロッピー・ディスクをテレビ、ディスプレイ、スピーカー、電源トランスなど磁気を発生する機器に近づけないでください。
- 高温、多湿の場所、直射日光のあたる場所、ゴミやホコリの多い場所で使用、保管しないでください。
- フロッピー・ディスクの上にものをのせないでください。
- ディスク・ドライブの動作中は、本機に衝撃を与えないでください。

#### ライト・プロテクトについて

フロッピー・ディスクには、誤ってデータを消去してしまったり、書き換えてしまうことがないように、「ライト・プロテクト・ホール」という小さな窓がついています。

**書き込み禁止の状態：**  
ライト・プロテクト・ホールが開いた状態になるようにタブを下げます。

**書き込み可能な状態：**  
ライト・プロテクト・ホールが閉じた状態になるようにタブを上げます。



**⚠** セーブしたデータを壊さないように、セーブ後はタブを下げて「書き込み禁止の状態」にしてください。

#### ヘッドのクリーニング

ヘッドが汚れていると、セーブやロード時にエラーが発生する原因になります。このためヘッドは定期的にクリーニングする必要があります。ヘッドのクリーニングには、市販の湿式3.5インチ両面用ヘッド・クリーニング・ディスクを使用してください。クリーニングの方法は、クリーニング・ディスクの取扱説明書をご覧ください。



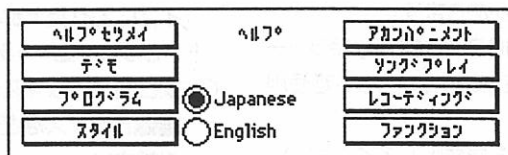
## 4. ヘルプ機能

ヘルプ機能を使用することによって、本機の各機能の簡単な説明をLCD画面で確認することができます。

1

### [HELP]スイッチを押します

[HELP]スイッチのランプが点灯し、LCD画面にヘルプ項目の一覧が表示されます。



2

### 表示する言語を選びます

ヘルプの内容は日本語または英語で表示することができます。日本語で表示するときは“Japanese”ラジオ・ボタンを、英語で表示するときは“English”ラジオ・ボタンを押してください。

#### ヘルプ以外のLCD画面表示の表記を変更するときは

同様の手順でヘルプ画面以外のプログラム名や一部のボタン名などのLCD画面の表示を、英語表記または日本語表記にすることができます。



切り換わり中は、絶対に電源をオフにしないでください。

3

### 項目を選びます

説明を見たい項目をLCD画面のボタンで選んでください。

ヘルプセリメイ (Introduction)	ヘルプ画面の操作と基本機能の説明。
デモ (Demo)	デモを聴く。
プログラム (Program)	音色を変える。
スタイル (Style)	リズム・スタイルを変える。
アカパニメント (Accompaniment)	自動伴奏を使う。
ソングプレイ (Song Play)	SMFデータを聴く。
レコーディング (Recording)	録音する。
ファンクション (Function)	[FUNCTION]の各ページの機能リスト

#### 各項目の画面でのシンボル説明

[ ]内の名称はパネル上のスイッチ名です。

" "内の名称は画面上のボタン名です。

">>"はヘルプのその項目の最初のページです。

"<<"はヘルプのその項目の最後のページです。

"⇄"は前後のページがあります。

"[ ]:ON"はスイッチを押してランプを点灯させるという意味です。

"[ ]:OFF"はスイッチを押してランプを消灯させるという意味です。

4

### ページを進めます

[PAGE ▶]スイッチを使って次のページに進めてください。

#### 他の項目をみるときは

[EXIT]スイッチを押してください。ヘルプ項目の一覧の画面に戻ります。

5

### ヘルプを終了するときは

[HELP]スイッチを押してランプを消すと元の画面に戻ります。

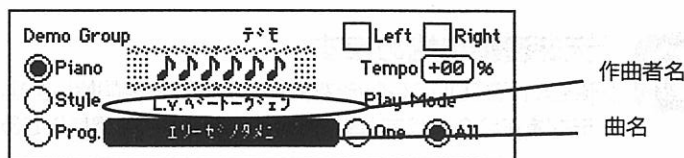
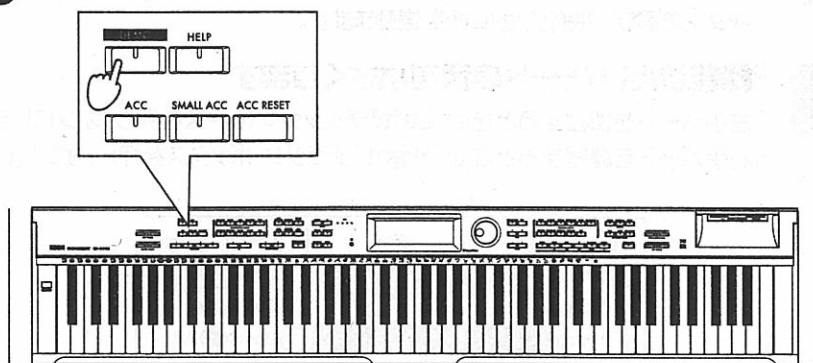
# デモ演奏

## 1. デモ演奏を聴く

本機には、ピアノ曲デモを14曲、スタイル・デモを9曲、音色デモを10曲内蔵しています。デモ演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

### デモ曲を聴くときは

- [DEMO]スイッチを押します**  
[DEMO]スイッチのランプが点灯し、“デモ”ページが表示されます。



- “Demo Group”を選びます**  
デモ曲のグループを“Demo Group”ラジオ・ボタンを押して選びます。

- 曲を選びます**  
“曲名”セルを押して、ダイヤルか[VALUE]スイッチで聴きたい曲を選びます。  
デモ曲の曲名はP.106を参照してください。

**MeMO** “曲名”は次の各スイッチを押して選ぶことができます。

[RHYTHM STYLE GROUP]の中から聴きたいデモ曲のリズム・スタイルのスイッチを押すと“Style”、[PROGRAM GROUP]の中から聴きたいデモ曲のプログラム・グループのスイッチを押すと“Prog”が選ばれ、それぞれのデモ曲が演奏されます。

### 選んだグループの曲をすべて聴くときは

“Play Mode”の“All”ラジオ・ボタンを押したときは、選んだ曲からその“Demo Group”のすべての曲を順番にくり返し演奏します。“One”ラジオ・ボタンを押したときは、選んだ曲だけを演奏します。

- デモ演奏をスタートします**  
[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。

### デモ演奏をストップするとき

演奏をストップするときは、[PLAY/STOP]スイッチを押します。

- 基本画面に戻ります**  
デモ曲を聴き終えたら、演奏を止めて[EXIT]スイッチを押します。  
[DEMO]スイッチのランプが消灯して基本画面に戻ります。

## 2. デモ曲でピアノ演奏の練習をする

“Demo Group”で“Piano”ラジオ・ボタンを選んだときは、デモ曲に合わせて演奏の練習ができる。次の機能が使えます。



“Demo Group”で“Piano”以外のラジオ・ボタンを選んでいるときはこれらの操作はできません。

### 右手と左手を別々に練習するときは

ピアノ・デモ曲は、右手のパートまたは左手のパートの一方のパートをデモ演奏させ、もう一方のパートの音を小さくして、音を小さくしたパートを自分で演奏することができます。

1

#### 練習したい曲を選びます

「デモ曲を聴くときは」の手順1～3を参照して、“Demo Group”で“Piano”ラジオ・ボタンを選び、“曲名”セルで曲を選びます。

2

#### 練習したいパートの音を小さくします

左手パートを練習するときは“Left”チェック・ボックスを押し、オンにします。  
右手パートを練習するときは“Right”チェック・ボックスを押し、オンにします。



3

#### デモ演奏を始めます

[PLAY/STOP]スイッチを押してデモ演奏を開始します。  
デモ演奏に合わせて、音を小さくしたパートを演奏してみましょう。

**MeMO**

音量を小さくしたパートの音量は[ACC VOLUME]スライダーで調節できます。

### デモ演奏のテンポを変えるときは

演奏がむずかしいときにはテンポを遅くして再生し、余裕あるテンポで再生することができます。

1

#### “Tempo”を設定します

“Demo”ページの“Tempo”セルを押してダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定を変更します。“+00%”は元のテンポで、“+”の値にするとテンポが早く、“-”の値でテンポが遅くなります。設定できる範囲は-50%～+50%です。

### デモ演奏を一時停止するときは

1

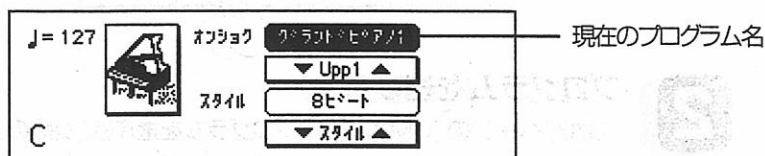
#### 演奏中に[PAUSE]スイッチを押します

演奏中に[PAUSE]スイッチを押すと一時停止します。  
再度[PAUSE]スイッチを押すと続きから演奏を再開します。

# 弾いてみましょう

## 1. 音色を選ぶ

本機には346の音色が10のグループに分かれて内蔵されています。  
これらの各グループに収められているそれぞれの音色を**PROGRAM**（プログラム）といいます。

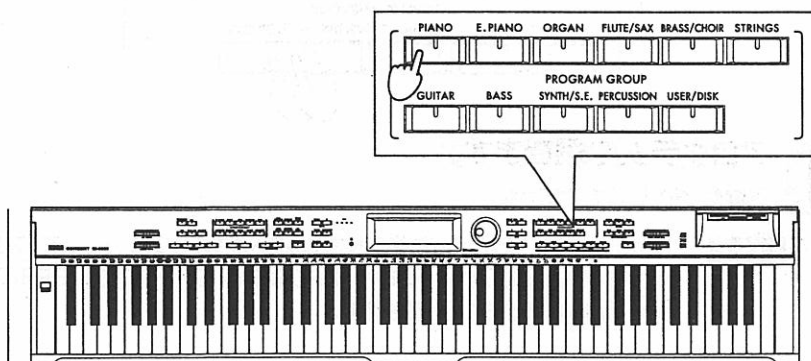


## プログラムを変更するときは

### 1 プログラム・グループを選びます

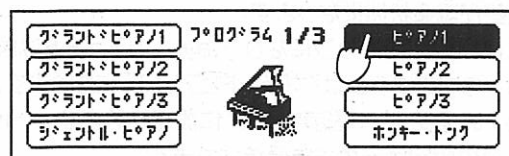
[DISPLAY HOLD]スイッチを押してオンにしてから[PROGRAM GROUP]のいずれかのスイッチを押して、弾きたい音色が収められているプログラム・グループを選びます。LCD画面にポップアップ画面が表示されます。

**MeMO** [DISPLAY HOLD]スイッチを押してオンにしておくと、ポップアップ画面が自動的に閉じません。



### 2 プログラムを選びます

表示されたポップアップ画面から弾きたいプログラム名を押して選びます。  
画面に“1/2”や“2/3”などが表示されているときは、[PAGE ►]スイッチで次のページを表示し、その他のプログラムを選ぶことができます。  
プログラムの内容についてはp.97～の表をご覧ください。



**MeMO** このほかにもプログラムを選ぶ方法があります。

- ・基本画面で“▼ Upp1 ▲”を押します。このときはそのグループ内のプログラムが選べます。
- ・基本画面上の“プログラム”セルを押します。この状態で、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチを押すとグループ内のプログラムが選べます。
- ・基本画面の楽器アイコン（絵）を押すと、そのグループのプログラム一覧のポップアップ画面が表示されます。プログラム名を押して選べます。

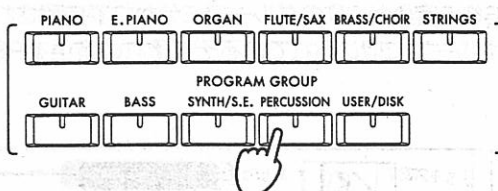
### 3 基本画面に戻ります

[EXIT]スイッチを押し、基本画面に戻ります。鍵盤を弾くと、いま選んだ音で演奏することができます。

## 打楽器の音色を選ぶときは

鍵盤で打楽器の音色を鳴らすことができます。

### 1 [PROGRAM GROUP]の[PERCUSSION]スイッチを押します



### 2 プログラムを選びます

"5/6" ページの "GMキット1" プログラムを選ぶと、鍵盤の上のパネルに描かれているイラストの楽器が鍵盤の各キーに割り当てられます。鍵盤で演奏して確認してください。

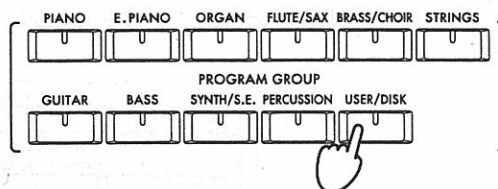
## [USER/DISK]プログラム・グループの音色を選ぶときは

フロッピー・ディスクから読み込んだ音色を演奏することができます。

※p.36「フロッピー・ディスクのプログラムを読み込むときは」

### 1 [PROGRAM GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します

本機に読み込まれているプログラムの一覧が表示されます。



### 2 プログラムを選びます

鍵盤で演奏してください。

**MeMO** フロッピー・ディスクからプログラムを読み込んだ後は、フロッピー・ディスクをフロッピー・ディスクドライブに挿入していなくても、[PROGRAM GROUP]の[USER/DISK]スイッチで音色を選んだり演奏することができます。

## ピアノとして演奏するときは

### 1 [PLAY PIANO]スイッチを押します

[PLAY PIANO]スイッチを押すと、以下の設定になります。簡単にピアノとして使えるようになります。

- ・ 全鍵盤が鳴る状態になります。  
SPLIT、LAYERがオフになり "KeyL" のミュートは解除されます。(※p.23、24、39)
- ・ Upp1 のプログラムは "グランドピアノ1" になります。
- ・ Upp1 のオクターブ設定が "0" に設定されます。(※p.81)  
その他の設定は元のまま保持されます。

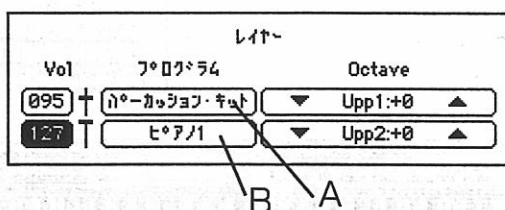
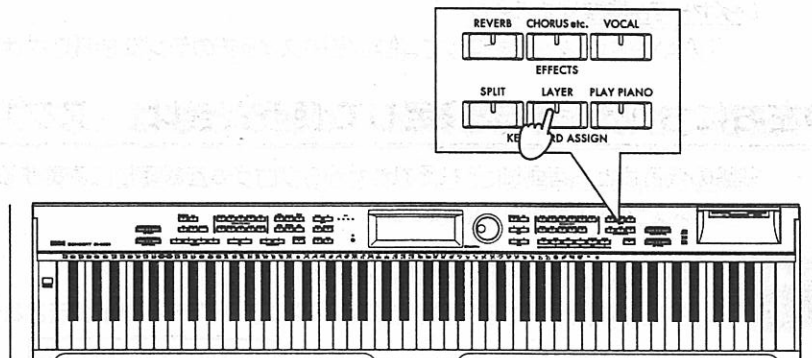


## 2. プログラムを組み合わせる

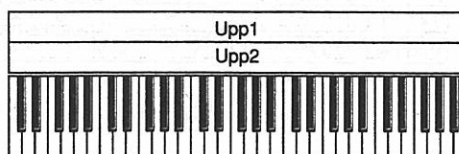
### 2つの音色を組み合わせて演奏するときは(レイヤー機能)

1つの鍵盤を弾いたときに、2つのプログラムを重ねて同時に鳴らすことができます。これをレイヤー機能といいます。

- 1** [LAYER]スイッチを押します  
[LAYER]スイッチのランプが点灯し、“レイヤー”ページが表示されます。

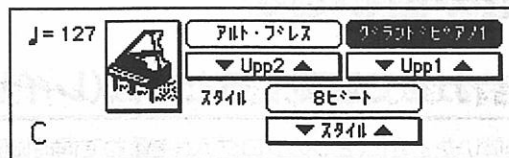


- 2** それぞれのプログラムを選びます  
“Upp1”のプログラムを選ぶにはAのセルを、“Upp2”のプログラムを選ぶにはBのセルを押してからプログラムを選びます。☞p.21「音色を選ぶ」



**MeMO** 同時発音数は32音です。“グランドピアノ1”等のプログラムを選んでいるときは21音になります。☞p.91「故障とお思いになる前に」

- 3** それぞれの音量のバランスを調節します  
“Vol” (ボリューム) セルの値をダイヤルまたは[VALUE]スイッチで調節します。  
設定できる音量は0(最小)～127(最大)です。
- 4** それぞれの音色のオクターブを設定します  
鍵盤で演奏する音程をそれぞれのプログラムで、1オクターブずつ変更することができます。“Octave”セルの“▲”または“▼”を押して、値を変更します。  
設定できる範囲は-2、-1、0、+1、+2です。
- 5** 基本画面に戻ります  
[DISPLAY HOLD]スイッチがオンのときは[EXIT]スイッチを押して基本画面に戻ります。  
基本画面に“Upp2”と“Upp1”のプログラム名が表示されます。



この画面でも“▼ Upp2 ▲”、“▼ Upp1 ▲” ボタンを押して、それぞれのプログラムを変更することができます。

#### レイヤーを解除するときは

[LAYER]スイッチを押して、[LAYER]スイッチのランプを消灯させます。

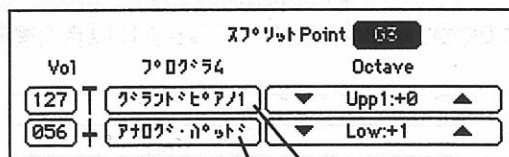
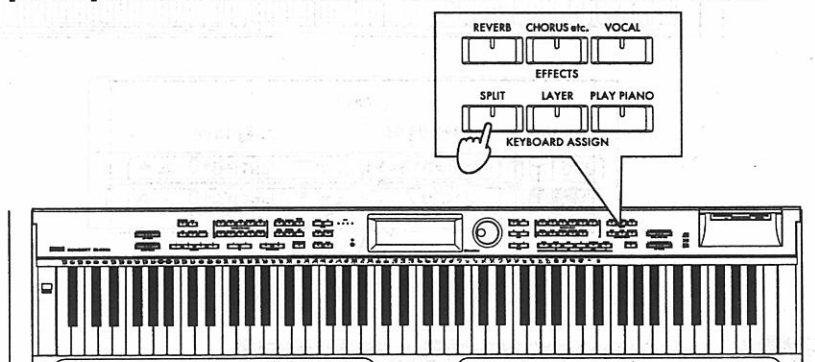
## 鍵盤の左右にちがう音色を設定して使うときは（スプリット機能）

鍵盤の低音側と高音側に、それぞれちがうプログラムを設定して演奏することができます。これをスプリット機能といいます。

**1**

### [SPLIT]スイッチを押します

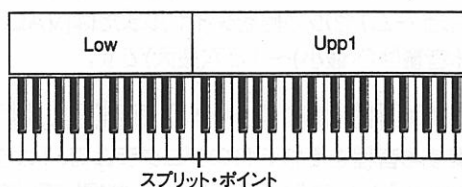
[SPLIT]スイッチのランプが点灯し、“スプリット”ページが表示されます。



**2**

### それぞれの音色を選びます

Upp1（高音側）を変更するにはAのセルを、Low（低音側）を変更するにはBのセルを押してから音色を選びます。→p.21「音色を選ぶ」



**3**

### それぞれの音量のバランスを調整します

“Vol”（ボリューム）セルの値をダイヤルまたは[VALUE]スイッチで調整します。設定できる音量は0(最小)～127(最大)です。

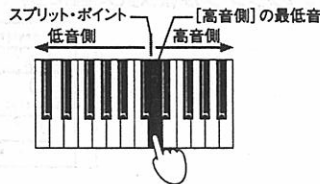
## 4

### それぞれの音色のオクターブを設定します

鍵盤で演奏する音程をそれぞれの音色で、1オクターブずつ変更することができます。  
 "Octave"セルの"▲"または"▼"を押して、値を変更します。  
 設定できる範囲は-2、-1、0、+1、+2です。

#### 境目にしたい鍵盤を変更するときは

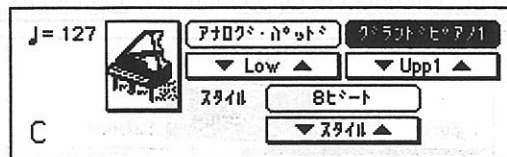
境目にする鍵盤(スプリット・ポイント)を変更するには、"Point"セルを押してダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定をします。または[SPLIT]スイッチを押しながら、境目にしたい鍵盤を押します。押した鍵盤は高音側になります。



## 5

### 基本画面に戻ります

[DISPLAY HOLD]スイッチがオンのときは[EXIT]スイッチを押して基本画面に戻ります。  
 基本画面に"Low"と"Upp1"のプログラム名が表示されます。



この画面でも"▼ Low ▲"、"▼ Upp1 ▲"ボタンを押して、それぞれのプログラムを変更することができます。

#### スプリットを解除するときは

[SPLIT]スイッチを押して、[SPLIT]スイッチのランプを消灯させます。

### 3. 音色に効果を加える

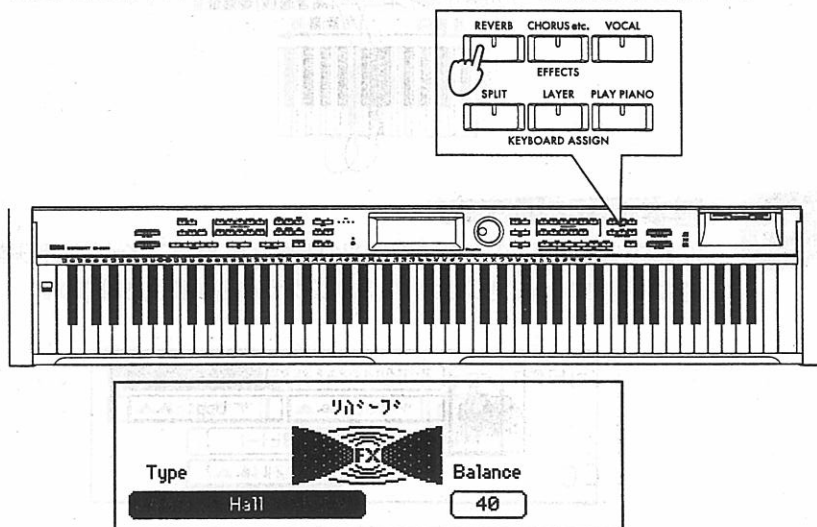
#### 音に残響効果を加えるときは

選んだ音色に残響と深みを加え、コンサート・ホールなどいろいろな空間で演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

1

#### [REVERB]スイッチを押します

[REVERB]スイッチのランプが点灯し、音にリバーブ効果がかかります。



2

#### リバーブ・タイプを選びます

"Type"セルを押してダイヤルまたは[VALUE]スイッチで変更します。

#### リバーブ・タイプ一覧

1	Pedal Simulat	ピアノの共鳴効果がかかります。 ペダルを踏むと効果が大きくなります。
2	Hall	小さなコンサート・ホールの臨場感を再現するリバーブ
3	Ensemble Hall	大きなホールの臨場感を再現するリバーブ
4	Concert Hall	初期反射音を強調したリバーブ
5	Room	室内の臨場感を再現するリバーブ
6	Large Room	大きめの室内の臨場感を再現するリバーブ
7	Live Stage	ライブ演奏のようなリバーブ
8	Wet Plate	重めのプレート・リバーブ
9	Dry Plate	軽めのプレート・リバーブ
10	Spring Reverb	スプリング・リバーブ
11	Early Ref1	残響音の初期反射音部分だけを再現するリバーブ
12	Early Ref2	初期反射音がゆっくりと消えていくリバーブ
13	Early Ref3	初期反射音が増えていくリバーブ

3

#### リバーブのかかり具合を調節します

"Balance"セルを押してダイヤルまたは[VALUE]スイッチで調節します。  
設定できるバランス量はDry(効果なし)、01～99、Fx(最大)です。

4

#### 基本画面に戻ります

[DISPLAY HOLD]スイッチがオンのときは[EXIT]スイッチを押して基本画面に戻ります。

#### リバーブ効果を止めるときは

[REVERB]スイッチを押して、[REVERB]スイッチのランプを消灯させます。

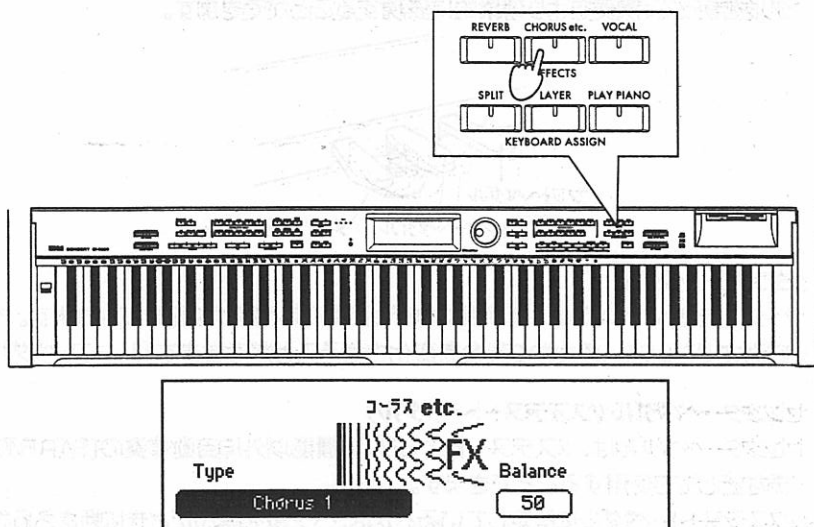
#### 音に変化などの効果を加えるときは

選んだ音色に、うねりを加えて広がりのある豊かなサウンドや、ひずみを加えて迫力のあるサウンドにします。これをエフェクト効果といいます。

1

**[CHORUS etc.] スイッチを押します**

[CHORUS etc.]スイッチのランプが点灯し、音にコーラスなどのエフェクト効果がかかります。



2

**エフェクト・タイプを選びます**

"Type" セルを押してダイヤルまたは[VALUE] スイッチで変更します。

**エフェクト・タイプ一覧**

1	Stereo Delay	ステレオ・ディレイ
2	Cross Delay	左右チャンネル間を行き来するディレイ
3	Dual Delay	左右チャンネルに別々のモノ・ディレイ
4	Multitap Dly1	1回の音が2回の音になり繰り返します
5	Multitap Dly2	同上で2回の音の間隔が異なります
6	Multitap Dly3	同上
7	Chorus 1	左右チャンネルに逆位相のステレオ・コーラス
8	Chorus 2	左右チャンネルに同位相のステレオ・コーラス
9	Quad Chorus	左右チャンネルの位相が90度ずれたコーラス
10	XOver Chorus	クロスオーバー効果
11	Harmonic Cho.	ベースなど低い音に効果的なコーラス
12	Symphonic Ens	ストリングスに効果的なコーラス
13	Flanger 1	左右チャンネルに同位相でモジュレーション
14	Flanger 2	左右チャンネルに逆位相でモジュレーション
15	XOver Flanger	逆位相で変調しますが、相互にフィードバック
16	Exciter	音自体にメリハリを持たせ音の輪郭をハッキリさせます
17	Enhancer	音に広がり感を与えます
18	Distortion	ハードでソリッド・ステートなひずみ
19	Overdrive	あたたかみのあるチューブ・アンプのひずみ
20	Phaser 1	左右チャンネルに逆位相の変調
21	Phaser 2	左右チャンネルとも同位相で変調
22	Rotary Speakr	ロータリー・スピーカーのサウンド
23	Auto Pan	音像がステレオでパンニングしているような効果
24	Tremolo	トレモロ効果

3

**効果のかかり具合を調節します**

"Balance" セルを押してダイヤルまたは[VALUE] スイッチで調節します。  
設定できるバランス量はDry(効果なし)、01～99、Fx(最大)です。

4

**基本画面に戻ります**

[DISPLAY HOLD]スイッチがオンのときは[EXIT] スイッチを押し基本画面に戻ります。

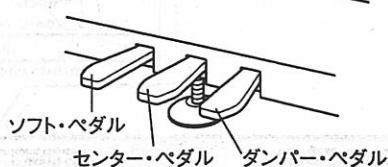
**効果を止めるときは**

[CHORUS etc.] スイッチを押して、[CHORUS etc.]スイッチのランプを消灯させます。



## 4. ペダルを使う

本機にはダンパー、センター（ソステヌート）、ソフトの3つのペダルがあります。これらのペダルを使って、演奏をより効果的に表現することができます。



### ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

### センター・ペダル（ソステヌート・ペダル）

センター・ペダルは、ソステヌート・ペダルの機能以外に自動伴奏の[START/STOP]スイッチなどとして使用することができます。

ソステヌート・ペダルに設定しているときは、ペダルを踏んだときに押さえられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に、新たに弾いた異なる音には、ダンパー効果はかかりません。

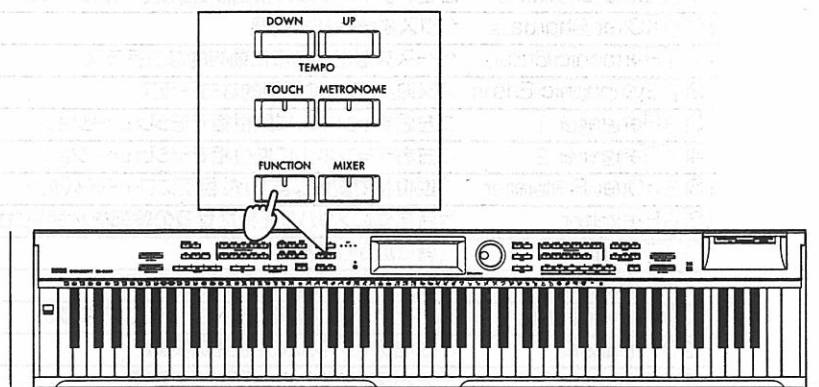
### ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

## レイヤー、スプリット時のダンパー・ペダルの設定

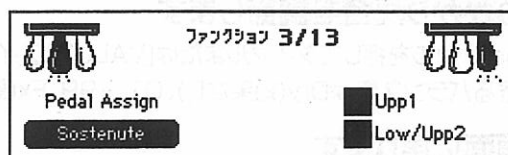
レイヤー機能またはスプリット機能を使用しているときに、ダンパー・ペダルによる効果を2つの音色の両方または、いずれかにかけるかを設定します。

### 1 [FUNCTION] スイッチを押します



### 2 ペダル設定画面を表示します

[PAGE ▶]スイッチを2回押して、“ファンクション 3/13” ページを表示します。



### 3 設定を変更します

“Upp1” チェック・ボックスをオフにすると、Upp1 にダンパーがかからなくなります。

“Low/Upp2” チェック・ボックスをオフにすると、Upp2 または Low にダンパーがかからなくなります。

4

**基本画面に戻ります**

[EXIT]スイッチを押し基本画面に戻ります。

**センター・ペダルの機能を変更するときは**

センター・ペダルはソステヌート以外にいろいろな機能を設定することができます。

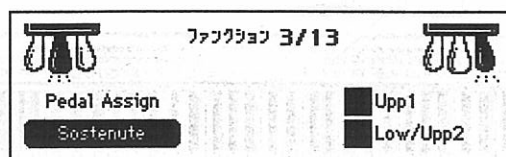
1

**[FUNCTION]スイッチを押します**

2

**ペダル設定画面を表示します**

[PAGE ▶]スイッチを2回押して、“ファンクション 3/13”ページを表示します。



3

**“Pedal Assign”セルを設定します**

センター・ペダルで使用したい機能を、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

Sostenute	グランドピアノの中央のソステヌート・ペダルの機能
Start/Stop	[START/STOP]または[PLAY/STOP]スイッチ
Sync Start	[SYNCHRO START/STOP]スイッチと同じ機能
Acc Reset	[ACC RESET]スイッチと同じ機能
Intro/Ending1	[INTRO/ENDING1]スイッチと同じ機能
Intro/Ending2	[INTRO/ENDING2]スイッチと同じ機能
Fill1	[FILL1]スイッチと同じ機能
Fill2	[FILL2]スイッチと同じ機能
Variation 1	[VARIATION1]スイッチと同じ機能
Variation 2	[VARIATION2]スイッチと同じ機能
Variation 3	[VARIATION3]スイッチと同じ機能
Variation 4	[VARIATION4]スイッチと同じ機能
Bass Inversion	[BASS INVERSION]スイッチと同じ機能
Scale Change	“Main Scale”と“Sub Scale”を切り替える(※p.82)
Variation Up	次のバリエーションを選択
Variation Down	前のバリエーションを選択
Reverb On/Off	[REVERB]スイッチのオン、オフ
Effect On/Off	[CHORUS etc.]スイッチのオン、オフ
Drum Mute	自動伴奏のDRUMパートのミュート(※p.43)
Perc. Mute	自動伴奏のPERC.パートのミュート(※p.43)
Bass Mute	自動伴奏のBASSパートのミュート(※p.43)
Acc1 Mute	自動伴奏のACC1パートのミュート(※p.43)
Acc2 Mute	自動伴奏のACC2パートのミュート(※p.43)
Acc3 Mute	自動伴奏のACC3パートのミュート(※p.43)
Tap Tempo	[TAP TEMPO]スイッチと同じ機能
Fade In/Out	[FADE IN/OUT]スイッチと同じ機能
Ensemble	[ENSEMBLE]スイッチと同じ機能
Quarter Tone	中近東音楽に使います。ペダルがオンの間に押された鍵盤の音名のピッチを+50セントにする。鍵盤を2度押すと-50セント、解除はもう一度ペダルを押す。

4

**基本画面に戻ります**

[EXIT]スイッチを押し基本画面に戻ります。

## 5. メトロノームに合わせて演奏する

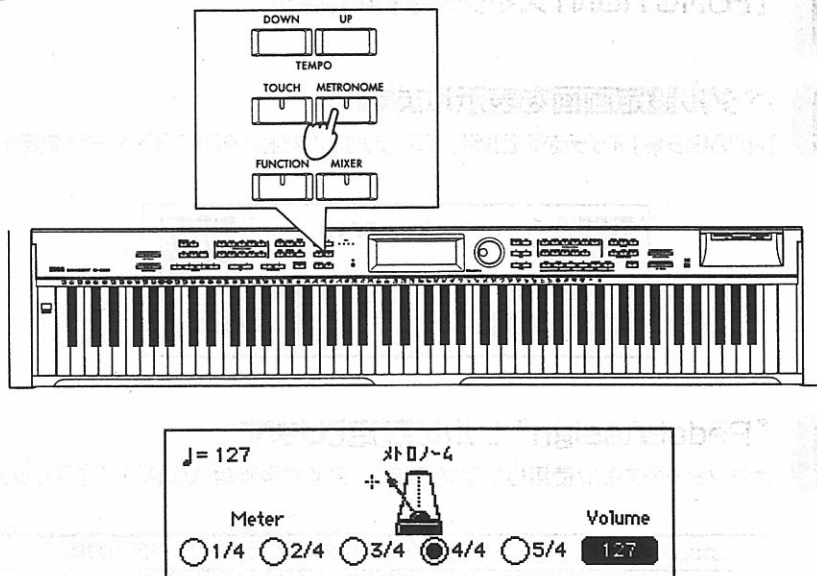
正確なテンポに合わせて演奏するとき、メトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります。

### メトロノームを鳴らすときは

1

#### 【METRONOME】スイッチを押します

【METRONOME】スイッチのランプが点灯し、メトロノームがスタートします。



#### 拍子を設定するときは

“Meter” ラジオ・ボタンを押して拍子を選びます。  
設定できる拍子は、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4です。  
“1/4” を選ぶと拍子が無い設定になります。

#### 音量を調節するときは

“Volume” セルを押して、ダイヤルまたは【VALUE】スイッチで調節します。  
設定できる音量は0(最小)～127(最大)です。

**MeMO** 電源をオンにした直後は、テンポ“127”、拍子(“Meter”)“4/4”、音量(“Volume”)“127”に設定されます。

2

#### 基本画面に戻ります

【DISPLAY HOLD】スイッチがオンのときは【EXIT】スイッチを押し基本画面に戻ります。

#### メトロノームをストップするときは

メトロノームをストップするときは、もう一度【METRONOME】スイッチを押します。  
【METRONOME】スイッチのランプが消灯しメトロノームがストップします。

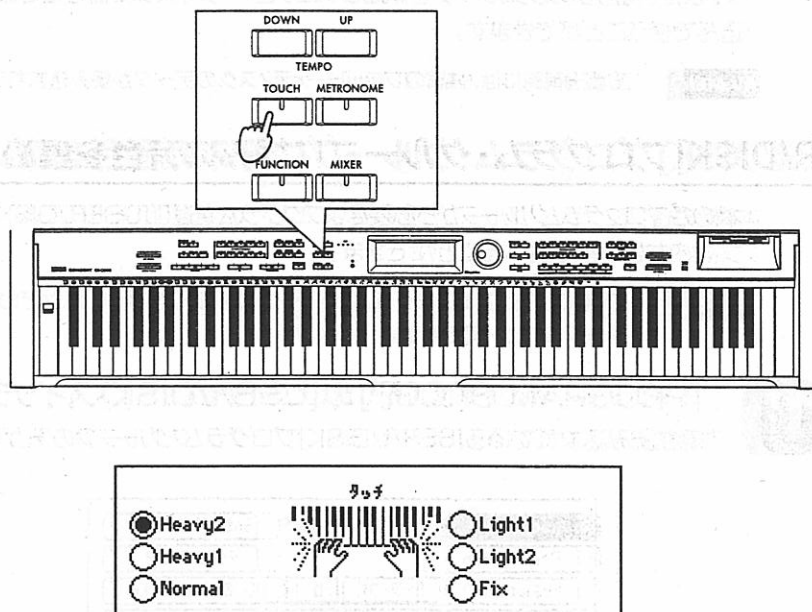
### テンポを調節するときは

基本画面の左上に表示されるテンポ表示を【TEMPO UP】または【TEMPO DOWN】スイッチで調節します。または【TAP TEMPO】スイッチを押してテンポを設定します。  
設定できる範囲は、♩=40～240です。(p.42)

## 6. 鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによって音の強弱が変化する度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。

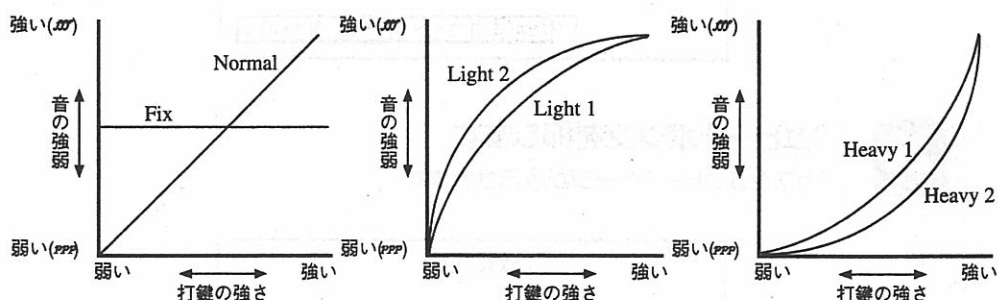
### 1 [TOUCH] スイッチを押します



### 2 タッチを選びます

"Light2" がもっとも軽いタッチで、"Heavy2" がもっとも重いタッチになります。"Normal" が標準です。"Fix" は、タッチの変化がなくなりオルガンなどの音色の演奏に適しています。

Light1、2	弱く弾いても強音が出せるタッチです。(軽いタッチ)
Normal	通常のピアノ・タッチです。
Heavy1、2	強く弾かないと強音が出せないタッチです。(重いタッチ)
Fix	打鍵の強さによる変化がなくなります。 オルガンなどの音色の演奏に適しています。



この機能では鍵盤自体の重さは変わりません。

### 3 基本画面に戻ります

[DISPLAY HOLD]スイッチがオンのときは[EXIT]スイッチを押し基本画面に戻ります。

**MeMO** この設定は"ファンクション 10/13"ページの"Setup"で"ライト"することにより本体に記憶でき、電源をオンするたびにその設定になります。(p.84)

## 7.[USER/DISK]プログラム・グループを使う

プログラムを演奏しやすいように並べ替えたり、自分の良く使うプログラムだけ集めたプログラム・グループを作るときに[USER/DISK]プログラム・グループを使います。64のプログラムを1つのグループにまとめてフロッピー・ディスクに保存することができます。また、何通りかのグループを作成しフロッピー・ディスクに保存しておく、何度でも読み込んで使うことができます。

**MeMO** 工場出荷時には、付属のフロッピー・ディスクのデータが読み込まれています。

### [USER/DISK]プログラム・グループに好みの音色を集めるときは

本機の各プログラム・グループから必要なプログラムを選び[USER/DISK]プログラム・グループに好きな順番で並べることができます。

**MeMO** [PERCUSSION]プログラム・グループにある“GMキット1”などのドラムキットは“9/9”ページにコピーできます。

1

#### [PROGRAM GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します

現在読み込まれている[USER/DISK]プログラム・グループの一覧が表示されます。

Ambipiano	7°プログラム 1/9	SoftEP/Pad
Respiano		Reed EP
FusionEP	セーブ	BuzzBassEP
Click EP	カスタム	Syn Piano

2

#### コピー先のプログラムを選びます

コピー先のプログラム名を押します。

ここで選んだプログラムが手順5で選んだプログラムに置き換えられます。

書き込みを実行すると、ここで選んだプログラムは消えてしまいます。

3

#### “カスタム” ボタンを押します

“カスタムプログラム” ページが表示されます。

カスタムプログラム			
リネーム	コピー	ライト	キャンセル

4

#### “コピー” ボタンを押します

“カスタムコピー” ページが表示されます。

カスタムコピー			
Source Prog			
ヒアノ1	コピー	キャンセル	

5

#### コピー元のプログラムを選びます

手順2で選んだプログラムにコピーするプログラムを選びます。通常のプログラム選択と同様に選びます。(p.21)

**MeMO** フロッピー・ディスクからも選ぶことができます。フロッピー・ディスクからプログラムを選ぶときは、後で説明する“ロード1プログラム”を使います。



## 6 “コピー” ボタンを押します

プログラムがコピーされ、“カスタムプログラム” ページに戻ります。

### プログラム名を変更するとき

プログラム名を変更するときは、書き込む前に“リネーム” ボタンを押してプログラム名を変更してください。☞「プログラム名を変更するとき」

## 7 プログラムを書き込みます

このプログラムでよければ、“ライト” ボタンを押して書き込みをしてください。

❗ 書き込み中は、絶対に電源をオフにしないでください。

### 書き込みをやめるときは

書き込みをしないで“キャンセル” ボタンを押すと、コピーした内容はなくなり元のプログラムにもどります。LCD画面は基本画面に戻ります。

## 8 他のプログラムも変更します

手順1～7を繰り返して、[USER/DISK]プログラム・グループに必要なプログラムを集めます。

## 9 フロッピー・ディスクに保存します

自分で作った[USER/DISK]プログラム・グループを、フロッピー・ディスクに保存しておきましょう。☞p.34「フロッピー・ディスクに保存するとき」

❗ 書き込み中は、絶対にフロッピー・ディスクを抜いたり、電源をオフにしないでください。

**MeMO** ここで作成したプログラム・グループは電源を切ってもその状態で残っていますが、フロッピー・ディスクに保存することをお勧めします。

## プログラム名を変更するときは

[USER/DISK]プログラム・グループのプログラムを“ライト” するときにプログラム名を変更することができます。“リネーム” ボタンを押してプログラム名を変更してください。

### 1 “リネーム” ボタンを押します

“リネーム” ボタンを押すと、“リネーム” ページが表示されます。



### 2 文字を選びます

ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで1文字目を選びます。

### 3 1文字目を決定します

“セット” ボタンを押して1文字目を決定します。

### 4 次の文字を選びます

手順2、3と同じように文字を選んでプログラム名をつけます。

プログラム名は16文字まで使うことができます。

### 修正したいときは

“←”、“→” ボタンを使って修正したい文字にカーソルを移動します。

文字を消したいときは“デリート” ボタンを押すと、カーソルの位置の文字を消すことができます。文字を挿入したいときは“インサート” ボタンを押すと、カーソルの位置に選んでいる文字を挿入できます。

## 5 プログラム名を決定します

プログラム名をすべて入力したら“リターン”ボタンを押して元の画面に戻ります。

### フロッピー・ディスクから1プログラムずつ読み込むときは

フロッピー・ディスクから使用する1音色を選び、[USER/DISK]プログラム・グループに読み込むことができます。

**1** [PROGRAM GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します  
現在読み込まれている[USER/DISK]プログラム・グループの一覧が表示されます。

**2** “ロード1”ボタンを押します  
“ロード1プログラム”ページが表示されます。

ロード1プログラム <input type="checkbox"/> Drum Prog	
Source Disk	Destination
Prog. 00:Samplepiano	00:Ambipiano
File SAMPLE.PRO	ロード キャンセル

**3** フロッピー・ディスクを挿入します  
フロッピー・ディスク・ドライブに読み込みたいプログラムが記録されているフロッピー・ディスクを入れます。


**4** コピー元のプログラム・ファイルを選びます  
“Source Disk”の下の“File”セルを押します。  
プログラムが入っているファイル名をダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

**5** コピー元のプログラムを選びます  
“Source Disk”の下の“Prog.”セルを押します。コピーするプログラム名をダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

**MeMO** ドラムのプログラムのときは、“Drum Prog”チェック・ボックスを押してオンにします。このときは選択できるプログラム名は2つだけになります。

**6** コピー先のプログラムを選びます  
“Destination”セルを押して、[USER/DISK]プログラム・グループの中からコピー先を選びます。  
ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

**7** “ロード”ボタンを押します  
手順5.で選んだプログラムが本機に読み込まれ、基本画面に戻ります。

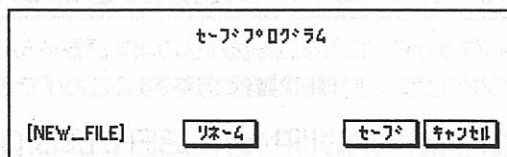
 ロード中は、絶対に電源をオフにしないでください。

### フロッピー・ディスクに保存するときは

本機に読み込まれている[USER/DISK]プログラム・グループのプログラムをフロッピー・ディスクに保存します。

**1** [PROGRAM GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します  
現在読み込まれている[USER/DISK]プログラム・グループの一覧が表示されます。

**2** “セーブ”ボタンを押します  
“セーブプログラム”ページが表示されます。



LCD画面の左下の[...]に保存するファイル名が表示されます。

**MeMO**

ファイル名を変更するときは「リネーム」ボタンを押してファイル名を変えてください。☞「ファイル名を変更するときは」

### 3 フロッピー・ディスクを挿入します

空き容量のあるフロッピー・ディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに入れてください。新しいフロッピー・ディスクを使うときは、あらかじめフォーマットしておいてください。(p.85)

### 4 “セーブ” ボタンを押します

“セーブ” ボタンを押すとフロッピー・ディスクに保存を開始します。保存が終了すると、“保存しています”のメッセージが消えて、基本画面に戻ります。

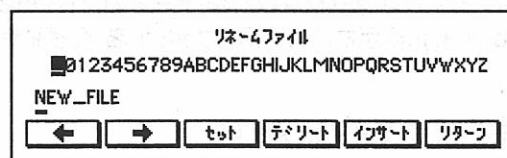
**⚠** 保存中は絶対にフロッピー・ディスクを抜いたり、電源をオフにしないでください。

## ファイル名を変更するときは

プログラム・グループのファイルを“セーブプログラム”ページでファイル名を変更することができます。“リネーム”ボタンを押してファイル名を変更してください。

### 1 “セーブプログラム” ページで“リネーム” ボタンを押します

“リネーム” ボタンを押すと、“リネームファイル” ページが表示されます。



### 2 文字を選びます

ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで1文字目を選びます。

### 3 1文字目を決定します

“セット” ボタンを押して1文字目を決定します。

### 4 次の文字を選びます

手順1、2と同じように文字を選んでファイル名をつけます。ファイル名は8文字まで使うことができます。

#### 修正したいときは

“←”、“→” ボタンを使って修正したい文字にカーソルを移動します。

文字を消したいときは“デリート” ボタンを押すと、カーソルの位置の文字を消すことができます。文字を挿入したいときは“インサート” ボタンを押すと、カーソルの位置に選んでいる文字を挿入できます。

### 5 ファイル名を決定します

ファイル名をすべて入力したら“リターン” ボタンを押して元の画面に戻ります。

## フロッピー・ディスクのプログラムを読み込むときは

フロッピー・ディスクからプログラムを読み込みます。読み込んだプログラムは他のプログラム・グループのプログラムと同様に鍵盤で演奏することができます。

1

### [PROGRAM GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します

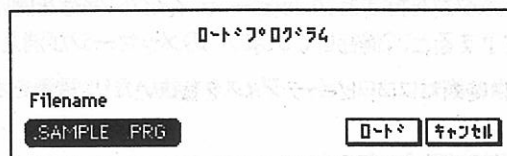
現在読み込まれている[USER/DISK]プログラム・グループの一覧が表示されます。



2

### “ロード” ボタンを押します

“ロードプログラム” ページが表示されます。



3

### フロッピー・ディスクを挿入します

フロッピー・ディスク・ドライブにプログラム・グループが記録されているフロッピー・ディスクを入れてください。

4

### ファイルを選びます

フロッピー・ディスクに記録されているデータのファイル名を選びます。

“Filename” セルに表示されているファイル名を、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

5

### “ロード” ボタンを押します

選んだファイル名のプログラムが本機に読み込まれます。読み込みが終わると基本画面に戻ります。

MeMO

“ロード”を行うと本体内の[USER/DISK]プログラム・グループのデータ(内容)は書き換わってしまいます。もし、元のデータが必要な場合は読み込みをする前にフロッピー・ディスクに保存してください。



ロード中は、絶対に電源をオフにしないでください。



# 自動伴奏

## 1. 自動伴奏を使った演奏

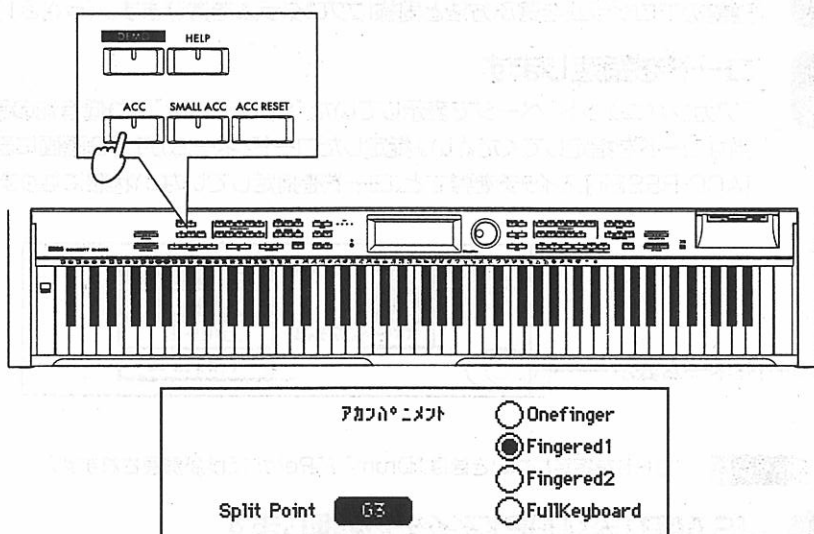
自動伴奏とは、コード(和音)を指定すると、そのコードに合わせた伴奏を自動的に付けてくれる機能です。ピアノ演奏に最適なピアノ音色を中心に使用した[PIANIST](ピアニスト)や、ポップス、ロック、ジャズ、ダンス音楽などのさまざまなスタイルの伴奏が収められています。これら伴奏をリズム・スタイルといい(154種類収録)、9のリズム・スタイル・グループにそれぞれ収められています。

リズム・スタイルは、Drum(ドラム:ポピュラー・ミュージックなどで使用される一般的なドラム・セット)、Perc(パーカッション:ドラム以外の打楽器全般)、Bass(ベース:低音楽器)、Acc1~3(アカンパニメント:一般的な伴奏楽器)という、6つの演奏トラックからできています。

### 自動伴奏を使うときは

#### 1 [ACC]スイッチを押します

[ACC]スイッチのランプが点灯し、「アカンパニメント」ページが表示されます。

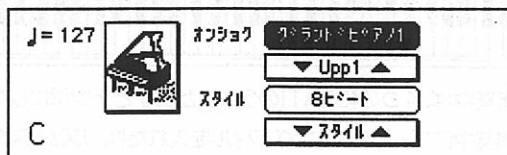


#### 2 コードの指定方法を選びます

コードの指定方法をここで選びます。コード指定方法については「コード指定方法を変更するとき」(p.39)を参照してください。

#### 3 基本画面に戻ります

[EXIT]スイッチを押して基本画面に戻ります。



#### 4 リズム・スタイルを選びます

リズム・スタイル・グループを選びます

[RYTHM STYLE GROUP]のいずれかのスイッチを押してリズム・スタイル・グループを選びます。[PIANIST]スイッチを押すと、ピアノ音色だけの伴奏スタイルが選べます。[USER/DISK]スイッチを押すと、フロッピー・ディスクから読み込んだリズム・スタイルが選べます。



## リズム・スタイルを選びます

表示されたポップアップ画面からリズム・スタイルを押して選びます。

画面に“1/2”や“2/3”などが表示されているときは、[PAGE ►]スイッチで次のページを表示し、その他のリズム・スタイルを選ぶことができます。リズム・スタイルの種類についてはp.100～の表をご覧ください。



### MeMO

このほかにもリズム・スタイルを選ぶ方法があります。

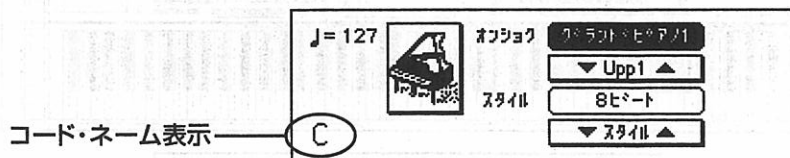
- ・基本画面で“▼ スタイル ▲”ボタンを押します。このときは選ばれているグループ内のリズム・スタイルが選べます。
- ・画面の“スタイル”セルを押します。この状態で、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチを押すと選ばれているグループ内のリズム・スタイルが選べます。

## 5 自分で演奏するパートの音色を選びます

通常のプログラムを選ぶ方法と同様にプログラムを選びます。(p.21)

## 6 コードを指定します

“アカンパニメント”ページで表示していた“Split Point”より低音側の鍵盤を弾いて適当なコードを指定してください。指定したコード・ネームがLCD画面に表示されます。[ACC RESET]スイッチを押すと、コードを指定していない状態になります。

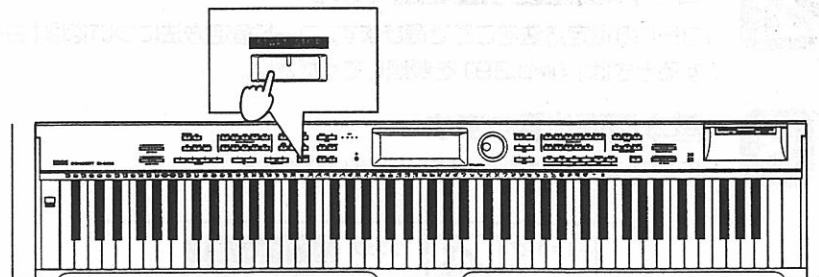


### MeMO

コードを指定しないときは“Drum”、“Perc”だけが演奏されます。

## 7 [START/STOP]スイッチを押します

LCD画面に表示しているコードに合わせた自動伴奏がスタートします。自動伴奏に合わせて演奏してください。



### MeMO

演奏中は、4つの[BEAT]のランプが拍子とテンポにしたがって点灯します。

演奏中にコードを変えたり、フィルを入れたり、リズム・スタイルのバリエーションを変えたり、自分で演奏するパートに自動的にハーモニーを付けることができます。(p.44)

### 自動演奏をストップするには

もう一度[START/STOP]スイッチを押すと、[START/STOP]スイッチのランプが消灯し演奏がストップします。

### MeMO

自動伴奏をスタート/ストップさせる方法は、上記のほかにもあります。

シンクロ・スタート/ストップ、フェード・イン/アウト(p.41)、イントロ/エンディング(p.45)

## コード指定方法を変更するときは

鍵盤でコードを指定する方法は、演奏のレベルや好みによって選べます。

1

### [ACC]スイッチを押します

[ACC]スイッチのランプが点灯し、“アカンパニメント”ページが表示されます。



2

### コード指定方法を選びます

鍵盤でコードを入力する方法を、LCD画面のラジオ・ボタンを押して選びます。

#### “OneFinger” (ワン・フィンガー)

コードの押さえ方を知らなくても簡単に入力できる方法です。スプリット・ポイントの左側の鍵盤でコードの根音(ルート)だけを押すとmajorのコードが指定できます。根音とそれより左側の鍵盤の白鍵を押すと7th、それより左側の黒鍵を押すとminor、両方押すとminor7のコードが指定できます。

#### “Fingered1” (フィンガード1)

コードの押さえ方を知っているときに分かりやすい方法です。スプリット・ポイントの左側の鍵盤で普通のコードの押さえ方で入力できます。ただし、根音だけ押さえたときはmajorのコードが入力されます。分数コードを入力するときは、[BASS INVERSION]スイッチを押します。

#### “Fingered2” (フィンガード2)

フィンガード1と同様ですが、3つ以上の鍵盤を押さないとコードが入力されません。

#### “FullKeyboard” (フル・キーボード)

フィンガード2と同様ですが、コード入力の指定範囲がスプリット・ポイントに関係なく、全鍵盤で行なえます。

### スプリット・ポイントを変更するときは

コード指定方法を“FullKeyboard”以外にしているときは、“Split Point”に表示している音名より左側の鍵盤がコード指定用の鍵盤範囲になります。

“C4”が中央のドの鍵盤です。

“アカンパニメント”ページの“Split Point”セルを選んで、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定します。または[SPLIT]スイッチを押しながら、境目にしたい鍵盤を押します。

### コード指定する鍵盤をミュートするときは

[MIXER]スイッチを押して、“KeyL”チェック・ボックスを押してオンにするとミュートされます。[SINGLE TOUCH]スイッチをオンにしてリズム・スタイルを変えると、リズム・スタイル自体の音色やミュートの設定が呼び出されます。選んだリズム・スタイルにミュートが設定されているときは、自動的にミュートされます。(p.46)

### コード指定する鍵盤のミュートを解除するときは

・[MIXER]スイッチを押した後、“KeyL”チェック・ボックスを押してオフにします。

・[PLAY PIANO]スイッチを押します。



[SPLIT]スイッチが点灯しているときは、左側の鍵盤はミュートできません。

### [BASS INVERSION]スイッチを押したときは

このスイッチを押すと鍵盤でコード指定をするときに弾いた鍵盤のうち一番低い音をベース音として、コードの展開形とは別に認識するようになります。

Am7/GやF/Cなど、ベース音が独立したコードの指定ができます。

## 自動伴奏のスタート/ストップ方法を選ぶときは

自動伴奏をスタート/ストップするにはいくつかの方法があります。

目的にあった方法で演奏してください。

### a. 基本的なスタート/ストップ

**1** **コードを指定します**  
コード指定側の鍵盤を押してコードを指定します。指定したコード・ネームが基本画面に表示されます。

**2** **[START/STOP]スイッチを押します**  
自動伴奏がスタートします。

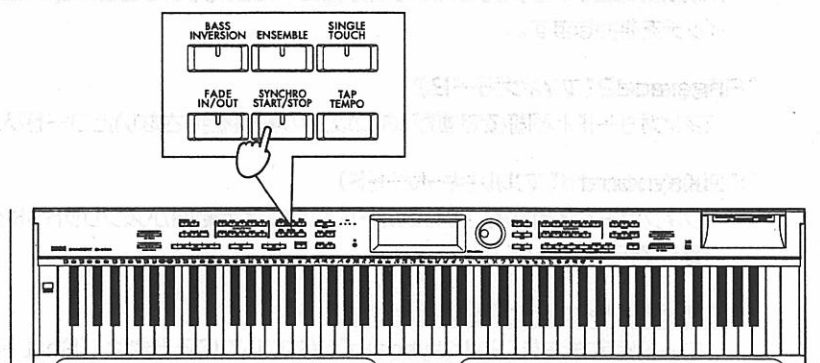
**MeMO** 4つの[BEAT]のランプが拍子に合わせて点灯します。

**3** **[START/STOP]スイッチをもう一度押します**  
自動伴奏がストップします。

### b. シンクロ・スタート、シンクロ・ストップ

鍵盤を押したと同時に自動伴奏がスタートする**シンクロ・スタート**と、鍵盤から手を離れたと同時に自動伴奏がストップする**シンクロ・ストップ**が行えます。

**1** **[SYNCHRO START/STOP]スイッチを押します**  
[SYNCHRO START/STOP]スイッチのランプが点灯します。



**2** **コードを指定すると、演奏が始まります (シンクロ・スタート)**  
※p.39「コード指定の方法を変更するときは」

**3** **演奏中に[SYNCHRO START/STOP]スイッチを押します**

**4** **コード指定側の鍵盤を離すと自動伴奏がストップします (シンクロ・ストップ)**

伴奏をブレイクして、右手や歌のソロを入れたいときに使います。

コードを指定して鍵盤を押すと、伴奏パターンの1拍目から伴奏を開始します。

解除するには、[SYNCHRO START/STOP]スイッチを押してランプが消えた状態にします。

### c. フェード・イン、フェード・アウト

自動伴奏をスタートさせると徐々に音量が大きくなっていくフェード・インと、演奏中の音量から徐々に小さな音量になって自動伴奏がストップするフェード・アウトが行えます。

**1**

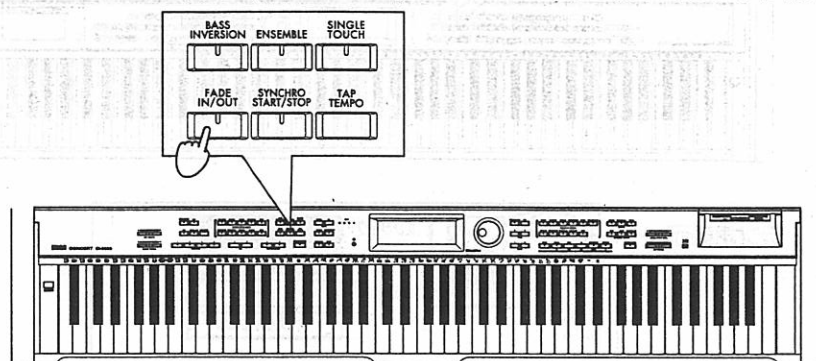
#### コードを指定します

コード指定側の鍵盤を押してコードを指定します。指定したコード・ネームが基本画面に表示されます。

**2**

#### [FADE IN/OUT]スイッチを押します

[FADE IN/OUT]スイッチのランプが点滅し、小さい音で自動伴奏がスタートして徐々に大きくなります。音量が標準になると[FADE IN/OUT]スイッチのランプが消灯します。



**MeMO**

自動伴奏がスタートしていることを確認するには、4つの[BEAT]のランプが拍とテンポに合った点灯しているかどうかで確認することができます。

**3**

#### 演奏中に、[FADE IN/OUT]スイッチを押します

[FADE IN/OUT]スイッチのランプが点滅し、徐々に小さい音になって自動伴奏がストップします。ストップすると[FADE IN/OUT]スイッチと[START/STOP]スイッチのランプが消灯します。

**MeMO**

自動伴奏がストップしたことを確認するには、4つの[BEAT]のランプが消灯しているかどうかで確認することができます。

### d. ペダル・スタート、ペダル・ストップ

センター・ペダルを踏むことによって自動伴奏のスタート、ストップを行えます。

**1**

#### “ファンクション 3/13” ページを表示します

[FUNCTION]スイッチを押した後、[PAGE ▶]スイッチで3ページめを表示します。

**2**

#### “Pedal Assign” の設定を “Start/Stop” にします

センター・ペダルが[START/STOP]スイッチとして使えるようになります。(p.29)

**3**

#### [EXIT]スイッチまたは[FANCTION]スイッチを押します

基本画面に戻ります。

**4**

#### コードを指定します

コード指定側の鍵盤を押してコードを指定します。指定したコード・ネームが基本画面に表示されます。

**5**

#### センター・ペダルを踏みます

センター・ペダル(ピアノではソステヌート・ペダルと呼ばれています)を踏むと、自動伴奏がスタートします。もう一度、センター・ペダルを踏むとストップします。



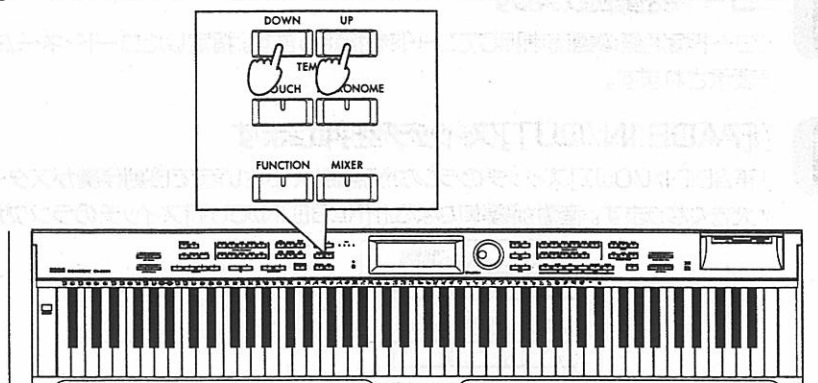
このときは、ソステヌート効果は使えません。

## テンポを変更するときは

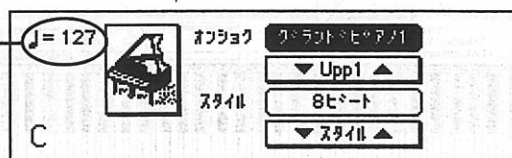
1

### [TEMPO DOWN、UP]スイッチを押します

基本画面のテンポ表示が変わります。演奏データのテンポが変わります。

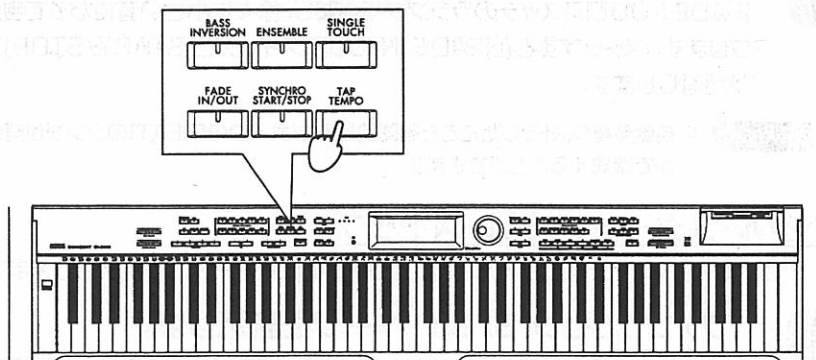


テンポ表示



### リズムに合わせてテンポを変更するときは

リズムに合わせて[TAP TEMPO]スイッチを4回以上押して、テンポを変更することもできます。[TAP TEMPO]スイッチを押すリズムに合ったテンポが設定されます。





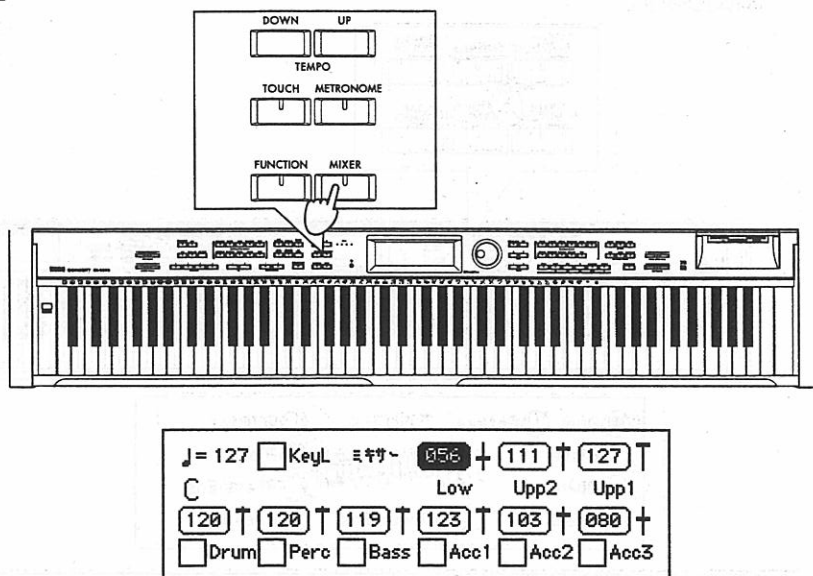
## 全体の音量を調節するときは

[ACC VOLUME]スライダーで自動伴奏と鍵盤演奏の音量のバランスを調節します。  
鍵盤の演奏も含め、全体の音量は[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。

## パートごとに音量を調節するときは

自動伴奏の各パートそれぞれの音量と鍵盤の音量は、[MIXER]スイッチを押して表示する画面で行います。

- 1 [MIXER]スイッチを押します**  
[MIXER]スイッチのランプが点灯し、“ミキサー”ページが表示されます。



- 2 音量を変更するパートを選びます**  
音量を変更するパートの“Vol”セルを押します。  
Upp1:[LAYER]スイッチや[SPLIT]スイッチをオンにしたときのUpper1、または  
[LAYER]スイッチや[SPLIT]スイッチがオフのときの鍵盤の音量  
Upp2:[LAYER]スイッチがオンのときに重ねた音色の音量  
Low:[SPLIT]スイッチがオンのときに、スプリット・ポイントより左側の音色の音量  
Drum、Perc、Bass、Acc1～3:自動伴奏の各パートの音量

- 3 音量を調節します**  
ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで音量を調節します。

## パートをミュートするときは

リズム・スタイルはパートごとにミュート（消音）することができます。

- 1 ミュートするパートの□（チェック・ボックス）を押します**  
チェック・ボックスを押してオンにすると、そのパートの音が鳴りません。

**ミュートを解除するときは**

チェック・ボックスを再度押してオフにするとミュートが解除されます。

## 2. いろいろな自動伴奏の機能

### アンサンブルで演奏するときは

スプリット・ポイントから右側の鍵盤(Upp1)を演奏したメロディー音に、ハーモニーを自動的に付けることができます。

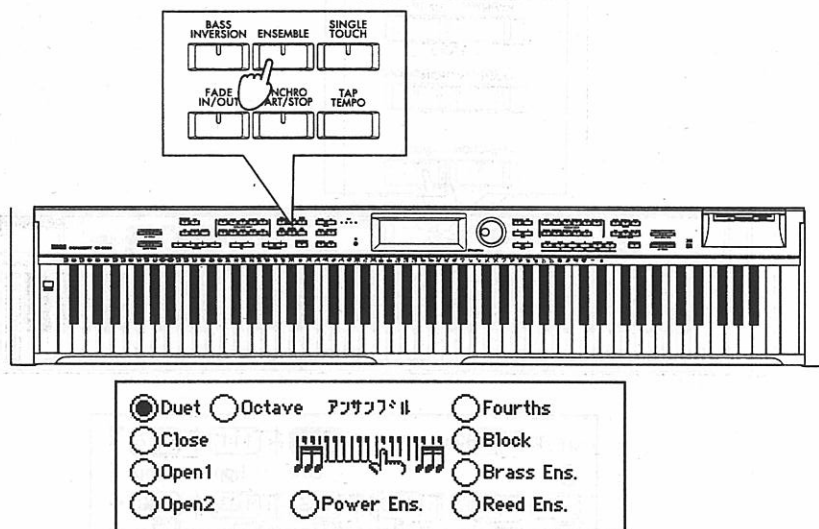


コード指定が“Fullkeyboard”になっているときはこの機能は使えません。

**1**

#### [ENSEMBLE]スイッチを押します

[ENSEMBLE]スイッチを押すと、“アンサンブル”ページが表示されスイッチのランプが点灯します。



Duet	メロディー音が二声になります。
Close	メロディー音より下の近い音域に基本は2音加わり三声(一部3音が加わり四声)になります。
Open1	メロディー音より下の音域に基本は2音加わり三声(一部3音が加わり四声)になります。
Open2	メロディー音より上、下の音域に2音が加わり三声(一部3音が加わり四声)になります。
Octave	メロディー音にオクターブ上、下の2音が付加されます。
Power Ens.	メロディー音の4度下の音とオクターブ下の音が付加され三声になります。
Fourths	メロディー音より4度上の音と短7度上の音が重なり三声になります。
Block	メロディー音に下の3音と1オクターブ下の音が付加され五声になります。
Brass Ens.	メロディー音に下の3音が付加され四声になります。
Reed Ens.	メロディー音の下に“Block”で付加される3音とは転回の異なる和音とメロディー音の1オクターブ下の音が付加され五声になります。

**2**

#### アンサンブルの種類を選びます

ラジオ・ボタンを押して、アンサンブルの種類を選んでください。選んだアンサンブルの種類によってハーモニーの付き方がちがいます。

#### アンサンブル機能をオフにするときは

もう一度、[ENSEMBLE]スイッチを押します。

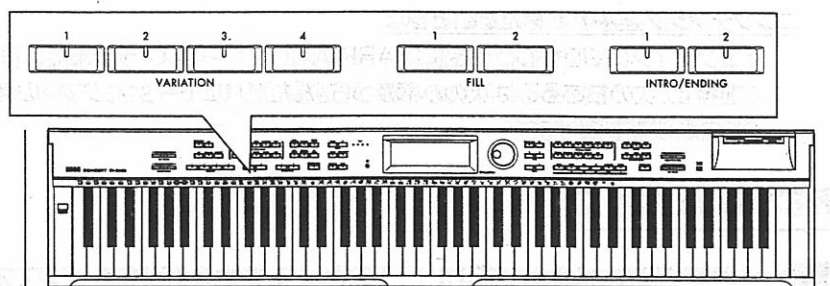
### バリエーションをつけるときは

それぞれのリズム・スタイルには、4つの異なるバリエーションを選ぶことができます。

**1**

#### 自動伴奏している途中で、[VARIATION1～4]スイッチを押します

次の拍または次の小節から、選んだバリエーションに切り替わります。選択されたバリエーションのランプは、演奏がそのバリエーションに切り替わるまで点滅を続けます。



**MeMO** [USER/DISK]リズム・スタイルは“カスタムスタイル 1/2”ページで“After Fill” (p.52)を設定すると、フィルを演奏したあと、自動的に指定したバリエーションに切り替わり、曲の展開に変化をつけることができます。

**MeMO** リズム・スタイルによってバリエーション、イントロ、エンディングの伴奏内容が異なります。

## イントロをつけるときは

自動伴奏の冒頭にイントロを付けることができます。イントロ演奏後、バリエーションの演奏に入ります。

それぞれのリズム・スタイルは、2種類のイントロとエンディングを持っています。

- ・ [INTRO/ENDING 1]では、コード展開が入る凝ったイントロやエンディングが演奏されます。
- ・ [INTRO/ENDING 2]では、コード展開のないシンプルなイントロやエンディングが演奏されます。

### 1 [INTRO/ENDING 1]スイッチまたは[INTRO/ENDING 2]スイッチを押します

押したスイッチのランプが点灯します。このとき、ランプが点滅している[VARIATION 1～4]スイッチは、イントロの後に使用されるバリエーションを示しています。

### 2 [START/STOP]スイッチを押します

イントロの自動伴奏がスタートします。

イントロが終わると、点滅していたバリエーションの演奏に切り替わります。

選んだ[INTRO/ENDING 1、2]スイッチのランプは、イントロの演奏中は点灯し、バリエーションの演奏に入ると消灯します。

#### イントロを繰り返したいときは

イントロ演奏中に同じ[INTRO]スイッチを押すと、そのイントロを繰り返し演奏し続けます。もう一つの[INTRO]スイッチ、または[VARIATION 1～4]スイッチ、[FILL 1、2]スイッチを押すと繰り返しが解除されます。

#### イントロをやめたいときは

自動伴奏をスタートする前は[VARIATION 1～4]スイッチを選んで解除できます。

自動伴奏をスタートした後は[START/STOP]スイッチを押して停止するとイントロの選択が解除されます。(イントロをスタート後は、[VARIATION]スイッチを押しても途中で解除されません。)

## エンディングをつけるときは

### 1 自動伴奏の途中で[INTRO/ENDING 1]スイッチまたは[INTRO/ENDING 2]スイッチを押します

エンディングが演奏され、終了後自動的にストップします。

選んだエンディングのスイッチのランプは、そのエンディングに演奏が切り替わるまで点滅を続けます。エンディングに切り替わった後は、演奏が終わるまで点灯し続けます。エンディングの後に自動伴奏の演奏がストップします。

### エンディングを途中でやめたいときは

エンディングに切り替わった後に[VARIATION1~4]スイッチまたは[FILL1、2]スイッチを押すと、次の拍あるいは次の小節から、選んだバリエーション、フィルの伴奏に切り替わり自動伴奏を続けます。

## フィルをつけるときは

1

自動伴奏の途中で[FILL 1]スイッチまたは[FILL 2]スイッチを押します

フィル(オカズ)が入ります。イントロと同様に、フィルが終わると、点滅していたバリエーションの演奏に切り替わります。

MeMO

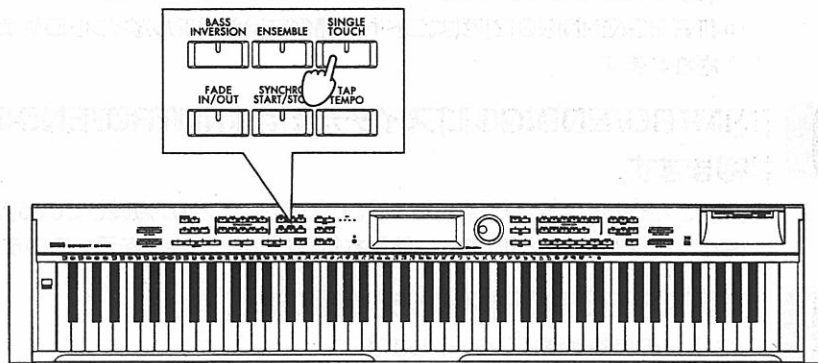
バリエーションからフィルへの切り換えが自然につながるようにタイミングを補正していますが、押すタイミングによっては後ろの部分しか演奏されないこともあるので、押すタイミングに気をつけてください。

## リズム・スタイルといっしょにプログラムを切り換えるときは

1

[SINGLE TOUCH]スイッチを押します

[SINGLE TOUCH]スイッチをオンにしてリズム・スタイルを選ぶと、それぞれのスタイルに適した鍵盤の音色や自動伴奏の設定が自動的に選ばれます。



### 設定されている内容

- ・鍵盤の音色、Upp1、Upp2、Low各パートのパン、ボリューム、オクターブ、音色の設定
- ・[SPLIT]、[LAYER]のオン、オフと“KeyL”チェック・ボックスの状態
- ・コード指定方法の設定
- ・[ENSEMBLE]のオン、オフとそのタイプの設定

## パートを減らした伴奏にするときは

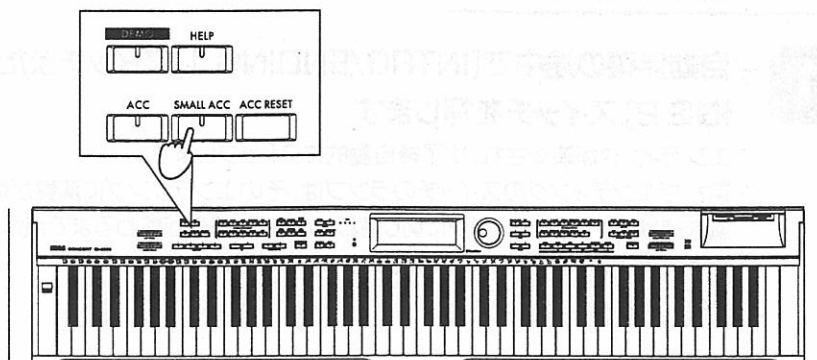
1

[SMALL ACC]スイッチを押します

Acc1とAcc3のパートが自動的にミュートされます。  
通常の伴奏より、パートを減らしたいときに使います。

MeMO

すでに“ミキサー”ページでAcc1、Acc3のパートをミュートしているときや[PIANIST]リズム・スタイルのようにこれらのパートに演奏が無いリズム・スタイルを選んだときは、この機能による効果はありません。



### 3.[USER/DISK]リズム・スタイル・グループを使う

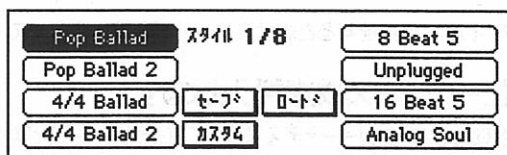
フロッピー・ディスクに記録したリズム・スタイルを使うときやリズム・スタイルを演奏しやすいように並べ替えたり、自分のよく使うスタイルだけを集めたリズム・スタイル・グループを作るときに[USER/DISK]リズム・スタイル・グループを選びます。

**MeMO** 工場出荷時には、付属のフロッピー・ディスクのデータがロードされています。

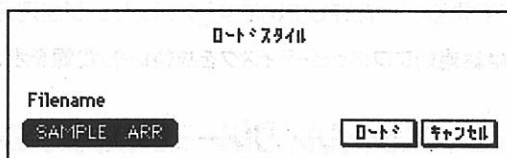
#### フロッピー・ディスクのリズム・スタイルを読み込むときは

フロッピー・ディスクからリズム・スタイルをファイル単位で本機に読み込みます。読み込んだリズム・スタイルは他のリズム・スタイル・グループのスタイルと同様に自動伴奏させることができます。

- 1** [RHYTHM STYLE GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します  
現在読み込まれている[USER/DISK]リズム・スタイル・グループの一覧が表示されます。



- 2** “ロード” ボタンを押します  
“ロードスタイル” ページが表示されます。



- 3** フロッピー・ディスクを挿入します  
フロッピー・ディスク・ドライブにリズム・スタイルの記録されているフロッピー・ディスクを入れてください。
- 4** ファイルを選びます  
フロッピー・ディスクに記録されているファイルの中から読み込むファイルを選びます。  
“Filename” セルに表示されているファイル名を、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。
- 5** “ロード” ボタンを押します  
選んだファイル名のリズム・スタイルが読み込まれます。読み込みが終わると基本画面に戻ります。

**MeMO** “ロード”を行うと本体内の[USER/DISK]リズム・スタイル・グループのデータ(内容)は書き換わってしまいます。もし、本体内のデータが必要なときは読み込みをする前にフロッピー・ディスクに保存してください。

**2** 読み込み中は、絶対に電源をオフにしないでください。

#### 読み込みをやめるときは

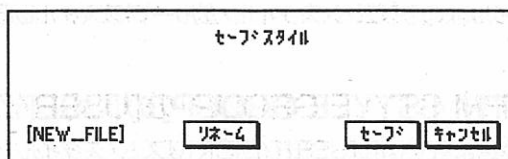
“キャンセル” ボタンを押してください。ファイルを読み込まないで基本画面に戻ります。



## フロッピー・ディスクに保存するときは

本機に読み込まれている[USER/DISK]リズム・スタイル・グループのスタイルをフロッピー・ディスクに保存します。

- 1 [RHYTHM STYLE GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します
- 2 “セーブ” ボタンを押します  
“セーブスタイル” ページが表示されます。




LCD画面の左下の[...]に保存するファイル名が表示されます。

**MeMO** ファイル名を変更するときは“リネーム” ボタンを押してファイル名を変更してください。


- 3 フロッピー・ディスクを挿入します  
空き容量のあるフロッピー・ディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに入れてください。  
新しいフロッピー・ディスクを使うときは、あらかじめフォーマットしておいてください。  
(p.85)

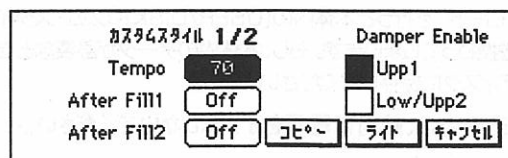
- 4 “セーブ” ボタンを押します  
“セーブ” ボタンを押すと、フロッピー・ディスクに保存を開始します。  
保存が終了すると、“保存しています” のメッセージが消えて、基本画面に戻ります。

 保存中は絶対にフロッピー・ディスクを抜いたり、電源をオフにしないでください。

## [USER/DISK]リズム・スタイル・グループに好みのスタイルを集めるときは

必要なリズム・スタイルを選び、[USER/DISK]リズム・スタイル・グループに好きな順番で並べることができます。

- 1 [RHYTHM STYLE GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します
- 2 コピー先のリズム・スタイルを選びます  
コピー先のスタイル名を押します。ここで選んだリズム・スタイルが手順5で選んだリズム・スタイルに置き換わります。  
 書き込みを実行すると、ここで選んだリズム・スタイルは消えてしまいます。
- 3 “カスタム” ボタンを押します  
“カスタムスタイル 1/2” ページが表示されます。



- 4 “コピー” ボタンを押します  
“カスタムコピー” ページが表示されます。

**5 コピー元のリズム・スタイルを選びます**

手順2で選んだところにコピーするリズム・スタイルを選びます。通常のリズム・スタイルの選択と同様に選びます。(※p.38)

**6 “コピー” ボタンを押します**

リズム・スタイルがコピーされ、“カスタムスタイル 1/2” ページに戻ります。

**リズム・スタイル名を変更するときは**

リズム・スタイル名を変更するときは、書き込みをする前に“リネーム” ボタンを押してスタイル名を変更してください。(※p.54)

**7 “ライト” ボタンを押して、リズム・スタイルを書き込みます**

変更したリズム・スタイルでよければ、“ライト” ボタンを押して[USER/DISK]リズム・スタイル・グループに書き込みます。

書き込みをしないと、コピーは無効になります。他のリズム・スタイルを選ぶとコピー前の設定に戻ります。一度“ライト” ボタンを押して書き込みをすると、元のリズム・スタイルは上書きされ消えてしまいます。



書き込み中は、絶対にフロッピー・ディスクを抜いたり、電源をオフにしないでください。

**8 他のリズム・スタイルも変更します**

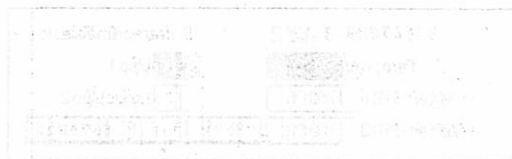
手順1～7を繰り返して、[USER/DISK]リズム・スタイル・グループに必要なリズム・スタイルを集めます。

**9 フロッピー・ディスクに保存します**

自分で作った[USER/DISK]リズム・スタイル・グループを、フロッピー・ディスクに保存しておきましょう。(※p.48「フロッピー・ディスクに保存するときは」)

**MeMO**

ここで集めたリズム・スタイルは電源を切ってもその状態で残っていますが、フロッピー・ディスクに保存することをお勧めします。

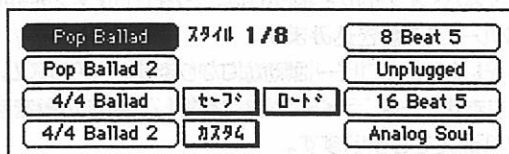


## 4. カスタム・リズム・スタイルの編集

### 自分でリズム・スタイルを作るときは

**1** [RHYTHM STYLE GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押します

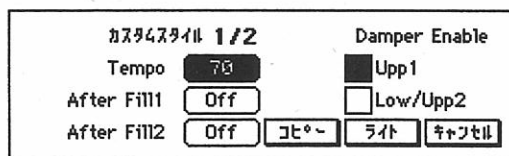
**2** 消してもよいスタイルを選びます  
[RHYTHM STYLE GROUP]の[USER/DISK]スイッチを押し、[USER/DISK]リズム・スタイル・グループの中で、上書きしてもよいリズム・スタイルを押して選びます。



“カスタム” ボタンを押すと、“カスタムスタイル 1/2” ページが表示されます。

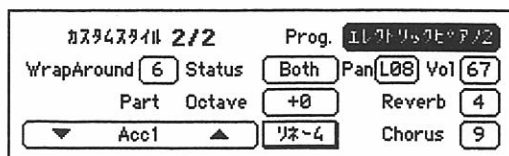
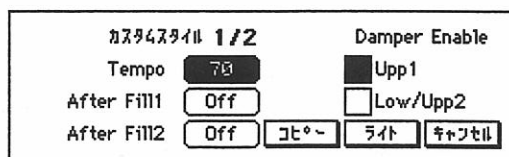
**3** “カスタムスタイル 1/2” ページの“コピー” ボタンを押します  
“カスタムスタイル 1/2” ページの“コピー” ボタンを押すと、“カスタムコピー” ページが表示されます。“Source Style”セルにコピー元になるリズム・スタイルを選びます。

**4** “カスタムコピー” ページの“コピー” ボタンを押します  
“カスタムスタイル” ページの“コピー” ボタンを押すと、元になるリズム・スタイルが一時的なメモリ領域に読み込まれます。  
“カスタムスタイル 1/2” ページが表示されます。



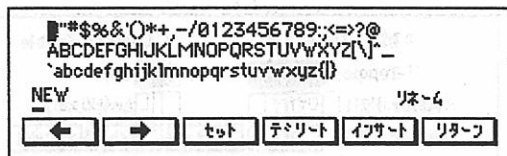
**MeMO** この段階では、まだ前のリズム・スタイルが残っています。“ライト” ボタンを押して初めて書き込まれます。“ライト” ボタンを押さないで他のリズム・スタイルを選んだり、電源をオフにすると元のスタイルに戻ります。

**5** リズム・スタイルを編集します  
“カスタムスタイル” の1/2ページと2/2ページで設定が変更できます。  
設定できる内容はp.52を参照してください



## 6 カスタム・スタイルに名前をつけます

“カスタムスタイル 2/2” ページで“リネーム” ボタンを押すと“リネーム” ページが表示されます。自分編集したリズム・スタイルに名前をつけます。(p.53)



## 7 カスタム・スタイルを本体に記録します

“カスタムスタイル 1/2” ページで“ライト” ボタンを押します。

### 元のスタイルに戻すときは

“ライト” ボタンを押さずに“キャンセル” ボタンを押すと基本画面に戻り、他のリズム・スタイルを選ぶと自分で編集したリズム・スタイルは手順2で選んだデータに戻ります。



ライト中は、絶対に電源をオフにしないでください。

## ○ カスタム・スタイルのパラメーター一覧

### “カスタムスタイル 1/2” ページ

カスタムスタイル 1/2		Damper Enable	
Tempo	70	<input checked="" type="checkbox"/> Upp1	
After Fill1	Off	<input type="checkbox"/> Low/Upp2	
After Fill2	Off	<input type="checkbox"/> コヒ〜	<input type="checkbox"/> ライト <input type="checkbox"/> キックセル

#### “Tempo” セル

リズム・スタイルのテンポを設定します。40～240まで変更することができます。

#### “After Fill1” セル

リズム・スタイルを演奏中に[FILL 1]スイッチを押して、フィル1の演奏が終わったときに、どのバリエーションに変わるかを設定します。

“Off”： フィル1が終わるとフィルを開始する直前に選ばれていたバリエーションに戻ります。

“Var1&2”： フィル1が終わるとバリエーション1とバリエーション2に交互に変わります。

“Var1&3”： フィル1が終わるとバリエーション1とバリエーション3に交互に変わります。

“Var1&4”： フィル1が終わるとバリエーション1とバリエーション4に交互に変わります。

“Var2&3”： フィル1が終わるとバリエーション2とバリエーション3に交互に変わります。

“Var2&4”： フィル1が終わるとバリエーション2とバリエーション4に交互に変わります。

“Var3&4”： フィル1が終わるとバリエーション3とバリエーション4に交互に変わります。

“Var+”： フィル1が終わるとフィルを開始する前に選ばれていたバリエーションの右隣のバリエーションに変わります。バリエーション4の次はバリエーション1になります。

“Var-”： フィル1が終わるとフィルを開始する前に選ばれていたバリエーションの左隣のバリエーションに変わります。バリエーション1の次はバリエーション4になります。

#### “After Fill2” セル

リズム・スタイルを演奏中に[FILL 2]スイッチを押して、フィル2の演奏が終わったときに、どのバリエーションに変わるかを設定できます。内容は“After Fill1”と同様です。

#### “Damper Enable” チェック・ボックス

鍵盤の音色にダンパー・ペダルの効果がかかるかかからないかを、鍵盤のパート別に設定できます。

Upp1： [LAYER]スイッチや[SPLIT]スイッチをオンにしたときのUpper1、または[LAYER]スイッチや[SPLIT]スイッチがオフのときの鍵盤の音色

Low/Upp2： [SPLIT]のときの左側の音色、[LAYER]のときの“Upp1”に重ねる音色



distances

um Date:

IL VALUE

if (cheverr

10



0898

0898

0898

#### **“Prog.” セル**

各パートの音色プログラムを設定します。

#### **“Pan” セル**

各パートのパンニングを設定します。

Off: パートをミュート(消音)します。

L15~L01: 数値が大きいほど左に定位します。

Cnt: 中央に定位します。

R15~R01: 数値が大きいほど右に定位します。

Prg: 音色プログラム自体に設定された定位になります。

#### **“Vol” セル**

各パートの音量レベルを設定します。設定値は0~127です。

#### **“Reverb” セル**

[REVERB]スイッチを押したときの、リバーブ効果の各パートのセンド・レベル量(かかり具合)を設定します。

#### **“Chorus” セル**

[CHORUS etc.]スイッチを押したときの、エフェクト効果の各パートのセンド・レベル量(かかり具合)を設定します。

#### **“リネーム” ボタン**

カスタム・リズム・スタイルを“ライト”するときにスタイル名を変更することができます。

“リネーム”ボタンを押してスタイル名を変更してください。スタイル名を変更する方法は、p.33の「プログラム名を変更するときは」の手順を参照してください。



# ソング

## 1. ソングを再生する

市販の音楽データや、自分で録音した曲データを変換したスタンダードMIDIファイルをフロッピー・ディスクから読み込んで再生することができます。

### Standard MIDI File (スタンダードMIDIファイル) について

シーケンサー(レコーダー)の演奏データのフォーマットを規定し、メーカーや機種が異なってもフロッピー・ディスクにファイルとして保存し、データのやりとりを可能にしたものがSMF (スタンダードMIDIファイル)です。

スタンダードMIDIファイルには3種類のフォーマット(形式)があり、本機はこのうちのフォーマット0とフォーマット1に対応しています。

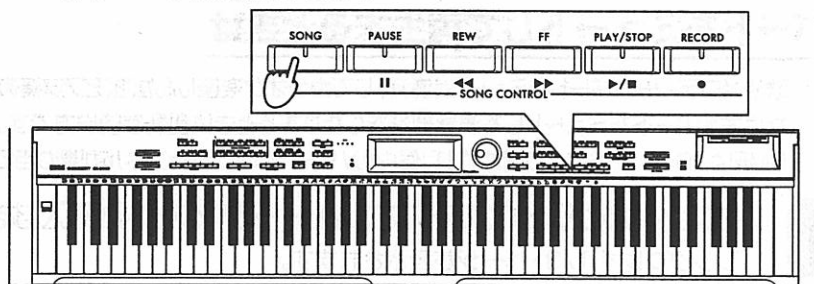
## 音楽データを再生するときは

SMF形式で作られた曲データを再生することができます。

### 1

### フロッピー・ディスクを挿入します

フロッピー・ディスクを挿入すると自動的に“ソングプレイ 1/3”ページが表示されます。すでにフロッピー・ディスクが入っているときは[SONG]スイッチを押すと、“ソングプレイ 1/3”ページが表示されます。



### 2

### 再生する曲を選びます

“Song:”の下に表示する“曲ファイル”セルを押して、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで演奏する曲ファイルを選びます。

### サブ・ディレクトリに曲ファイルがあるときは

サブ・ディレクトリに曲ファイルがあるときは、そのサブ・ディレクトリ名を選んで“Enter”ボタンを押してください。

もとのディレクトリに戻るときは“UpDir”を選んで“Enter”ボタンを押してください。



### 3

### 演奏をスタートします

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。

手順2で選んだ曲をフロッピー・ディスクから読み込み、再生します。

“Song:”に曲のタイトルが表示されます。

曲データの形式(特にフォーマット1)によっては、曲が始まるまでに時間がかかることがあります。フォーマット1の曲ファイルの読み込み中は、[BEAT]ランプが点滅します。

#### XGフォーマットの曲データを再生するときは

XGフォーマットの曲データを再生すると“ソングプレイ1/3”ページの右上にXGマークが表示されます。

#### ストップするときは

もう1度[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。または、曲の最後まで演奏すると自動的にストップします。

#### 一時停止するときは

[SONG CONTROL]の[PAUSE]スイッチを押します。もう一度[PAUSE]スイッチを押すと続きから演奏を再開します。

#### 早送りする、巻き戻しするときは

早送りするときは[SONG CONTROL]の[FF]スイッチを押します。

巻き戻しするときは[SONG CONTROL]の[REW]スイッチを押します。

4

#### **フロッピー・ディスクを取り出します**

フロッピー・ディスク・ドライブのランプが消えているときに取り出してください。



[PAUSE]中はフロッピー・ディスク・ドライブのランプが点灯したままになります。[PLAY/STOP]スイッチを押して、再生をストップしてランプが消えてから取り出してください。

### **一部のパートをミュートして再生するときは**

歌やメロディーのパートをミュート(消音)してカラオケを楽しんだり、ピアノ演奏の左手パートまたは右手パートをミュートして演奏練習をしたりするときに便利な使い方です。

SMFは16のパートにより構成され、個々のパートにMIDIチャンネルが割り当てられています。

1

#### **曲ファイルが入っているフロッピー・ディスクを挿入します**

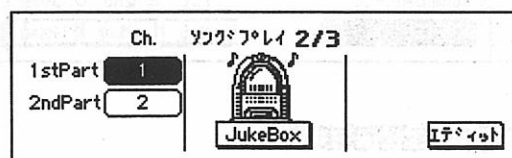
“ソングプレイ 1/3”ページが表示されます。

すでにフロッピー・ディスクが入っているときは[SONG]スイッチを押します。

2

#### **“ソングプレイ 2/3”ページを表示します**

[PAGE ▶]スイッチを押して“ソングプレイ 2/3”ページを表示します。



3

#### **ミュートするパートを選びます**

“1stPart”セルまたは“2ndPart”セルを押し、“1stPart”、“2ndPart”に割り当てる、歌やメロディーのパートのMIDIチャンネルをダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

#### 歌やメロディーのパートが見つからないときは

“1stPart”、“2ndPart”に割り当てたいパートが見つからないときは、手順3～5を繰り返してパートを探すか、[MIXER]スイッチを押して“ミキサー 3/3”ページで、1パートずつミュートしながら探してください。(p.59)

4

#### **“ソングプレイ 1/3”ページを表示します**

[PAGE ◀]スイッチを押して“ソングプレイ 1/3”ページを表示します。

“Other”に割り当てられたパートが、ひとつでも“ミキサー”ページでミュートされているときは“Other”ボタンに“\*”が表示されます。



## 5 ミュートします

ミュートしたいパート（"1st"、"2nd"、"Other"）のボタンを押して、"Mute"にします。  
"Other"は手順3で選んだMIDIチャンネル以外のチャンネルのパートをミュートします。  
ボタンは"Mute"→"Play"→"Mute"と押すごとに切り替わります。

## ジュークボックス機能

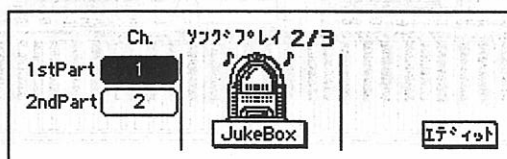
ジュークボックス機能は、SMFの曲を最大8曲まで演奏順に登録して連続再生することができます。

## 1 フロッピー・ディスクを挿入します

"Song Play 1/3" ページが表示されます。  
すでにフロッピー・ディスクが入っているときは[SONG]スイッチを押します。

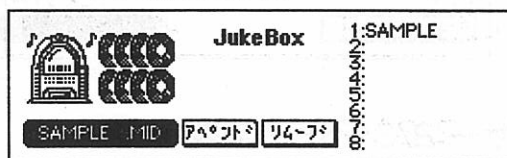
## 2 "Song Play 2/3" ページを表示します

[PAGE ▶]スイッチを押して"Song Play 2/3" ページを表示します。



## 3 "JukeBox" ボタンを押します

"JukeBox" ページが表示されます。



## 4 1番めの曲を選びます

"JukeBox" ページの左下のファイル名を押します。  
ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで、最初に演奏する曲ファイルを選びます。

## 5 "アペンド" ボタンを押します

画面右側の"1:"にファイル名が登録されます。

演奏中はアペンドできません。

## 6 曲を追加します

手順4、5と同様に演奏したい順に曲を追加していきます。

**MeMO** 8曲まで登録できます。  
間違えたときは、"リムーブ" ボタンを押すとリストの最後の曲が削除できます。

## 7 演奏をスタートします

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。  
登録した順番に再生されます。  
1曲めの演奏が終わると"1"の曲が削除され、次の曲が再生されます。

### ジュークボックス機能をやめるときは

ジュークボックス機能をやめるときは、"JukeBox" ページのリストの曲をすべて"リムーブ" ボタンを押して、削除してから[EXIT]スイッチを押してください。

"JukeBox" ページのリストに曲があるときは、"Song Play 1/3" ページで曲を選ぶことができません。



## 2. ソングの音量調節

### 全体の音量を調節するときは

[ACC VOLUME]スライダーで自動伴奏の全体音量と鍵盤演奏の音量のバランスを調節できます。全体の音量は[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。

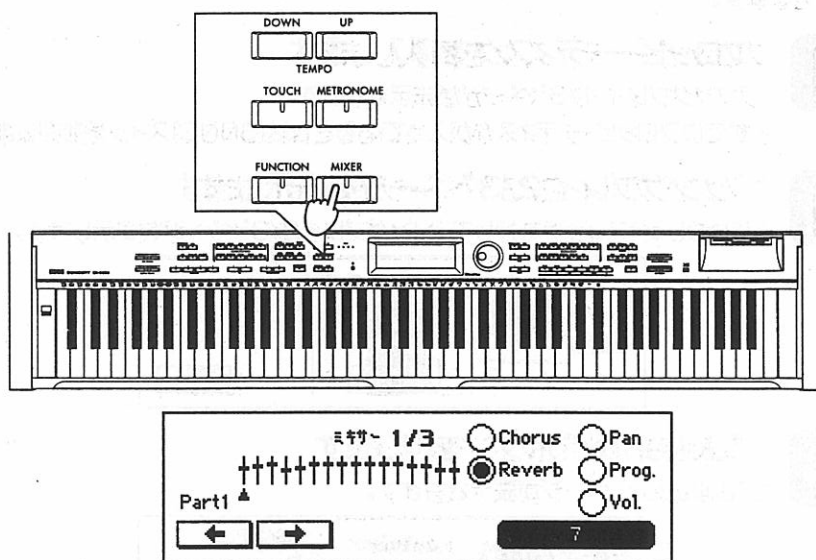
### パートごとに音量調節するときは

各パートそれぞれの音量バランスと鍵盤の音量は、ミキサー画面で調節します。

1

#### [MIXER]スイッチを押します

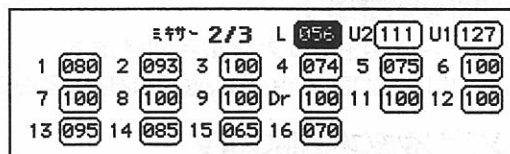
スイッチのランプが点灯し、「ミキサー」ページが表示されます。



2

#### “ミキサー 2/3”ページを表示します

[PAGE ▶]スイッチを押して「ミキサー 2/3」ページを表示します。



3

#### 音量を変更するパートを選びます

音量を変更したいパートのセルを押します。

##### 鍵盤の音量

U1 (Upp1): [LAYER]や[SPLIT]をオンにしたときの第1音色、または[LAYER]や[SPLIT]がオフのときの鍵盤の音量

U2 (Upp2): [LAYER]をオンにしたときのUpp1に重ねた音色の音量

L (Low): [SPLIT]をオンにしたときのスプリット・ポイントより左側の音色の音量

##### 伴奏パートの音量

Dr (Drum): MIDIチャンネルの10chに設定されたパートです。おもにドラムのパートになります。

1~9, 11~16: それぞれMIDIチャンネル1~9, 11~16に設定されたパートです。

4

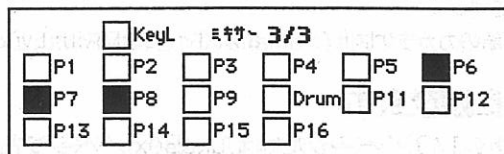
#### 音量を調節します

ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで音量を調節します。設定値は“000”～“127”です。

## パートをミュートするときは

伴奏パートをパートごとにミュート(消音)することができます。  
1~9、11~16、Drumのパートをミュートできます。

- 1 “ミキサー 3/3” ページを表示します
- 2 ミュートするパートの□(チェック・ボックス)を押します  
チェック・ボックスがオンになり、そのパートの音が鳴りません。



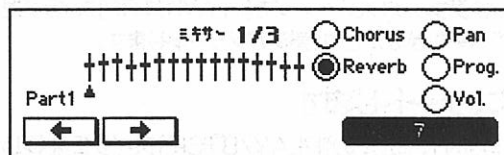
### ミュートを解除するときは

チェック・ボックスをもう1度押してオフにしてください。

## パートごとのさまざまな設定を変更するときは

パートごとのリバーブ効果やコーラスなどの効果のかかり具合やパンポットを調整することができます。

- 1 [MIXER]スイッチを押します  
スイッチのランプが点灯し、“ミキサー” ページが表示されます。



- 2 設定するパートを選びます  
“←”、“→” ボタンを押して、設定を変更するパートを選びます。
- 3 変更する項目を選びます  
いずれかのラジオ・ボタンを押して、変更する項目を選んでください。  
右下のセルに設定値が表示されます。

### 設定できる項目

“Chorus”:[CHORUS etc.]スイッチを押したときの、エフェクト効果の各パートのセンド・レベル量(かかり具合)を設定します。

“Reverb”:[REVERB]スイッチを押したときの、リバーブ効果の各パートのセンド・レベル量(かかり具合)を設定します。

“Pan”： 各パートのパンニングを設定します。

“Prog.”： 各パートの音色プログラムを設定します。

“Vol.”： 各パートの音量レベルを設定します。設定値は0~127です。

**MeMO** XF、XGデータでは、各パートの音色プログラムを変更することはできません。

- 4 設定値を変更します  
ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定値を変更します。

### 他の項目を設定するときは

手順3と同様にラジオ・ボタンを選んでください。

### 他のパートを設定するときは

手順2と同様にパートを選んでください。

### 3. カラオケ機能

市販のカラオケ・データの入っているSMFデータを再生して、LCD画面に表示する歌詞に合わせて歌ってみましょう。

1

#### フロッピー・ディスクを挿入します

カラオケ・データの記録されたフロッピー・ディスクを入れます。

**MeMO**

カラオケ表示のできるフォーマットは、「Yamaha XF」、「M-live(Midisoft)」、「Solton、Tune1000」または、これらと互換性のあるフォーマット(Roland Edirol、GEM GMXなど)です。

日本語のカラオケは「Yamaha XF」と「SMF with Lyrics」に対応しています。

2

#### ファイルを選びます

“ソングプレイ 1/3” ページまたは “JukeBox” ページで曲ファイルを選びます。

3

#### “ソングプレイ 3/3” ページを表示します

[PAGE ▶]スイッチを押して“ソングプレイ 3/3” ページを表示します。

♪=120 M001 ソングプレイ 3/3 File: SAMPLE

**MeMO**

“ソングプレイ1/3” ページで[PLAY/STOP]スイッチを押すと、自動的に“ソングプレイ3/3” ページが表示され、演奏がスタートします。

4

#### 演奏をスタートします

[SONG CONTROL] の[PLAY/STOP]スイッチを押します。

5

#### 歌詞が表示されます

歌詞の位置はアンダー・ラインで指示されます。マイクを使って曲に合わせて歌ってください。

**MeMO**

歌詞表示はデータ内容によって、曲名やパート名等が表示されないことがあります。また、カラオケのデータが記録されていないときは何も表示されません。



歌詞の表示はテンポや歌詞の字数によって正確に合わないことがあります。

#### 演奏のキー(調)を変更するときは

トランスポーズ(移調)機能で歌いやすいキーに変更できます。(p.81)

### マイクを使うときは

1

#### [MIC VOLUME]スライダーを0にします

[MIC VOLUME]スライダーを0にします。

2

#### マイクをマイク端子につなげます

本体の底面の右にあるマイク端子にお手持ちのマイクをつなげます。(p.8)

接続するマイクにオン、オフのスイッチがあるときは、本体にマイクをつなげてからオンにします。

3

#### 音量を調整します

声を出しながら[MIC VOLUME]スライダーを徐々にあげて調整します。

[MIC VOLUME]スライダーで、マイクの音量とカラオケ演奏の音量バランスを調節します。カラオケ演奏を含めた全体の音量は、[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。



本機に接続したマイクを近づけすぎるとハウリングが発生しますので注意してください。  
次の条件でご使用になりますとハウリングを起こす場合がありますので、最適な状態に調整してご使用ください。

マイクの指向特性、マイクの向きが本体に向いているとき、マイクと本体の距離が近すぎる  
とき、[MIC VOLUME]スライダーと[VOCAL EFFECT LEVEL]スライダーの調整具合。

#### MeMO

マイクをご使用にならないときは、[MIC VOLUME]スライダーと[VOCAL EFFECT LEVEL]  
スライダーを“0”に下げて、マイクをマイク端子から抜いておいてください。

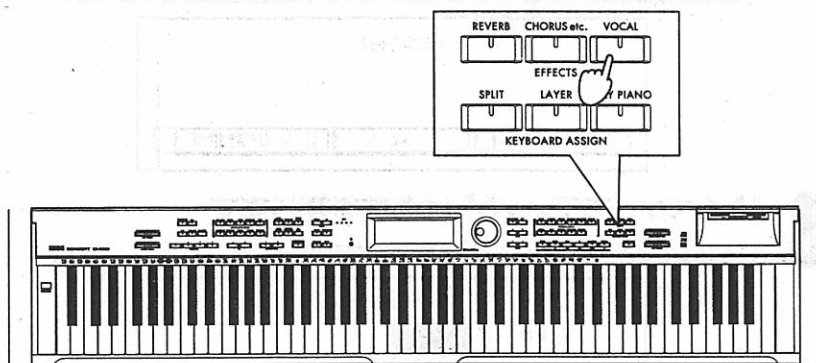
マイク端子はモノラル端子です。シンセサイザーなどのステレオ出力の機器をつなげて、本  
体スピーカーから音を出したいときは、本体後面にある[INPUT]端子に接続してください。

## マイク・エフェクトを使うときは

### 1

#### [VOCAL]スイッチを押します

[EFFECTS]の[VOCAL]スイッチを押すと、“Vocal Effect”ページが表示されます。ス  
イッチのランプが点灯し、マイクの音声にエフェクトがかかります。



### 2

#### エフェクトの種類を変更します

“Type”セルをダイヤルまたは[VALUE]スイッチで変更します。

#### タイプ一覧表

1. Garage reverb	ガレージ・タイプのリバーブ効果が得られます。
2. Hall reverb	ホール・タイプのリバーブ効果が得られます。
3. Arena reverb	アリーナ・タイプのリバーブ効果が得られます。
4. Chorus+reverb	コーラス効果とリバーブ効果が同時に得られます。
5. Echo	エコー効果が得られます。
6. Funny voice low	入力した音声に1オクターブ下の音とリバーブ効果を付加します。
7. Funny voice high	入力した音声に1オクターブ上の音とリバーブ効果を付加します。
8. Vibrato	ビブラート効果が得られます。
9. Phase	音声周期的に「シュワシュワ」変化する効果と、リバーブ効果が得られます。
10. Delay S	短い遅延時間のディレイです。
11. Delay L	長い遅延時間のディレイです。

#### MeMO

“Funny voice low”、“Funny voice high”、“Phase”のリバーブ効果、“Vibrato”の  
ディレイ音は[VOCAL EFFECT LEVEL]スライダーで調節できます。

#### MeMO

この設定は“ファンクション10/13”ページの“Setup”で“ライト”することにより本体に記  
憶し、電源をオンにしたときにその設定になります。(※p.84)

### 3

#### エフェクトのかかり具合を調節します

エフェクトのかかり具合を[VOCAL EFFECT LEVEL]スライダーで調整します。10で  
エフェクト効果が最大になります。



エフェクトの種類によってはかかり具合を最大にするとハウリングを起しやすくなることがあります。  
このときは、[MIC VOLUME]スライダーと[VOCAL EFFECT LEVEL]スライダーを調整してください。

#### エフェクト効果をやめるときは

[EFFECTS]の[VOCAL]スイッチを押して[VOCAL]スイッチのランプを消灯させます。

## 4. ソングのエディット

### イベント・エディット

SMFのデータの中のノート・データやMIDIコントロール・チェンジなどを修正することができます。



XFデータはエディットすると歌詞データが消去されます。その他の形式の曲データについても、歌詞データはエディットできません。

XF、XGのデータをエディットすると、音色プログラムが変更されることがあります。

1

#### 曲を選びます

“ソングプレイ 1/3” ページで修正したい曲のファイルを選びます。

2

#### “エディット” ページを表示します

“ソングプレイ 2/3” ページの“エディット” ボタンを押します。  
指定した曲がロードされ“エディット” ページが表示されます。

3

#### “イベントエディット” ボタンを押します

“イベントエディット” ページが表示されます。

4

#### 変更するパートを選びます

“Part” セルを押して変更するパートを、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。  
修正可能なパートは、“1”～“16”と“Tempo”です。

5

#### 変更する小節を設定します

変更する小節を“Start Measure”セルを押して、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

6

#### “スタート” ボタンを押します

“イベントフィルター” ページが表示されます。

7

#### 変更したいイベントを選びます

変更したいイベントのチェック・ボックスを押してオンにします。

MeMO

変更しないイベントのチェック・ボックスをオフにしておくと、次の手順の画面表示でそのイベントを表示しないので見やすくなります。

8

#### “OK” ボタンを押します

イベント・エディットの画面が表示されます。



イベント・エディットの方法と操作についてはp.64を参照してください。

## 9 終了したら[EXIT]スイッチを押します

“エディット”ページが表示されます。エディットして変更した内容を確認するときは、次で説明するSMFに保存してから再生してください。

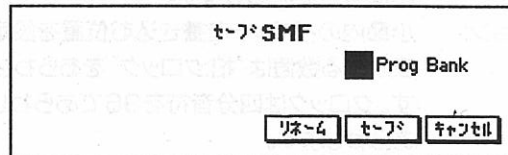
- 保存する前に、もう1度[EXIT]スイッチを押すとエディットした内容は消去され、エディットする前の状態に戻ります。

## エディットした曲をSMFで保存するときは

エディットしたソングを再生するときは、ソングをSMFとしてフロッピー・ディスクに保存してから再生します。

### 1 “エディット”ページで“セーブSMF”ボタンを押します

“セーブSMF”ページが表示されます。



### 2 ファイル名を変更します

“リネーム”ボタンを押して、ファイル名を変更します。(p.34)

- ファイル名を変えないで保存すると、元のファイルに上書きします。元のファイルを残したいときは、ファイル名を変更してから保存するか、他のフロッピー・ディスクに保存してください。

### 3 フロッピー・ディスクに保存します

フォーマットしたフロッピー・ディスクを挿入し、“セーブ”ボタンを押してフロッピー・ディスクに保存します。

#### GMのプログラムを使うときは

“Prog Bank”チェック・ボックスをオフにするとプログラム・バンク・メッセージを書き込みません。再生時にバンク・チェンジさせたくないときは“Prog Bank”チェック・ボックスをオフにしてください。

### 4 [EXIT]スイッチを押します

“ソングプレイ 2/3”ページが表示されます。

### 5 “ソングプレイ 1/3”ページを表示します

[PAGE ◀]スイッチを押して、“ソングプレイ 1/3”ページへ戻ります。

### 6 手順3で保存したファイル名を選びます

### 7 再生します

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押して再生します。

## ソング名を変更するときは

曲のタイトルを変更します。

### 1 “エディット”ページで“リネーム”ボタンを押します

ソング名を変更する画面が開きます。

### 2 ソング名を変更します

最大16文字のソング名をつけることができます。

変更したら、“リターン”ボタンを押して“エディット”ページに戻ります。

### 3

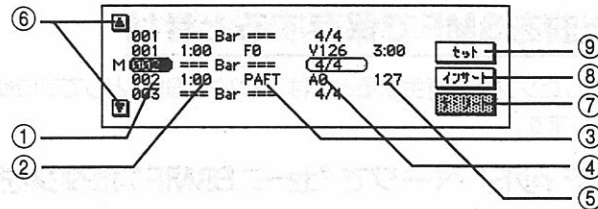
## フロッピー・ディスクに保存します

“セーブ” ボタンを押して、“セーブSMF” ページでソング名を変更したファイルを保存します。

MeMO

この名前の変更はファイル名の変更ではありません。ファイル名の変更は“セーブ SMF” ページの“リネーム” ボタンを押して変更してください。(p.63)

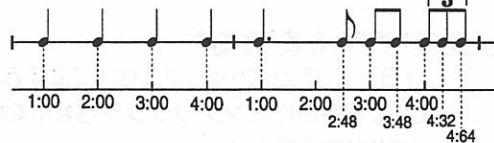
## ○イベント・エディットの操作



- ① 小節: 小節番号を表わします。  
 ② ロケーション: 小節内のイベントを書き込む位置を設定します。  
 表示する数値は“拍:クロック”をあらわします。拍は四分音符の単位です。クロックは四分音符を96であらわします。1:00が小節の最初をあらわします。

	(0:12)	(0:24)	(0:48)	(1:00)	(2:00)	(4:00)
付点						
	(0:18)	(0:36)	(0:72)	(1:48)	(3:00)	(6:00)
3連符						
	(0:08)	(0:16)	(0:32)	(0:64)	(1:32)	(2:64)

例)



- ③ イベント・タイプ、④ 値1、⑤ 値2:  
 「イベント・タイプ一覧」参照  
 ⑥ ▲、▼: エディットするロケーション(イベント)を選びます。左端の“M”のついているところが、現在選ばれているロケーションです。  
 ⑦ デリート: 選択しているロケーション(イベント)を削除します。  
 ⑧ インサート: 指定したイベントを選択している位置に挿入します。  
 ⑨ セット: エディットした値に決定します。“セット”を押さないで他のロケーションに移ると変更前の値に戻ります。

### ○ イベント・タイプ一覧

イベント・タイプ	値1	値2	
C-1...G9(ノート・データ)	V:002~V:126(ベロシティ)	0:00~5:00(レンジス、拍:クロック)	*1
BEND(ピッチ・ベンド)	-8192~+8191(上位/下位/バリュー)		
AFTT(アフタータッチ)	000~127(バリュー)		
PROG(プログラムチェンジ)	000~127(プログラム・バンク)	000~127(プログラム・ナンバー)	*2
CTRL(コントロール・チェンジ)	C000~C127(ナンバー)	000~127(バリュー)	
PAFT(ポリアフター)	C-1~G9(ノート・ナンバー)	000~127(バリュー)	*3

\*1 次の小節に音がつながっているときは“TIE”と表示されます。

\*2 “004”はドラム・バンクです。プログラム・ナンバーとドラム・プログラムの対応は「付録」のプログラム・リスト(p.97)を参照してください。

値1の000...127は、MIDIバンク・チェンジのLSBを表わします、MSBは0になります。  
 ---では、プログラム・バンクは送信されません。その前に指定されていたバンクが保持されます。

\*3 MIDIのポリフォニック・キー・プレッシャーを送信します。

# 録音してみよう

## 1. 演奏を録音する

自分で演奏した曲をテープ・レコーダーで録音するように、曲データとして本機のレコーダーに記録することができます。記録した曲データは、多重録音で音を重ねて記録したり、間違えたところやとり直したいところを編集することができます。

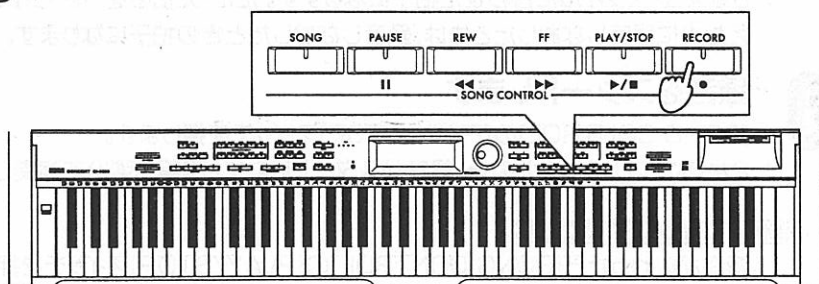
また、完成した曲データをSMF形式のデータに変換して保存すると、前の章で説明したソングとして再生したり、ジュークボックス機能で演奏させたりすることができます。

### 基本的な録音(リアルタイム・レコーディング)

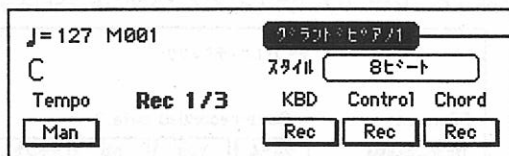
#### 自動伴奏を使うときは

[ACC]スイッチを押してオンにしてから以下の手順を行ってください。(※p.37)

- 1** [SONG CONTROL]の[RECORD]スイッチを押します  
“レコーディング”ページが表示されます。



- 2** “New Song” ラジオ・ボタンを押します  
“Edit Song” ラジオ・ボタンについてはp.67を参照してください。
- 3** “OK” ボタンを押します  
“Rec 1/3” ページが表示されます。



“プログラム”セル

- 4** 録音するトラックを選びます

自動伴奏を使わないで録音するときは、[ACC]スイッチをオフにしてください。

“KBD”、“Control”トラックのボタンを押して“Rec”にします。

“プログラム”セルを押して、演奏するトラックのプログラムを選びます。(※p.21)

#### 自動伴奏を使うときは

“KBD”、“Control”、“Chord”トラックのボタンを押して、すべて“Rec”にします。

“スタイル”セルを押して、リズム・スタイルを選びます。

“KBD”： 鍵盤で演奏するトラック

“Control”： 自動伴奏のフィルやバリエーションのオン、オフなどのパネルの操作やコントローラを記録するトラック

“Chord”： リズム・スタイルのコード進行を記録するトラック

### テンポも録音するときは

"Tempo" ボタンを押して"Man"を"Rec"にすると、録音中に変更したテンポが記録されます。録音したデータを再生するときに、"Tempo" ボタンを"Auto"にすると録音したテンポで再生され、"Man"にして再生するとテンポは手動で変えることができます。"Tempo" ボタンは録音をストップすると自動的に"Auto"になります。(p.74)

### スプリット、レイヤー機能を使うときは

スプリットまたはレイヤーを設定し、プログラムを選びます。(p.23)

## 5 拍子を設定します

[METRONOME]スイッチを押して、拍子を設定してください。(p.30)

MeMO

録音中にメトロノームが不要なときは、再度[METRONOME]スイッチを押してオフにしてください。

### 曲の途中で拍子を変えたいときは

全体を同じ拍子で録音した後で"Rec3/3"ページの"イベントエディット"で変更することができます。全部のトラックが最後に拍子を変えたトラックと同じ状態になります。[ACC]スイッチをオンで録音するときは、"Rec1/3"ページの"Tempo"を"Man"にしておくとリズム・スタイルに合わせた拍子になります。ただし、拍子を"イベントエディット"で変えた後に録音しなおしたときは、録音しなおしたときの拍子になります。

## 6 録音をスタートします

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。

2小節のプリ・カウントの後、録音がスタートします。鍵盤を弾いて演奏し、録音します。

### 録音をストップするときは

演奏が終わったら[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。

"Rec1/3"ページに戻り、"Rec"に設定したトラックは"Play"に設定されます。

## 7 録音した曲を再生します

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押すと、録音した曲が再生されます。

## 8 フォーマットしたフロッピー・ディスクを挿入します

録音したデータを保存しないときはフロッピー・ディスクを入れる必要はありません。

## 9 ファイル名を変更します

[EXIT]スイッチを押すと、"セーブレコーディング"ページが表示されます。

"リネーム"ボタンを押してファイル名を変更します。ファイル名を変更したら、"リターン"ボタンを押すと"セーブレコーディング"ページに戻ります。(p.35)

セーブレコーディング	
Filename	Save recorded data ?
NEW_SONG	<input type="button" value="リネーム"/> <input type="button" value="Yes"/> <input type="button" value="No"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

## 10 録音した曲を保存します

"Yes" ボタンを押すと、データがフロッピー・ディスクに保存され、基本画面に戻ります。

データを保存したくないときは"No" ボタンを押します。録音の画面に戻りたいときは"キャンセル" ボタンを押します。



"No" ボタンを押して、基本画面に戻ると録音したデータは本体から消去されます。

また、電源をオフにすると録音データは消えてしまいます。録音データを記録しておきたいときは、必ずフロッピー・ディスクに保存してください。

MeMO

ここで保存したファイルはSMF形式ではありません。p.75「SMF形式にして保存するときは」

## フロッピー・ディスクの曲データを読み込むときは

フロッピー・ディスクに保存した曲データを、本体に読み込んで編集したり録音を追加したりすることができます。

**MeMO**

曲データは付属のフロッピー・ディスクCID\_00PJにも収められています。

- 1** **[SONG CONTROL]の[RECORD]スイッチを押します**  
“レコーディング” ページが表示されます。
- 2** **データを保存したフロッピー・ディスクを挿入します**
- 3** **“Edit Song” ラジオ・ボタンを選びます**  
ファイル名が表示されたら、保存したファイルを選びます。  
“OK” ボタンを押します。データが読み込まれ、“Rec 1/3” ページが表示されます。



## 2. いろいろな録音方法

### 自動伴奏を録音する方法 (ステップ・レコーディング)

ステップ・レコーディング機能を使うと、自動伴奏のコードとフィルなどのコントローラの入力を自分で演奏しなくても小節等を指定することによって簡単に入力できます。ピアノが演奏できなくても、楽譜のコードやコード譜を見ながら自動伴奏を録音することができます。

**1**

[SONG CONTROL]の[RECORD]スイッチを押します

“レコーディング”ページが表示されます。



**2**

“New Song”ラジオ・ボタンを選びます

**3**

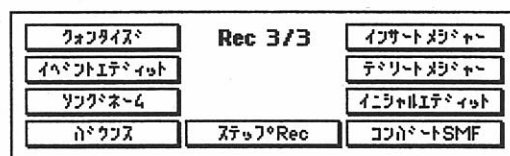
“OK”ボタンを押します

“Rec 1/3”ページが表示されます。

**4**

“Rec 3/3”ページを表示します

[PAGE ▶]スイッチで“Rec 3/3”ページを表示します。



**5**

“ステップRec”ボタンを押します

“ステップRec”ページが表示されます。



リズム・スタイルのコードを入力するときは、“Track”セルを“Chord”にします。  
リズム・スタイルのコントローラを入力するときは“Track”セルを“Ctrl”にします。  
“Start Measure”セルに開始小節、“End Measure”セルに終了小節を設定します。

**6**

“スタート”ボタンを押します

ステップ・レコーディングのページが表示されます。(p.69)

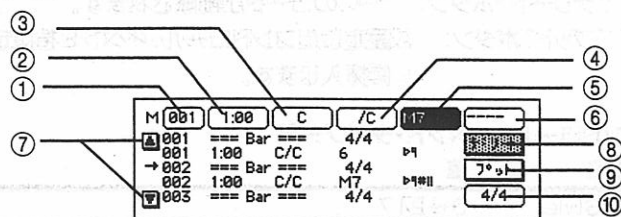
この画面の操作は「ステップ・レコーディングの操作」を参照してください。

#### ステップ・レコーディングを終了するときは

[EXIT]スイッチを押します。“Rec 3/3”ページが表示されます。

## ○ステップ・レコーディングの操作

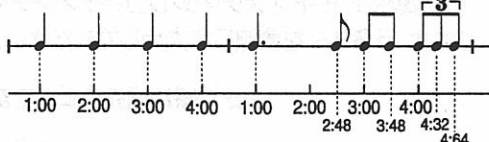
“Chord”:コード入力時



- ① “小節”セル: この設定の小節にイベントをエディットします。
- ② “ロケーション”セル: 小節内でイベントを書き込む位置を設定します。  
表示する数値は“拍:クロック”をあらわします。  
拍は四分音符の単位です。クロックは四分音符を96であらわします。  
1:00が小節の最初をあらわします。例えば、4分音符で2拍目は2:00、3拍目は3:00、1.5拍目は1:48と示します。

	(0:12)	(0:24)	(0:48)	(1:00)	(2:00)	(4:00)
付点						
	(0:18)	(0:36)	(0:72)	(1:48)	(3:00)	(6:00)
3連符						
	(0:08)	(0:16)	(0:32)	(0:64)	(1:32)	(2:64)

例)



- ③ コードの根音 (ルート)
- ④ コードのベース
- ⑤ コードのタイプ
- ⑥ コードのテンション
- ⑦ “▲、▼” ボタン: ロケーションを選びます。
- ⑧ “デリート” ボタン: “→” のコードが削除されます。
- ⑨ “ブット” ボタン: 設定したコードを指定した小節、ロケーションに挿入します。
- ⑩ 拍子の設定: “→” の拍子を設定します。

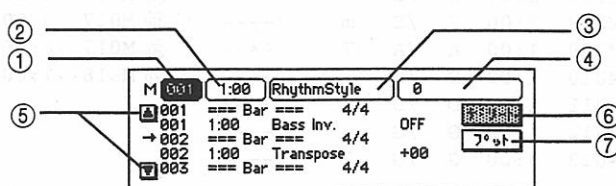
MeMO

③、④、⑤、⑥は鍵盤から入力できます。鍵盤から入力するときは、“ステップRec” ボタンを押す前に[ACC]スイッチをオンにしてください。また、必要に応じて[BASE INVERSION]スイッチもオンにしてください。

“Ctrl”:コントロール・イベント入力時

自動伴奏で使う、INTRO/ENDING、VARIATIONやKBD ASSIGNの設定、演奏中のリズム・スタイルの変更などを記録できます。

“Chord”トラックと同様にして必要な位置にコントロール・イベントを入れていきます。



- ① “小節”セル: この設定の小節にイベントをエディットします。
- ② “ロケーション”セル: 小節内でイベントを書き込む位置を設定します。



## 多重録音

"KBD"、"Control"、"Chord"で録音したデータに5トラックまで録音を重ねることができます。

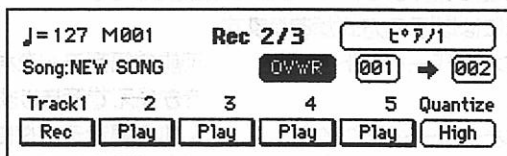
「基本的な録音」で保存したファイルを、フロッピー・ディスクから読み込み多重録音をします。

### 1 保存した曲データを読み込みます

「基本的な録音」やステップ・レコーディングで保存した曲データ・ファイルを、フロッピー・ディスクから読み込みます。(※p.66)

### 2 "Rec 2/3" ページを表示します

[PAGE▶]スイッチを押して"Rec 2/3"ページを表示させます。



### 3 録音するトラックを選びます

録音したい"Track"ボタンを押して"Rec"にします。

MeMO

1つのTrackだけしか"Rec"にできません。

"Rec 1/3"ページの"Rec"設定は、ここで"Rec"を設定すると自動的に解除されます。

### 4 プログラムを設定します

"プログラム"セルを押して、演奏するトラックのプログラムを選びます。(※p.21)



"プログラム"セル

MeMO

Track 1 ~ Track 5 ではレイヤー、スプリット機能を使用できません。

### クオンタイズを使うときは

クオンタイズは録音時のタイミングを補正します。

"Quantize"セルを押して、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチでレゾリューション(分解能)を設定します。

"High":

補正を行わないで、最大分解能(4分音符1つを96等分した細かさ)でレコーディングします。

"♪ ~ ♪":

設定した音符のタイミングで補正します。"♪"のときは32分音符の3連符単位でタイミングを補正し、"♪"のときは4分音符単位でタイミングを補正します。



MeMO

♪や♪などの大まかなクオンタイズでダンパー・ペダルやその他のコントロール・データを録音すると、再生時に不自然な音に聴こえることがあります。これを避けるには、"High"に設定して録音し、次に"Rec 3/3"ページの"クオンタイズ"でノート・データのタイミングだけを修正します。※p.76

**5****録音をスタートします**

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押すと、スイッチのランプが点灯します。  
2小節間のプリカウントの後、録音がスタートします。

**録音をストップするときは**

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。スイッチのランプが消灯します。録音した“Track”ボタンが“Play”になります。

**6****他のトラックに録音します**

手順3と同様に他のトラックを選んでから、同じ手順で録音してください。

**同じトラックに重ねて録音するときは**

録音方式セルを押して、“OVDB”に設定します。

録音方式には以下の方式があります。

OVWR (オーバー・ライト):	前の録音データを消去し新しい録音データに書きかえて録音します。
OVDB (オーバー・ダビング):	前の録音データに重ねて録音します。
AUTP (オート・パンチ・イン/アウト):	オート・パンチ/イン録音をします。(p.73)

**MeMO**

“Rec 1/3” ページではこの設定にかかわらず、“OVWR”になります。

“OVWR”と“OVDB”では“開始小節”セルと“終了小節”セルの設定は無効となります。

**7****ファイル名を変更します**

[EXIT]スイッチを押すと、“セーブレコーディング”ページが表示されます。

“リネーム”ボタンを押してファイル名を変更します。ファイル名を変更したら、“リターン”ボタンを押すと“セーブレコーディング”ページに戻ります。(p.35)

**8****データを保存します**

フロッピー・ディスクに保存するときは“Yes”ボタンを押してください。データを保存しないときは“No”ボタンを押します。

録音の画面に戻りたいときは“キャンセル”ボタンを押します。

**MeMO**

ここで保存したファイルはSMFフォーマットではありません。SMFにするときは、p.75を参照してください。

**曲の途中から録音するときは****1****保存した曲データを読み込みます**

「基本的な録音」やステップ・レコーディングで保存した曲データ・ファイルを、フロッピー・ディスクから読み込みます。(p.67)

**2****録音した曲を再生します**

各トラックの設定を“Play”にして[PLAY/STOP]スイッチを押します。

**3****録音したい小節まできたら一時停止します**

録音を開始したいところまで再生されたら、[PAUSE]スイッチを押して一時停止します。

**4****録音したいトラックを選びます**

追加して録音したいトラックの設定を“Rec”にします。

- ・[ACC]スイッチがオンの録音のときはKBD、CTRL、CHORDのすべてのトラック
- ・[ACC]スイッチがオフの録音のときはKBD、CTRLのトラック
- ・トラック1から5の録音のときはいずれかのトラック

**5****一時停止を解除します**

[PAUSE]スイッチを押して、一時停止を解除します。

2小節のプリカウントの後録音が始まります。



## オート・パンチ・イン/アウト

録音した曲の一部分を間違えたり、思ったような演奏にならなかったときに、曲の先頭から録音せずにその一部分だけ録音しなおすことができます。オート・パンチ・インとは、曲を再生状態から設定しておいた小節で、自動的に録音状態に切り替えることをいいます。オート・パンチ・アウトとは、逆に録音状態から設定しておいた小節で、自動的に再生状態に切り替えることをいいます。

**MeMO** この機能は、Track 1～5の録音に使えます。

### 1 保存した曲データを読み込みます

「基本的な録音」やステップ・レコーディングで保存した曲データ・ファイルを、フロッピー・ディスクから読み込みます。(p.67)

### 2 録音しなおす小節の前で一時停止します

各トラックの設定を“Play”にして[PLAY/STOP]スイッチを押します。録音しなおす小節の2、3小節前で[PAUSE]スイッチを押します。

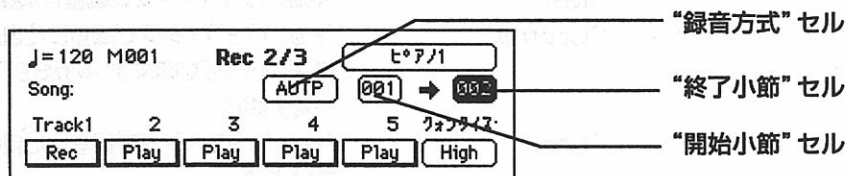
### 3 録音しなおすトラックを選びます

録音しなおすトラックの“Track”ボタンを押して“Rec”にします。

**MeMO** “Rec”にしないと以下の設定はできません。

### 4 “Rec 2/3” ページで“録音方式”セルを“AUTP”にします

“録音方式”セルを押して、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで“AUTP”に設定します。



### 5 “開始小節”セルを設定します

“開始小節”セルを押して、録音しなおしたい小節の始めをダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定します。

### 6 “終了小節”セルを設定します

“終了小節”セルを押して、録音しなおしたい小節の終わりをダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定します。

### 7 録音をスタートします

[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押すと手順2で設定した小節から曲が再生されます。

**MeMO** 手順5で設定した小節から自動的に録音が始まりますので、録音開始小節の1、2小節前から弾き始めるとよいでしょう。

### 8 録音をストップします

録音終了小節が過ぎたら自動的に録音が終了し、再生を続けます。曲の再生をストップするときは、[SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押します。

### 3.編集機能

#### 保存した録音データを編集するときは

リアルタイムやステップなどで録音したデータを、もう一度呼び出して演奏等を追加したり編集したりすることができます。

#### 1 保存した曲データを読み込みます

「基本的な録音」やステップ・レコーディングで保存した曲データ・ファイルを、フロッピー・ディスクから読み込みます。(p.67)

#### 2 データの修正を行います

“Rec 1/3” ページ、“Rec 2/3” ページ、“Rec 3/3” ページの各ページでデータの修正ができます。

**MeMO**

録音しなおしたり、編集したデータが気に入らないときは、保存しないで終了すれば、編集前のデータはディスクに残っていますので、また、手順1からやりなおすことができます。

#### ・“Rec 1/3” ページ

J=127 M001		トラック・イベント	
C	スタイル	8ビート	
Tempo	Rec 1/3	KBD	Control Chord
Man		Rec	Rec Rec

“KBD”:

“Rec1/3” ページで録音した鍵盤のデータが入っています。

“Control”:

“Rec1/3” ページで録音した自動伴奏に関するパネル操作のデータが入っています。p.69「コントロール・イベント・タイプ一覧」参照

“Chord”:

“Rec1/3” ページで録音した自動伴奏のコード・データが入っています。

“Tempo”:

“Rec 1/3” ページで “Tempo” ボタンを押すたびに “Man”、“Auto”、“Rec” の順番で変わります。“ファンクション7/13” ページの “Sync.” を “Ext.” に設定したとき (p.88) は、テンポ表示が “J= EXT” になります。このときは本体でテンポを変更できないので、この設定は無視されます。

Man: 手動でテンポを変えることができます。

Auto: テンポ・トラックのデータに従ってテンポが変わります。

Rec: テンポ・トラックにテンポのデータを録音します。

#### ・“Rec 2/3” ページ

J=127 M001		Rec 2/3		ヒートアップ	
Song: NEW SONG		DWWF		001 → 002	
Track1	2	3	4	5	Quantize
Rec	Play	Play	Play	Play	High

Track1 ~5: “Rec 2/3” ページで鍵盤で弾いて録音したデータが入っています。

#### “Rec 3/3” ページ

オフタイズ	Rec 3/3	インサートメジャー
イベントエディット		テリットメジャー
ソフタネーム		イニシャルエディット
バックアップ	ステップ・Rec	コンバートSMF

さまざまな録音データ編集機能があります。それぞれの項目についての詳細は「“Rec 3/3” ページ項目詳細」(p.75)を参照してください。

3

### データを保存します

すべての編集が終了したら、[EXIT]スイッチを押します。“セーブレコーディング”ページが表示されます。フロッピー・ディスクに保存するときは“Yes”ボタンを押してください。

## SMF形式にして保存するときは

自分で録音した曲データをSMF形式で保存すると、[SONG]スイッチを押してソングとして再生することができます。

1

### “Rec 3/3”ページを表示します

録音した後に、[PAGE ▶]スイッチを押して“Rec 3/3”ページを表示します。

ウォンタイズ	Rec 3/3	インサートメロディ
イベントエディット		テリットメロディ
ソングネーム		イニシャルエディット
バック	ステップRec	コンバートSMF

2

### “コンバートSMF”ボタンを押します

“コンバートSMF”ページが表示されます。

コンバートSMF

☐ Prog Bank

リネーム

コンバート

キャンセル

### GMのプログラムを使うときは

“Prog Bank”チェック・ボックスをオフにするとプログラム・バンク・メッセージを書き込みません。再生時にバンク・チェンジさせたくないときは“Prog Bank”チェック・ボックスをオフにしてください。

3

### ファイル名をつけます

“リネーム”ボタンを押してファイル名を入れます。ファイル名を入力したら、“リターン”ボタンを押します。

リネームファイル

0123456789ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

NEW\_FILE

←

→

セット

テリット

インサート

リターン

4

### フォーマットしたフロッピー・ディスクを挿入します

フロッピー・ディスクのフォーマットについてはp.85を参照してください。

5

### SMF形式で保存します

“コンバートSMF”ページの“コンバート”ボタンを押します。SMF形式でフロッピー・ディスクに保存します。

**MeMO**

SMF形式で保存すると“レコーディング”ページで曲をエディットすることができません。録音したデータを後でエディットするときは、“セーブレコーディング”ページで保存してください。

## ○“Rec 3/3”ページ項目詳細

“Rec 3/3” ページでは次のような録音データ編集機能があります。

編集したい項目のボタンを押して各ページを表示します。

以下の操作説明は、項目名のボタンを押してページが表示されているものとして説明します。

### “クオンタイズ” ページ

録音した演奏データのタイミングを補正します。

この機能は“Rec 2/3” ページにある“クオンタイズ”セルよりも融通性があります。小節の範囲やクオンタイズするデータのタイプを選べるので、関係ない他の小節やデータには影響しません。

クオンタイズ

☒ All   ☐ Note   ☐ CTRL   ☐ AFTT   ☐ Bend   ☐ Prog.  
 Track   **Kbd**   Res.   High  
 Start   001   End   001   QNTZ   キャンセル

ラジオ・ボタン: クオンタイズをかけるデータの種類を選びます。

All: すべてのイベント・データ

Note: 鍵盤を弾いたデータ(ノート・オン/オフ・イベントと呼びます。)

CTRL: ダンパーやソフト、ソステヌート・ペダルのデータ(コントロール・チェンジと呼びます。)

AFTT: アフタータッチのデータ(本機では録音できません。)

Bend: ピッチベンドのデータ(本機では録音できません。)

Prog.: プログラムを切り換えるデータ(プログラム・チェンジと呼びます。バンク・チェンジも含まれます。)

“Track” セル: クオンタイズをかけるトラックを設定します。

Kbd, Ctrl, Chord, Track1 ~ 5, Tempo

“Res.” セル: 音符の長さ(レゾリューション)の設定します。

High: 4分音符の1/96

♪<sub>3</sub>: 32分音符の3連符

♪: 32分音符

♪<sub>3</sub>: 16分音符の3連符

♪: 16分音符

♪<sub>3</sub>: 8分音符の3連符

♪: 8分音符

♪: 4分音符

“Start” セル: 開始小節を設定します

“End” セル: 終了小節を設定します

“QNTZ” ボタン: クオンタイズを実行します。

“キャンセル” ボタン: クオンタイズを実行しないで前の画面に戻ります。

### “イベントエディット” ページ

データを直接書き換えたり、追加したりします。

編集するトラックと小節を選び、“スタート” ボタンを押します。

イベントエディット

Track   **Kbd**

Start Measure   001

スタート   キャンセル

“Track” セル: 編集するトラックを選びます。選ぶトラックによってイベント・エディットの操作が変わります。

“Start Measure” セル: 編集を開始する小節を設定します。

“スタート” ボタン: イベント・エディットを開始します。

“キャンセル” ボタン: 元の画面に戻ります。

## Kbdトラック、Track 1 ~ Track 5を選んだときのイベント・エディット操作

“スタート” ボタンを押すと、“イベントフィルター” ページが表示されます。

イベントフィルター

<input checked="" type="checkbox"/> Prog.	<input type="checkbox"/> Pitch Bend
<input checked="" type="checkbox"/> Control Change	<input type="checkbox"/> After Touch
<input checked="" type="checkbox"/> Note	<input type="checkbox"/> Poly After

OK

エディットするイベントのチェック・ボックスをオンにします。“OK” ボタンを押すとイベント・エディットの画面が表示されます。

A	001	=== Bar ===	4/4	1:00	
	001	1:00	A4	V064	1:00
	002	=== Bar ===	4/4		
M	002	1:00	G4	V064	2:00
	003	=== Bar ===	4/4		
	003	1:00	AFTT		127

セット  
インサート  
デリート

画面中央のデータがエディット対象です。

左から、小節、ロケーション、イベント、イベント・データの順に表示されます。

イベント・データは、イベントの種類によって2つのものと1つのものがあります。

(p.64「イベント・タイプ一覧」参照)

## Ctrlトラックを選んだときのイベント・エディット操作

KBDトラックと同様ですが、イベント・フィルターのページは表示されません。

A	001	1:00	Bass Inv.	OFF
	002	=== Bar ===	4/4	
	002	1:00	Transpose	+00
M	002	=== Bar ===	4/4	
	003	1:00	Drum Mute	PLAY
	004	=== Bar ===	4/4	

セット  
インサート  
デリート

また、表示されるイベントが異なります。(p.70「コントロール・イベント一覧」参照)

## Chordトラックを選んだときのイベント・エディット操作

Ctrlトラックと同様です。

A	001	1:00	C/C	6	b1
	002	=== Bar ===	4/4		
	002	1:00	C/C	M7	b1#11
M	002	=== Bar ===	4/4		
	003	1:00	C/C	M7b5	b1b13
	004	=== Bar ===	4/4		

/ベース  
セット  
インサート  
デリート

コード・イベントは同じロケーションに2つ以上イベントを入れても1つしか有効になりません。また、コード・イベントはそのイベント以降はすべて同じコードとなります。

イベント・タイプを“NoChord”にすると、そのイベント以降はDrum、Percの演奏だけになります。

### MEMO

オン・コード([BASS INVERSION]スイッチのときのようなコード)のベース(分母)を入力するときは“/ベース” ボタンを押して、ボタンを反転させてください。

オン・コードを使用しないときは、分母と分子を同じコードを入力してください。

## Tempoトラックを選んだときのイベント・エディット操作

KBDトラックと同様ですが、イベント・フィルターのページは表示されません。

表示されるイベントはテンポだけです。

### <基本的な操作>

A	001	=== Bar ===	4/4	1:00
	001	1:00	A4	V064
	002	=== Bar ===	4/4	
M	002	1:00	G4	V064
	003	=== Bar ===	4/4	
	003	1:00	AFTT	127

セット  
インサート  
デリート

### ・小節の移動

小節セルを押して、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定します。

このときは小節の始めにある小節線(---Bar---)ごとに移動します。



### ・エディットするイベントの選択

“▼”、“▲” ボタンを押します。

### ・イベントの挿入

“Insert” ボタンを押すと、現在の対象イベントの上に新しくイベントを挿入します。  
イベントの種類やロケーションは挿入後に変えます。

### ・イベントのエディット

中央の行の小節以外のセルを押してダイヤル、または[VALUE]スイッチで設定します。  
値を変更し終えたら“セット” ボタンを押します。

**MeMO** ロケーションを変えたときは“セット” ボタンを押したときに正しい位置へ移動します。

### ・イベントの削除

削除したいイベントを対象イベントに移動して、“デリート” ボタンを押します。  
小節線は削除できません。

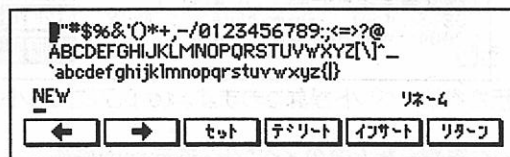
**MeMO** 小節の削除は“デリートメジャー” ページで行います。

### ・イベント編集終了

編集がすべて終わったら[EXIT]スイッチを押して“Rec 3/3” ページに戻ります。

## “ソングネーム” ページ

曲名を編集します。



The screen shows a character set at the top: "!"#\$%&'()\*+,-./0123456789:;<=>?@\_`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|}~". Below this is a row of characters: "ABCDEF GHIJ KLMNOP QRSTUV WXYZ [\]^\_`". Underneath is another row: "abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|}~". At the bottom, there are five buttons: "NEW", "リネーム", "←", "→", "セット", "デリート", "イコサート", "リターン".

文字:

ダイヤルまたは[VALUE]スイッチで選びます。

“←” ボタン:

カーソルを左に動かします。

“→” ボタン:

カーソルを右に動かします。

“セット” ボタン:

選択している文字を決定します。

“デリート” ボタン:

カーソル位置の文字を消去します。

“イコサート” ボタン:

カーソル位置に文字を挿入します。

“リターン” ボタン:

名称を変更したら“リターン” ボタンを押して前の画面に戻ります。

## “バウンス” ページ

KbdトラックとTrack1～Track5の中から2つのトラックを選び、1つにまとめます。



The screen is titled "バウンストラック". It has two sections. The first section has "Source" and "Destination" labels, each followed by a button labeled "Kbd". The second section has two buttons labeled "バウンス" and "キャンセル".

“Source” セル: 1つめのトラックを設定します。

“Destination” セル: 2つめのトラックを設定します。

“バウンス” ボタン: “バウンス” ボタンを押すと2つのトラックが“Destination”トラックにまとめられます。“Source”トラックのデータは消去されます。

“キャンセル” ボタン: 実行しないで前の画面に戻ります。

**MeMO** 両方のトラックにピッチベンド、ダンパー・ペダル、その他コントロール・イベントを使っている、そのロケーションが重なっているときに、これを1つにまとめると意図しない結果になることがあります。

**MeMO** バウンス後、いっしょになったトラックは“Destination”で指定したトラックのプログラム、MIDIチャンネル、その他のトラック設定がそのまま適用されます。

## “インサートメジャー” ページ

小節を挿入します。

インサートメジャー

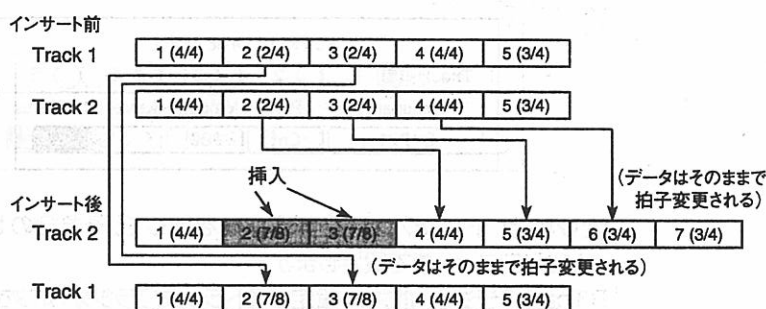
Track	Kbd		
Start	001	Length	001
		Meter	4/4
		<input type="button" value="イフサート"/> <input type="button" value="キヤツセル"/>	

- “Track” セル: 対象となるトラックを設定します。全トラックに挿入するときは “All” に設定します。
- “Start” セル: 開始小節を設定します。
- “Length” セル: 挿入する小節の長さを設定します。
- “Meter” セル: 拍子を設定します。
- “インサート” ボタン: “インサート” ボタンを押すと小節が挿入されます。
- “キャンセル” ボタン: 実行しないで前の画面に戻ります。

### 異なる拍子の小節を挿入するときは

変更した拍子は、“Rec 1/3” ページの “Tempo” を “Auto” にすれば有効となります。異なる拍子の小節を挿入すると、トラックすべての対応する小節がこの拍子に合わせるために、その小節が短くなるか、あるいは長くなります。

#### ・拍子 = 7/8 を 2 小節挿入



異なる拍子を選ぶ、選ばないに関係なく、挿入された部分の後に続く小節は後ろにずれます。小節を1つのトラックだけに挿入した場合、後ろにずれる小節は上の図のように他のトラックの対応する小節と同じ拍子になります。

挿入の結果、番号がかわった小節は短く途切れたり逆に長くなったりすることがあります。

**MeMO** 他のトラックと拍子を合わせるときは、“Meter” で “\*/\*/” を選ぶと挿入した小節は他のトラックと同じになります。

## “デリートメジャー” ページ

小節を削除します。

デリートメジャー

Track	Kbd		
Start	001	End	001
		<input type="button" value="デリート"/> <input type="button" value="キヤツセル"/>	

- “Track” セル: 対象となるトラックを設定します。全トラックを削除するときは “All” に設定します。
- “Start” セル: 消去の開始小節を設定します。
- “End” セル: 終了小節を設定します。
- “デリート” ボタン: “デリート” ボタンを押すと小節が削除されます。
- “キャンセル” ボタン: 実行しないで前の画面に戻ります。

**MeMO** 小節を1つのトラックだけから削除した場合、前にずれる小節は他のトラックの対応する小節と同じ拍子になります。削除によって番号がかわった小節は短く途切れたり、逆に長くなったりすることがあります。

## “イニシャルエディット”

録音する曲の最初に各トラックの初期設定やエフェクトの設定を記録できます。各トラックについて設定できます。

### “イニシャルエディット 1/2” ページ

エフェクトの設定、鍵盤の音色とオクターブの設定ができます。

リバーブ	37	イニシャルエディット 1/2	Octave
Hall	Upper1	グランド・ピアノ1	+0
コーラス	Fx	フィル・フレス	-1
Chorus 1	Low	アロウ・アップ	+1

“リバーブ”セル: リバーブ効果のかかり具合を設定します。

“リバーブ・タイプ”セル: リバーブのタイプを設定します。

“コーラス”セル: コーラスなどのエフェクト効果のかかり具合を設定します。

“コーラス・タイプ”セル: コーラスなどのエフェクトのタイプを設定します。

“Upper1、2、Low”: それぞれのプログラムとオクターブ設定を設定します。

### “イニシャルエディット 2/2” ページ

各トラックのProgram、Pan、Volume、Reverb、Chorusの設定を行います。

イニシャルエディット 2/2					
Track	<input checked="" type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
Program	Pan	Volume	Reverb	Chorus	
ピアノ1	Cnt	100	3	1	

変更したいトラックのラジオ・ボタンを押して、それぞれのセルを押しダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定します。

“Track”ラジオ・ボタン: 設定するトラックのラジオ・ボタンを押して選びます。

“Program”セル: 初期設定とするプログラムを選びます。

“Pan”セル: 初期設定とするパンポットの値を設定します。

“Volume”セル: 初期設定とする音量を設定します。

“Reverb”セル: リバーブ効果のかかり具合を設定します。

“Chorus”セル: コーラスなどのエフェクト効果のかかり具合を設定します。



# ファンクション

## 1. 音の高さの調整

### 音の高さを微調整するときは

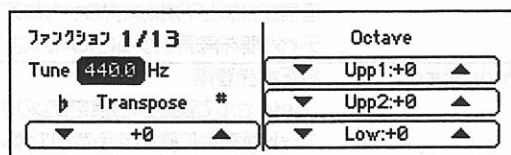
音高(ピッチ)を微調整します。

他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙な音程のずれを調整します。

427.5~453.0Hz(ヘルツ)の範囲で、0.5Hzごとに設定できます。A4=440Hzです。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

[FUNCTION]スイッチのランプが点灯し、“ファンクション1/13”ページが表示されます。



#### 2. “Tune”を調整します

“Tune”セルの値をダイヤルまたは[VALUE]スイッチで調整します。

本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13”ページで“ライト”してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

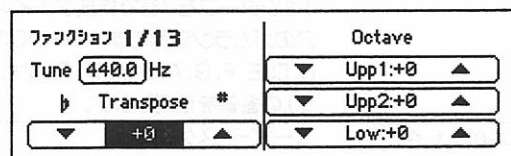
元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

### キーを変更するときは(移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌にキー(調)が合わせられないときなどに、キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します



#### 2. “Transpose”を変更します

“Transpose”セルの“▲”または“▼”を押して、値を変更してください。

設定できるのは-11~+11です。

**MeMO** 電源をオフにすると設定は、“0”になります。

元の表示に戻るときは

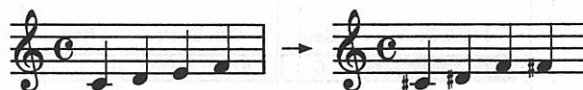
[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

#### 例1: 曲の調子を半音上げて演奏するときは

“Transpose”セルの値を“+1”に設定します。

Cの鍵盤を押さえたときにC#の音が鳴るようになります。

このように音を半音上げた場合、左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



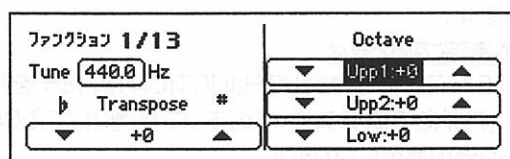
#### 例2: キーがB♭の曲をGの指使いで演奏するときは

“Transpose”セルの値を“+3”に設定します。

B♭の音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、Cの鍵盤を押したときに、Cよりも3半音高いD#の音が出るようにします。

### オクターブを変更するときは

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します



#### 2. それぞれの“Octave”を変更します

“Octave”セルの“▲”または“▼”を押して、値を変更してください。

設定できるのは-2、-1、0、+1、+2オクターブです。

**Upp1:** [LAYER]や[SPLIT]をオンにしたときの第1音色または[LAYER]や[SPLIT]がオフのときの鍵盤

**Upp2:** [LAYER]をオンにしたときのUpp1に重ねた音色

**Low:** [SPLIT]をオンにしたときの、スプリット・ポイントより左側の音色

**MeMO** 電源をオフにすると設定は、Upp1は“0”、Upp2は“-1”、Low“+1”になります。設定を記憶したいときはレジストレーションに記憶することができます。(※p.83)

元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

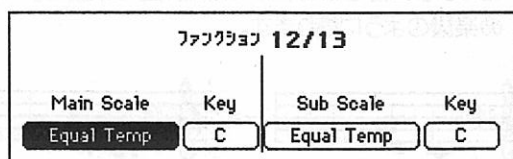
## 2. 音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。

これらの曲の持つ本来の響きを再現するキルンベルガーやヴェルクマイスターなどの古典音律や、その他、アラビアやインドネシア特有の音律などを選ぶことができます。

### 音律を設定するときは

1. [FUNCTION] スイッチを押します
2. “ファンクション 12/13” ページを表示します



### 3. 音律を選びます

“Main Scale” セルまたは “Sub Scale” セルをダイヤルまたは [VALUE] スイッチで変更します。

音律の一覧を参照してください。

**MeMO** 電源をオンにした直後は “Main Scale” になります。“Sub Scale” に切り換えるにはセンター・ペダルを使用して切り換えます。(P.29)

### 4. “Key” を設定します

選んだ音律のキーを選びます。

ただし、“Equal Temp”、“Equal Temp2” では無効です。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT] スイッチまたは [FUNCTION] スイッチを押すと、[FUNCTION] スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

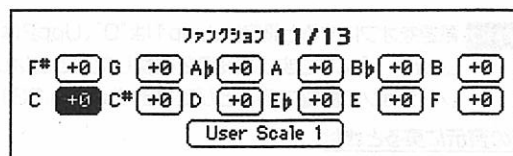
#### MeMO ストレッチ・チューニングについて

いくつかのプログラムでは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整されています。

## 好みの音律を作るときは

ユーザー・スケールを使って自分で4種類の音律を作ることができます。

1. [FUNCTION] スイッチを押します
2. “ファンクション 11/13” ページを表示します



### 3. 変更する “User Scale” セルを選びます

“User Scale 1~4”の中から設定するユーザースケールをダイヤルまたは [VALUE] スイッチで選びます。

## 4. 各キーのピッチをセント単位で設定します

#### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション 10/13” ページで “ライト” してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT] スイッチまたは [FUNCTION] スイッチを押すと、[FUNCTION] スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

音律名	説明
Equal Temp	平均律 鍵盤楽器に最も幅広く用いられている通常の音律です。これは半音階が均等に配列されているため、どのキーでも均一のスケールで演奏することができます。
Equal Temp2	平均律(ランダム) 平均律のピッチが若干不規則にずれます。音程が自然と不規則になりがちなアコースティック楽器を再現するのに向いています。
Pure Major	純正律長音階 “Key” セルで設定した主調和音のメジャーコードが完全に調和する音律です。
Pure Minor	純正律短音階 “Key” セルで設定した主調和音のマイナーコードが完全に調和する音律です。
Arabic	アラビック(1/4) アラビア音楽の 1/4 トーン音律です。rast do/bayati reにはキーをC(ド)に、rast re/bayati miにはD(レ)、rast fa/bayati solにはF(ファ)、rast sol/bayati laにはG(ソ)、rast si b/bayati doにはA#(ラ#)を設定します。
Pythagorean	ピタゴラス 古代ギリシャの音律で、メロディー演奏に効果的です。
Werkmeister	ヴェルクマイスター バロック時代の後期に用いられた平均律的な音律です。
Kirnberger	キルンベルガー 主にハープスコードの調律に用いられている18世紀に考案された音律です。
Slendro	スレンドロ 1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、F、G、A(ド、レ、ファ、ソ、ラ)の各鍵を使用します。
Pelog	ペログ 1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、E、F、G、A、B(ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ)の各鍵を使用します。
User1~4	ユーザー・スケール

**MeMO** このほかにセンター・ペダルの設定で、中近東音楽などで使用される音律 “Quarter Tone” に設定することができます。(P.29)



### 3. レジストレーション

よく使う鍵盤や操作パネルの設定を記憶させておき、瞬時に呼び出すことができます。15通り登録できます。登録する項目は以下の内容です。

#### レジストレーションで記憶できる設定内容

- ・ [SPLIT][LAYER]のオン、オフと"KeyL"ボタンの状態
- ・ コード指定方法  
"One Finger"、"Fingered1"、"Fingered2"のいずれかを記憶します。"FullKeyboard"に設定しているときは記憶しません。
- ・ [ENSEMBLE]のオン、オフとタイプの設定
- ・ [REVERB]と[CHORUS etc.]の設定
- ・ Upp1、Upp2、Lowの各パートのパン、[REVERB]のセンド量、[CHORUS etc.]のセンド量、ボリューム、オクターブ、音色の設定(これらは、[DISK]リズム・スタイル・グループの"カスタムスタイル2/2"ページの内容です。)

### 登録するときは

鍵盤や操作パネルの設定した状態を記憶させたいときに登録します。

#### 1. [REGISTRATION]スイッチを押します

"レジストレーション"ページが表示されます。

"A1"～"C5"までの15個のボタンが表示されます。

レジストレーション				
<input checked="" type="radio"/> Set Up <input type="radio"/> Memory				
A1	A2	A3	A4	A5
B1	B2	B3	B4	B5
C1	C2	C3	C4	C5

#### 2. "Memory"ラジオ・ボタンを押します

#### 3. 覚えさせたいボタンを押します

"A1"～"C5"から登録させたいボタンを選びます。

#### 4. 書き込みメッセージが出て、メモリに記憶されます

それぞれのボタンには、鍵盤や操作パネルの設定が記憶されています。

**⚠** レジストレーションの登録中は、絶対に電源をオフにしないでください。

### 呼び出すときは

レジストレーションに登録されている鍵盤や操作パネルの設定を呼び出します。

#### 1. [REGISTRATION]スイッチを押します

[REGISTRATION]スイッチを押すと"レジストレーション"ページが表示されます。

"A1"～"C5"の15個のボタンが表示されます。

#### 2. "Set Up"ラジオ・ボタンを選びます

#### 3. A1～C5のいずれかのボタンを押します

このボタンを押すと操作パネルの設定が記憶されていた状態に変わります。

**MeMO** 設定内容と登録先番号は、メモ等に残しておくといでしょう。この15個のレジストレーションはまとめてフロッピー・ディスクに保存できますので、そのフロッピー・ディスクのラベルに書き込んでおくと便利です。

### レジストレーションをフロッピー・ディスクに保存するときは

本体に記憶した15個のレジストレーションの内容を、フロッピー・ディスクに保存します。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 2. "ファンクション 6/13"ページを表示します

ファンクション 6/13	
Select File Kind	
<input checked="" type="radio"/> オールセットアップ	<input type="radio"/> レジストレーション
<input type="button" value="ロード"/> <input type="button" value="セーブ"/>	

#### 3. "レジストレーション"ラジオ・ボタンを選びます

#### 4. "セーブ"ボタンを押します

レジストレーション	
[NEW FILE]	<input type="button" value="リネーム"/> <input type="button" value="セーブ"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

#### ファイル名を変えるときは

ファイル名を変えるときは、"リネーム"ボタンを押して修正します。(p.35)

#### 5. フロッピー・ディスクを挿入します

#### 6. "セーブ"ボタンを押します

"セーブ"ボタンを押すとフロッピー・ディスクに保存されます。"キャンセル"ボタンを押すと保存しないで、"ファンクション6/13"ページに戻ります。

**⚠** 保存中は、絶対に電源をオフにしないでください。

### レジストレーションをフロッピー・ディスクから読み込むときは

フロッピー・ディスクに保存したレジストレーションを読み込みます。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 2. フロッピー・ディスクを挿入します

#### 3. "ファンクション 6/13"ページを表示します

ファンクション 6/13	
Select File Kind	
<input checked="" type="radio"/> オールセットアップ	<input type="radio"/> レジストレーション
<input type="button" value="ロード"/> <input type="button" value="セーブ"/>	

#### 4. "レジストレーション"ラジオ・ボタンを選びます

#### 5. "ロード"ボタンを押します

レジストレーション	
Filename	<input type="button" value="ロード"/> <input type="button" value="キャンセル"/>
SAMPLE KES	

## 6. ファイルを選びます

"Filename" セルにダイヤルまたは[VALUE]スイッチで読み込むファイルを選びます。

## 7 "ロード" ボタンを押します

"ロード" ボタンを押すとフロッピー・ディスクから本機にレジストレーションの各設定が読み込まれます。"キャンセル" ボタンを押すと読み込まないで、"ファンクション 6/13" ページに戻ります。

**MeMO** "ロード" ボタンを押すと、本機の "A1" ~ "C5" ボタンに記憶されているレジストレーションの内容はすべて上書きされてなくなります。それらの内容が必要なときは、先にフロッピー・ディスクに保存してから読み込んでください。

 読み込み中は、絶対に電源をオフにしないでください。

# 4. オール・セットアップ

変更した[FUNCTION]などの設定を本体に記憶することができます。

この操作を行うと、電源をオフにしても設定が本体に記憶されるので、次に電源を入れたときに、同じ設定になります。オール・セットアップの内容はフロッピー・ディスクに保存することができます。

記憶する項目は以下の内容です。

### ○セッティングの内容

[FUNCTION]スイッチの設定

"ファンクション 1/13" ページ

Tune

"ファンクション 3/13" ページ

Pedal Assign

"ファンクション 7/13" ページ

PC/IF Freq. 38.4/31.2

"ファンクション 8/13" ページ

Prog., ProgBank, Control, AfterTouch, Exclusive

"ファンクション 9/13" ページ

Keyboard

Upper1

Low/Upp2

Dr., Perc., Bass, Acc1, Acc2, Acc3

Chord Rx1, Chord Rx2

"ファンクション 11/13" ページ

User Scale 1 ~ 4 の設定

"ファンクション 13/13" ページ

"Popup Time"

[TOUCH]スイッチの設定

[ACC]スイッチの次の設定

Onefinger, Fingered1, Fingered2, Split Point

[VOCAL]スイッチのオン、オフと "Type" の設定

## 各設定を本体に記憶させるときは

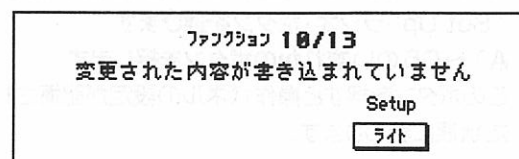
オール・セットアップを本体に記憶します。

### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

### 2. "ファンクション 10/13" ページを表示します

現在の設定内容と本体に記憶された内容が違うときは、このページに "変更された内容が書き込まれていません" というメッセージが表示されます。そのときは、"ライト" ボタンを押して、本体に記憶をしてください。

記憶させないで電源をオフにすると、前回電源をオンにした直後の設定に戻ります。

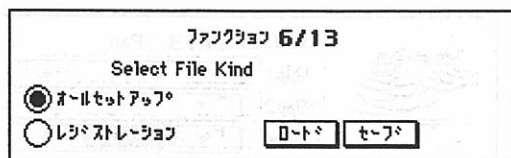


 書き込み中は絶対に電源をオフにしないでください。

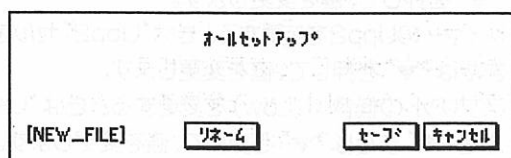
## オール・セットアップを保存するときは

本体に記憶されているオール・セットアップをフロッピー・ディスクに保存します。

1. [FUNCTION]スイッチを押します
2. フロッピー・ディスクを挿入します
3. “ファンクション 6/13” ページを表示します



4. “オールセットアップ” ラジオ・ボタンを選択します
5. “セーブ” ボタンを押します



### ファイル名を変えるときは

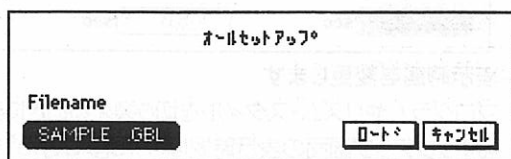
ファイル名を変えるときは、“リネーム” ボタンを押して修正します。(p.35)

6. “セーブ” ボタンを押すとフロッピー・ディスクに保存されます  
“キャンセル” ボタンを押すと保存しないで、“ファンクション 6/13” ページに戻ります。


## オール・セットアップを呼び出すときは


保存したオール・セットアップをフロッピー・ディスクから呼び出し、本体に記憶させます。

1. [FUNCTION]スイッチを押します
2. フロッピー・ディスクを挿入します
3. “ファンクション 6/13” ページを表示します
4. “オールセットアップ” ラジオ・ボタンを選びます
5. “ロード” ボタンを押します




6. ファイルを選びます
7. “ロード” ボタンを押します  
“ロード” ボタンを押すとフロッピー・ディスクから本体に読み込まれます  
“キャンセル” ボタンを押すと読み込まないで、“ファンクション 6/13” ページに戻ります。

 読み込むと、本機のオール・セットアップ内容はすべてなくなります。必要場合は、フロッピー・ディスクに保存してからロードしてください。

 読み込み中は、絶対に電源をオフにしないでください。

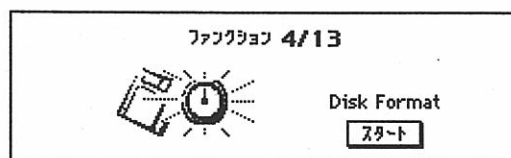
## 5. フロッピー・ディスク

新しいフロッピー・ディスクを本機で使うときは、まずフロッピー・ディスクをフォーマットすることが必要です。また、フロッピー・ディスクに入った必要のないデータをすべて消して、ディスクを空にするときにフォーマットするとよいでしょう。

 フォーマットするディスクに取っておきたいデータが入っていないことを確認してください。フォーマットしたディスクの内容はすべて消去されます。付属のフロッピー・ディスクなど必要なデータの入ったフロッピー・ディスクはフォーマットしないでください。


## フォーマットするときは

1. [FUNCTION]スイッチを押します
2. “ファンクション 4/13” ページを表示します




3. フロッピー・ディスクを挿入します

フロッピー・ディスクドライブに、フォーマットしたいフロッピー・ディスクを入れてください。  
フォーマットするとフロッピー・ディスクのデータはすべて消去されます。  
消去したデータは、再び復帰することができませんので取り扱いには注意してください。

 付属のフロッピー・ディスクをフォーマットしないでください。

4. “スタート” ボタンを押します

“スタート” ボタンを押すと確認の画面が表示されます。  
“OK” ボタンを押すとフォーマットを開始します。  
“キャンセル” ボタンを押すとフォーマットをしないで、“ファンクション 4/13” ページに戻ります。

 フォーマット中は絶対に電源をオフにしたり、フロッピー・ディスクを抜いたりしないでください。故障の原因になります。

## ファイルを消去するときは

1. [FUNCTION]スイッチを押します
2. “ファンクション 5/13” ページを表示します



### 3. 消去するファイルの種類を選びます

消去するファイルの種類を選んでラジオ・ボタンを押します。

“Style”：カスタム・スタイル・ファイル(.ARR,.STY)

“Set”： オール・セットアップ・ファイル(.ARG,.GBL)

“Prog.”：カスタム・プログラム・ファイル(.PRG)

“Reg.”： レジストレーション・ファイル(.KBS)

“Rec.”： 録音データ・ファイル(.BSQ)

“SMF”： ソングで再生できるファイル(.MID)

### 4. ファイル名を選びます

### 5. “デリート” ボタンを押します

手順4で選んだファイルを消去します。

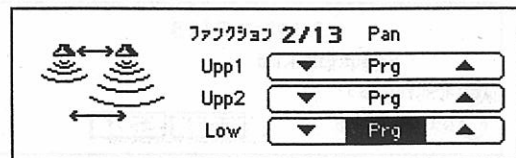
## 6. 便利な機能

### 音の左右のバランスを調整するときは

左右の音のバランスを調整します。

#### 1. [FUNCTION] スイッチを押します

#### 2. “ファンクション 2/13” ページを表示します



#### 3. “Pan” を変更します

レイヤーやスプリットを使用していないときや、レイヤーのUpp1を変更するときは“Upp1”セルを“▲”または“▼”を押して、値を変更します。

レイヤーのUpp2を変更するときは“Upp2”セルを“▲”または“▼”を押して、値を変更します。

スプリットの低音側(Low)を変更するときは“Low”セルを“▲”または“▼”を押して、値を変更します。

設定できる値はoff\*、L15 (左のみ)～Cnt (中央)～R15 (右のみ)、Prg (プログラムに設定された値)です。

\*リバーブ、エフェクト効果のかかった音のみになります。

**MeMO** プログラムによっては“Pan” が効かないものもあります。

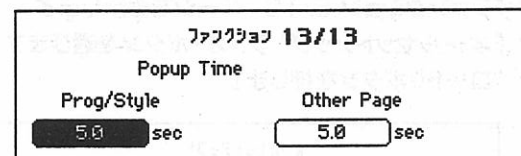
#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

### ポップアップ画面の表示時間を変更するときは

#### 1. [FUNCTION] スイッチを押します

#### 2. “ファンクション 13/13” ページを表示します



#### 3. 表示時間を変更します

プログラムやリズム・スタイルを切り換えるときに表示するポップアップ画面の表示時間は“Prog/Style”を変更します。それ以外のポップアップ画面の表示時間を変更するときは“Other Page”を変更します。

設定できる値は0.1～10sec (秒)です。

#### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13” ページで“ライト”してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。



# 他の機器との接続

## 1. MIDI 機器との接続

### MIDI(ミディ)とは？

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールすることができます。また、他のMIDIキーボードやシーケンサー（自動演奏装置）から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせて使うことによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、MIDIについてわかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

### MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

#### MIDI IN端子


MIDI情報を受信します。

外部MIDI機器（MIDIキーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

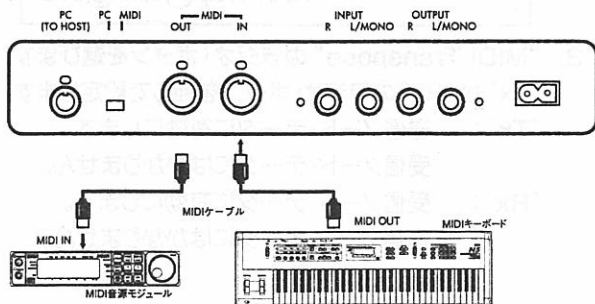
#### MIDI OUT端子

MIDI情報を送信します。

本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。

 PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしたときは、必ずMIDIケーブルでMIDI端子へ接続してください。

PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているときは、いったん本機の電源をオフにして、PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしてください。



## MIDIチャンネルの設定

MIDI機器との接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

1. [FUNCTION]スイッチを押します
2. “ファンクション 9/13” ページを表示します

Ch.	ファンクション 9/13	Ch.	Ch.
Chord Rx1	Off	Ch.	Dr 10 Acc1 13
Chord Rx2	Off Upper1 01	Perc	11 Acc2 14
Keyboard	01 Low/Up2 02	Bass	12 Acc3 15

3. それぞれのセルを設定します

それぞれのセルを押し、MIDIチャンネルをダイヤルまたは[VALUE]スイッチで設定します。

#### “Chord Rx1”、“Chord Rx2”

受信チャンネルとしての機能

自動伴奏のコード指定を外部機器からMIDIでコントロールするときに使います。


設定されたチャンネルで外部機器からMIDIノート・イベントを受信することによってコードを指定します。この入力、スプリット・ポイントの設定には関係なく全鍵盤の範囲でコードを検出します。

**MeMO** 通常の本体の鍵盤入力も機能していますので、同時に本体の鍵盤入力をすると思った結果にならないこともあります。

#### “Keyboard”

受信チャンネルとしての機能

外部機器からMIDIでコントロールしたときに、本体の鍵盤と同じ動作をさせるときに設定します。[LAYER]や[SPLIT]をオンにすると、外部機器からのノート・イベントで本機の鍵盤で弾いたときと同じように鳴らすことができます。

 ソングの再生のときは鍵盤の音を外部機器から鳴らすことはできません。MIDIの1～16CHは再生データの音色になります。

送信チャンネルとしての機能

[SONG]スイッチが点灯しているときは、鍵盤を弾いたデータがこのチャンネルで出力されます。

**MeMO** [RECORD]スイッチが点灯しているときは“Keyboard”のチャンネルは“1”にしてください。

- 以下のチャンネル設定は[SONG]スイッチと[DEMO]スイッチが点灯していないとき有効です。

#### “Upper1”

受信チャンネルとしての機能

このチャンネルのMIDIノート・イベントを受信するとUpper1の音色で鳴ります。

送信チャンネルとしての機能

鍵盤の演奏データがこのチャンネルで出力されます。[SPLIT]スイッチがオンのときはUpper1側だけのノートがこのチャンネルで出力されます。ただし“Keyboard”



のチャンネルと同じにするとこの機能は働きません。

#### “Low/Upp2”

##### 受信チャンネルとしての機能

このチャンネルのMIDIノート・イベントを受信すると[LAYER]スイッチがオンのときはUpper2の音色、[SPLIT]スイッチがオンのときは“Lower”の音色で鳴ります。

##### 送信チャンネルとしての機能

[SPLIT]スイッチがオンのときは、Lower側だけのノートがこのチャンネルで出力されます。

ただし、送受信時“Keyboard”や“Upp1”のチャンネルと同じにするとこの機能は働きません。

#### “Drum”、“Perc”、“Bass”、“Acc1”、“Acc2”、“Acc3”

##### 受信チャンネルとしての機能

このチャンネルのMIDIノート・イベントを受信すると自動伴奏の各パートの音色で鳴ります。

##### 送信チャンネルとしての機能

自動伴奏の各パートの演奏データがこのチャンネルで出力されます。

**MeMO** レコーダーのTrack1～Track5のMIDIチャンネルは2～6に固定されます。

#### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13”ページで“ライト”してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

## 本機をマルチティンバー音源として使うときは

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができるマルチティンバー音源として動作します。[SONG]スイッチをオンにした状態にすると、16ティンバー・マルチのGM音源として動作します。



MIDIチャンネルの設定はできません。

SMF演奏中はそのデータにしたがって音色が変化します。

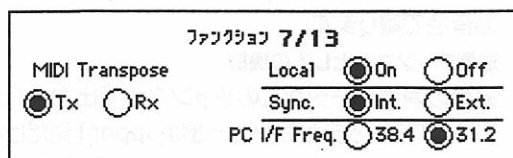
MIDI受信信号でXG音源は鳴らせません。

## ローカル・オン/オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合に本機をローカル・オフに設定します。通常はローカル・オンに設定して鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 2. “ファンクション7/13”ページを表示します



#### 3. “Local”ラジオ・ボタンを選びます

“On”か“Off”のラジオ・ボタンを押して設定します。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

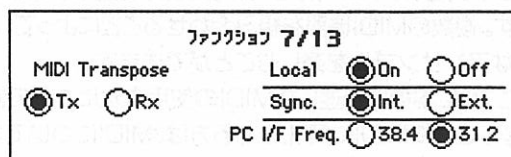
**MeMO** 電源をオンにした直後は、自動的にローカル・オンに設定になります。

## 外部シーケンサーと同期させるには

本機のレコーダーに合わせてMIDIで接続した外部シーケンサーやリズム・マシンなどを同時に演奏(同期)させます。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 2. “ファンクション7/13”ページを表示します



#### 3. “Sync.”のラジオ・ボタンを選びます

“Int.”か“Ext.”のラジオ・ボタンを押して設定します。

“Int.”:内部クロックで動作します。

本機を単独で使用するときや、マスター(コントロールする側)として外部機器を本機のMIDIクロックに同期させるときに“Int.”にします。

“Ext.”:MIDIで受信したデータのMIDIクロックに同期して本機のレコーダーが動作します。本機をスレーブ(コントロールされる側)として外部機器から送られてくるMIDIクロックに同期させるときは“Ext.”にします。

#### 元の表示に戻るときは

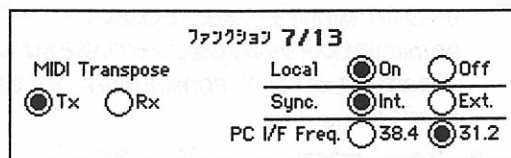
[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

## MIDI トランスポーズ

“ファンクション1/13”ページの“Transpose”の設定をMIDIで送受信するデータのどちらに有効にするかを設定します。

#### 1. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 2. “ファンクション7/13”ページを表示します



#### 3. “MIDI Transpose”のラジオ・ボタンを選びます

“Tx”か“Rx”のラジオ・ボタンを押して設定します。

“Tx”: 送信ノート・データに有効にします。

受信ノート・データにはかかりません。

“Rx”: 受信ノート・データに有効にします。

送信ノート・データにはかかりません。

## MIDI Filter

プログラム・チェンジやコントロール・チェンジなどのMIDI情報の送受信するかしないかを設定します。

1. [FUNCTION]スイッチを押します
2. “ファンクション 8/13” ページを表示します



3. 送受信するMIDI情報のチェック・ボックスを押して、オンにします

### “Prog.”:プログラム・チェンジ

接続している外部MIDI機器のプログラム番号を本機からプログラム・チェンジを送信することによって切り替えます。


外部からプログラム・チェンジ・ナンバーを受信すると、p.97～の表のように本機の音色が切り替わります。これを送受信するときは“Prog.”チェック・ボックスをオンに、送受信しないときは“Prog.”チェック・ボックスをオフにします。

### “Prog Bank”:プログラム・バンク・チェンジ

プログラム・バンクのMIDI情報を送受信するときに“Prog Bank”チェック・ボックスをオンに、送受信しないときは“Prog Bank”チェック・ボックスをオフにします。

### “Control”:コントロール・チェンジ

本機のダンパー・ペダルなどの情報を外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からダンパー・ペダルなどの情報を受信して本機をコントロールします。これを送受信するときは“Control”チェック・ボックスをオンに、送受信しないときは“Control”チェック・ボックスをオフにします。

 外部からのコントロール・チェンジは、本機のペダルの設定の変更 (P.29「レイヤー、スプリット時のダンパー・ペダルの設定」参照) に関係なくレイヤー機能またはスプリット機能においても、つねに両方の音色に対して有効となります。

### “After Touch”:アフター・タッチ

アフター・タッチのMIDI情報を送受信するときに“After Touch”チェック・ボックスをオンに、送受信しないときは“After Touch”チェック・ボックスをオフにします。

### “Exclusive”:エクスクルーシブ

エクスクルーシブのMIDI情報を送受信するときに“Exclusive”チェック・ボックスをオンに、送受信しないときは“Exclusive”チェック・ボックスをオフにします。

### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13”ページで“ライト”してください。

記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。


### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

## 2. コンピュータとの接続

本機は、コンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータで本機を鳴らしたり、本機の鍵盤での演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様なことが行えます。

本機は、IBM PC互換機、Apple Macintosh、PC-9800シリーズのコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。

 ケーブルの接続とPC/MIDI切替スイッチの切り換えは、必ず電源をオフにした状態で行ってください。

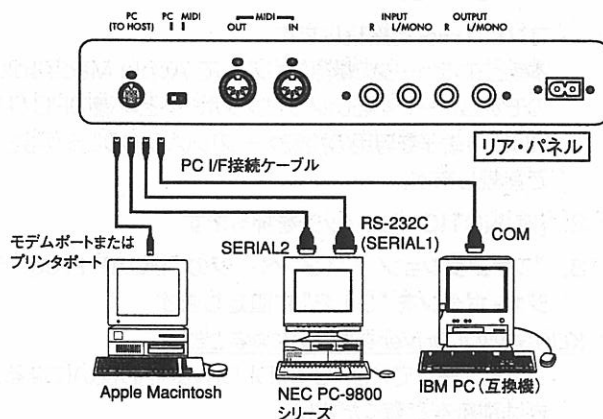
PC/MIDI切替スイッチをPC側にしたときは、必ず専用PC I/F接続ケーブルでPC (TO HOST) 端子へ接続してください。

本機では、PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にすると、自動的に同期周波数が31.25kbpsに設定されます。その後、PC/MIDI切替スイッチをPC側にしても31.25kbpsのままです。必要に応じて設定しなおしてください。

### PC (TO HOST) 端子

コンピュータから本機をコントロールしたり、本機からコンピュータへMIDI情報を送することができます。

本機のPC (TO HOST) 端子とコンピュータをそれぞれのコンピュータ用のPC I/F接続ケーブルで接続します。



## IBM PC 互換機との接続

接続キットAG-001B (接続ケーブル、ドライバー・ソフト“KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

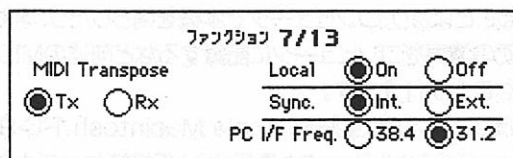
### 1. コンピュータと接続します

本機とコンピュータの電源をオフにして、IBM PC互換機のシリアル・ポート (COMポート) と本機のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-001B [別売]) で接続します。

コンピュータのシリアル・ポートが25ピンの場合は、9ピン-25ピン変換アダプターをご利用ください。

### 2. [FUNCTION]スイッチを押します

### 3. “ファンクション 7/13” ページの “PC/IF Freq.” ラジオ・ボタンを “38.4” に設定します



#### Windows でお使いになるときは

コンピュータでKORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は別紙をご覧ください。

#### 本体に設定を記憶させるときは


“ファンクション10/13” ページで “ライト” してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

## Apple Macintoshシリーズとの接続

接続キットAG-002B (接続ケーブル・ドライバー・ソフト “KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

 シリアル・ポート (モデム / プリンタ) を持たない Macintoshでは、TO HOST端子に接続して使用することができません。

#### 1. コンピュータと接続します

本機とコンピュータの電源をオフにして、Apple Macintoshのモデムポートあるいはプリンタポートと本機のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-002B [別売]) で接続します。

#### 2. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 3. “ファンクション 7/13” ページの “PC/IF Freq.” ラジオ・ボタンを “31.2” に設定します

#### KORG MIDI Driverをお使いになるときは

コンピュータでKORG MIDI Driverをお使いになるときは別紙をご覧ください。

#### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13” ページで “ライト” してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

## NEC PC-9800シリーズとの接続

#### RS-232C (SERIAL 1) を利用する場合

接続キットAG-003B (接続ケーブル・ドライバー・ソフト “KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション (シーケンサー) の種類によっては、ご使用になれませんので注意してください。

アプリケーション (シーケンサー) はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものにかぎります。

#### 1. コンピュータと接続します

本機とコンピュータの電源をオフにして、NEC PC-9800シリーズのRS-232C (SERIAL 1) 端子と本機のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-003B [別売]) で接続します。

#### 2. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 3. “ファンクション 7/13” ページの “PC/IF Freq.” ラジオ・ボタンを “31.2” に設定します

MS-DOS上のアプリケーション (シーケンサー) をお使いになる場合は、アプリケーションをRS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。

#### Windows でお使いになるときは

コンピュータでKORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は別紙をご覧ください。

#### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13” ページで “ライト” してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。

#### SERIAL2を利用する場合

接続キットAG-001B (接続ケーブル・ドライバー・ソフト “KORG MIDI Driver”) [別売] で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

#### 1. コンピュータと接続します

本機とコンピュータの電源をオフにして、NEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子と本機のPC (TO HOST) 端子を、専用の接続ケーブル (AG-001B [別売]) で接続します。

#### 2. [FUNCTION]スイッチを押します

#### 3. “ファンクション 7/13” ページの “PC/IF Freq.” ラジオ・ボタンを “38.4” に設定します

#### Windows でお使いになるときは

コンピュータでKORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は別紙をご覧ください。

#### 本体に設定を記憶させるときは

“ファンクション10/13” ページで “ライト” してください。記憶させないで電源をオフにすると、元の設定に戻ります。

#### 元の表示に戻るときは

[EXIT]スイッチまたは[FUNCTION]スイッチを押すと、[FUNCTION]スイッチのランプが消灯して、LCD画面が元の表示に戻ります。



## 故障とお思いになる前に

### 電源が入らない

- 電源コードが適切なコンセントに差し込まれていますか？ (p.13)
- 電源コードが本機のAC端子に差し込まれていますか？ (p.94, 96)
- 電源スイッチがオンになっていますか？ (p.14)
- それでも電源が入らないときは、電源コードをコンセントから抜いて、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。

### 音が出ない

- [MASTER VOLUME]スライダー、[ACC VOLUME]スライダーが上がっていますか？ (p.14)
- ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？ (p.14)
- 現在選んでいるパートの音量が“0”になっていませんか？ (p.42)
- 現在選んでいるパートがミュートされていませんか？ (p.43)
- ローカル・オンになっていますか？ (p.88)
- “ミキサー” ページの“KeyL”チェック・ボックスがオンになっていませんか？ (p.39)

### 音が途切れてしまう

- 本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング（録音）し、分析/加工してつくられています。音色によっては、1つの鍵盤を押すとサンプリング・データの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。いくつかの音色は2つのデータを鳴らしますが、このような音色を選ぶとダンパー・ペダルを踏んでいるときも含め最大同時発音数は32音となります。それ以外の音色では最大同時発音数は64音となります。この最大同時発音数を越えたときに、音が途切れてしまいます。また、レイヤーやスプリットにして同時に2つの音色を鳴らすとき、サンプリング・データを1つ使っているか2つ使っているかで最大同時発音数は異なってきます。たとえばサンプリングデータを1つ鳴らす音色と2つ鳴らす音色を組み合わせると、最大同時発音数は21音になります。レイヤー、スプリットや、レコーダーに複数のパートを録音する場合は音色の組み合わせを上手に選んでください。

### 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色は、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

### 高音域で音が出ない、低くなる

- 一部の音色には発音域の上限があるため、高音域を弾いたときに音が出なかったり、1オクターブ下の同音を繰り返し割り当てているものがあります。

### ペダルの効果が正しくかからない

- ペダル用コネクターがはずれていませんか？ (p.94, 96)
- センター・ペダルがソステヌート以外に設定されていませんか？ (p.30)

### 録音できない

- パート設定が“Rec”になっていますか？ (p.65)

### 送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルや、PC専用接続ケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。 (p.87, 89)
- 外部機器と同じチャンネルで本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。 (p.87)
- MIDIチャンネル（パート）は合っていますか？ (p.87)

### 同期周波数が設定できない

- PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっていませんか？ (P.89)MIDI側にとすると常に31.25kbpsに設定されます。

# 仕 様

鍵盤	88鍵 (Ci-9600のみ:リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション鍵盤)
タッチ・コントロール	6ペロシティ・カーブ
音源システム	AIスクエア・シンセシス・システム + XG音源
最大同時発音数	64ボイス (AIスクエア音源) + 32ボイス (XG音源)
音色プログラム数	ROM: 332 (AIスクエア音源) + 676 (XG音源) RAM: 64 (AIスクエア音源)
ドラム・プログラム数	ROM: 14 (AIスクエア音源) + 21 (XG音源) RAM: 2 (AIスクエア音源)
音色プログラム (グループ)	ピアノ、エレクトリック・ピアノ、オルガン、フルート/サックス ブラス/クワイヤー、ストリングス、ギター、ベース、シンセ/効果 パーカッション、ユーザー/ディスク収録
自動伴奏機能	リズム・スタイル数: ROM = 128、ユーザー (ディスク) = 64 ピアニスト・リズム・スタイル数: ROM = 26
レジストレーション	15
エフェクト効果	リバーブ: 13タイプ、その他: 24タイプ、 ボーカル・エフェクト: 11タイプ
レコーダー	1ソング、40,000ノート、 8トラック (Control、Chord、KBD + 5トラック) ソング・コントロール (Pause、Rew、FF、Play/Stop、Record)
SMFソング・再生機能	スタンダードMIDI ファイル (フォーマット 0、フォーマット 1に対応) ジューク・ボックス機能 対応フォーマット: GM / XG
ヘルプ画面	日本語 (漢字、カナ) / 英語: 切り替え可能
カラオケ歌詞表示機能	日本語 (漢字、カナ)、英語
FDドライブ	3.5" 2DD / 2HD (IBM PC 1.44 MB)
デモ曲	リズム・スタイル: 9曲 音色: 10曲、ピアノ曲 (右手/左手 分離可能): 14曲
メトロノーム	○ (オン/オフ、テンポ、拍子、ボリューム)
ディスプレイ	240 × 64 フルドット大型液晶画面 (タッチ画面仕様)
キー・トランスポーズ	-11 ~ +11 半音
ピッチ・コントロール	427.5 ~ 453.0Hz (0.5Hzステップ)
音律	10 + 4 ユーザー・スケール
レイヤー	○
スプリット	○
ペダル	ダンパー*、ソフト*、センター (工場出荷時: ソステヌート) *ハーフ・ペダル対応
アウトプット端子	L / MONO、R
インプット端子	L / MONO、R
ヘッドホン端子	2
MIDI端子	IN、OUT
マイク端子	1 (ボリューム・コントロール、ボーカル・エフェクト付き)
PCI/F	1 (MIDIと切り替え)
アンプ出力	40 W × 2
スピーカー	13cm × 2、5cm × 2、キャビネット一体型パステフ・システム
電源	100 V
消費電力	81 W
外形寸法	Ci-9600: 1,430 (W) × 525 (D) × 956 (H) mm Ci-8600: 1,380 (W) × 530 (D) × 892 (H) mm
重量 (スタンド含む)	Ci-9600: 70.1 kg、Ci-8600: 55.3kg
付属品	高低自在イス、ヘッドホン、日本語シート、AC電源コード アクセサリ・ディスク CID-00PJ (リズム・スタイル、プログラム、カラオケ曲など)

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

- ・ MIDIおよびGENERAL MIDIは社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- ・ XGロゴ・マークとXFロゴ・マークはヤマハ株式会社の登録商標です。
- ・ その他の商品名、社名は、各社の登録商標および商標です。
- ・ Sound Processed with INFINITY™



# ST-9600Ciの組み立て方



## 注意

- ・ 本体組み付けは二人以上で行ってください。
- ・ 本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、注意してください。
- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。

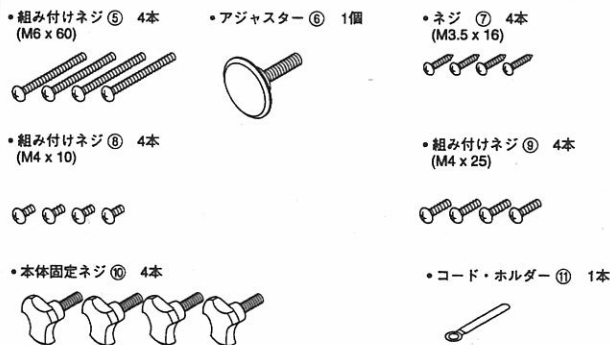
### 1. 箱をあけて部品を取り出します。

下記部品が揃っているのを確認してください。

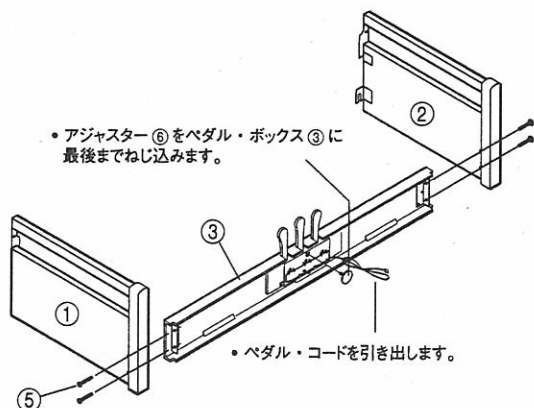
組み立てのために、お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意してください。



#### ○ ビニール袋詰め



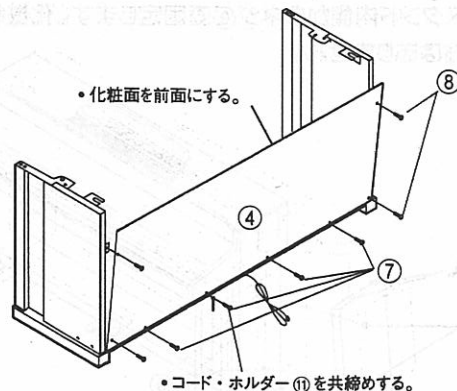
### 2. 側板(左)①と側板(右)②をペダル・ボックス③に組み付けネジ⑤4本で組み付けます。



### 3. 裏板④を組み付けます。

ネジ⑦4本で裏板④の下側を、ネジ⑧4本で裏板④の側板側を固定します。

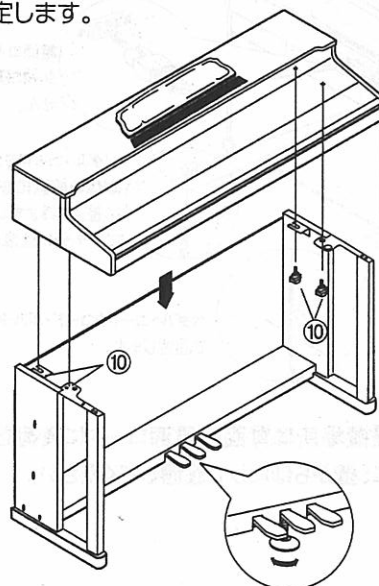
ネジ⑦1本でコード・ホルダー⑪を共締めします。



○ ここでスタンドに隙間やかたむきがないことを確認してください。

### 4. 本体を組み付けます。

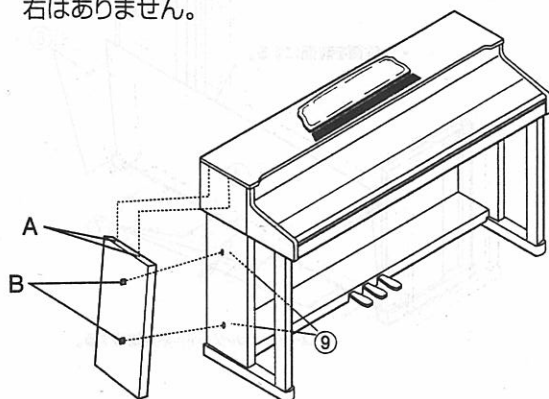
本体底面のプラスチック製の足を側板のブラケットの穴に入るようにのせます。本体固定ネジ⑩4本で下方から固定します。



アジャスターを回して、アジャスターが床にしっかり当たるように調節してください。  
アジャスターが床にしっかり当たらないとペダルがぐらつき故障の原因になります。

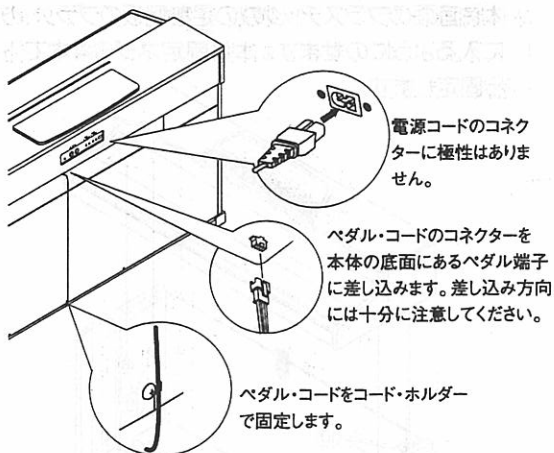
#### 5. 化粧板⑫を側板に取り付けます。

本体のルーフボードの裏面の穴に、化粧板⑫のガイドピンAを差し込み化粧板⑫のガイドピンBが側板の穴に入るように取り付けます。  
スタンド内側からネジ⑨で固定します。化粧板⑫に左右はありません。



#### 6. ペダル・コードと電源コードを接続、固定します。

付属の電源コードを本体背面のソケットに接続します。



設置場所は背面の電源コードに負荷をかけないように、壁からはなして設置してください。

### 組立後のチェック

#### □ 部品は余っていませんか？

余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。

#### □ 取付ネジがゆるんでいませんか？

取付ネジのゆるみを確認してください。



#### 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。

#### ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

#### 分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

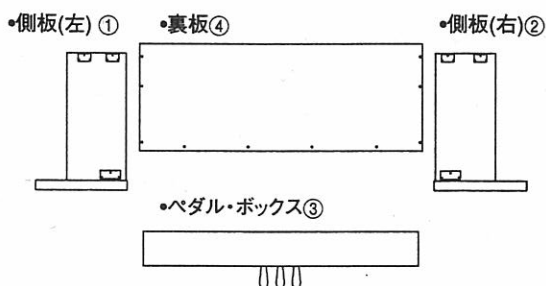
# ST-8600Ciの組み立て方



- 本体組み付けは二人以上で行ってください。
- 本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、注意してください。
- 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。

## 1. 箱をあけて部品を取り出します。

下記部品が揃っているのを確認してください。  
組み立てのために、お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意してください。



### • ビニール袋詰め

• 組み付けネジ⑤ 4本  
(M6 x 16)



• アジャスター ⑥ 1個



• ネジ ⑦ 10本  
(M3.5 x 16)



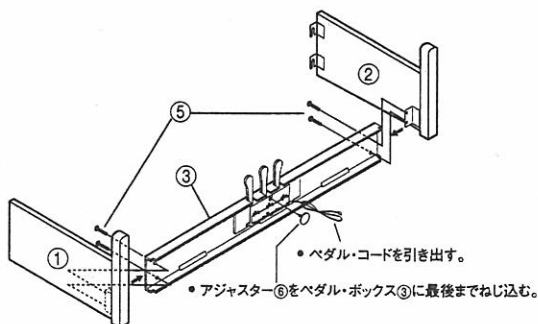
• 本体固定ネジ⑧ 4本



• コード・ホルダー ⑨ 1本

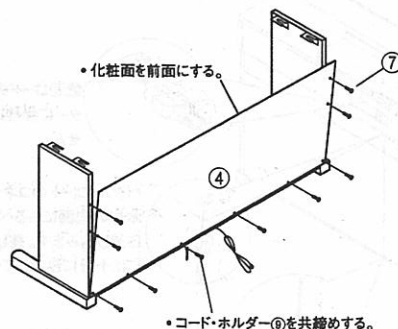


## 2. 側板(左) ①と側板(右) ②をペダル・ボックス③に組み付けネジ⑤4本で組み付けます。



## 3. 裏板④を組み付けます。

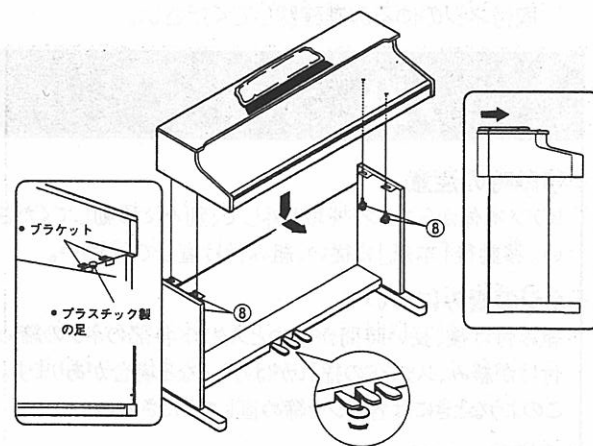
ネジ⑦で裏板④の下側(5ヶ所)を先に固定し、次にネジ⑦で側板(片側2ヶ所)に固定します。  
ネジ⑦1本でコード・ホルダー⑨を共締めします。



○ ここでスタンドに隙間やかたむきがないことを確認してください。

## 4. 本体を組み付けます。

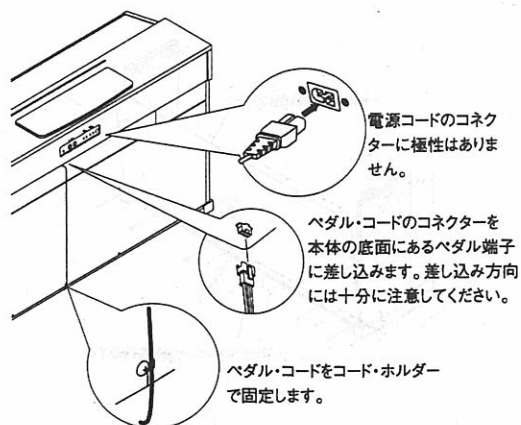
本体底面のプラスチック製の足を各側板の2つブラケットの間にくるように乗せます。本体を前側にスライドさせ、本体底面のプラスチック製の足が前側のブラケットにあたるようにします。本体固定ネジ⑧4本で下方から固定します。




アジャスターを回して、アジャスターが床にしっかり当たるように調節してください。  
アジャスターが床にしっかり当たらないとペダルがぐらつき故障の原因になります。

## 5. ペダル・コードと電源コードを接続、固定します。

付属の電源コードを本体背面のソケットに接続します。



-  設置場所は背面の電源コードに負荷をかけないように、壁からはなして設置してください。

## 組立後のチェック

- ☐ 部品は余っていませんか？  
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- ☐ 取付ネジがゆるんでいませんか？  
取付ネジのゆるみを確認してください。



### 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。

### ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

### 分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

# プログラム・リスト

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Piano	ピアノ		Bank #	Prog #
Grand Piano1	グランドピアノ1	400	5	0
Grand Piano2	グランドピアノ2	401	5	1
Grand Piano3	グランドピアノ3	402	5	2
Gentle Piano	ジェントル・ピアノ	403	5	3
Piano 1	ピアノ1	0	0	0
Piano 2	ピアノ2	1	0	1
Piano 3	ピアノ3	2	0	2
Honky-tonk	ホンキー・トンク	3	0	3
Harpsichord	ハープシコード	6	0	6
90's Piano	90's ピアノ	128	1	0
Rock Piano	ロック・ピアノ	129	1	1
New Piano	ニュー・ピアノ	130	1	2
M1 Piano	M1ピアノ	131	1	3
HarpsiFunk	ハーpsi・ファンク	134	1	6
Piano&Strgs	ピアノ&ストリングス	256	2	0
PianoPad	ピアノ・パッド	257	2	1
Midi Piano	ミディ・ピアノ	258	2	2
PianoVibes	ピアノ・バイブス	263	2	7
Lyle Stack	ライルスタック	291	2	35

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
E.Piano	エレクトリックピアノ		Bank #	Prog #
E.Piano 1	エレクトリックピアノ1	4	0	4
E.Piano 2	エレクトリックピアノ2	5	0	5
Clavi	クラビ	7	0	7
Whirly	ウーリー	132	1	4
DW-8000 EP	DW-8000エレピ	133	1	5
Clavmation	クラブメーション	135	1	7
Mark II bis	マーク・ビス	260	2	4
Hard Times	ハード・タイムズ	261	2	5
FunkyRoads	ファンキー・ローズ	262	2	6
Fantasia	ファンタジア	88	0	88
BellPad	ベル・パッド	226	1	98

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Organ	オルガン		Bank #	Prog #
Melody Organ	メロディー・オルガン	404	5	4
MelodyMonica	メロディー・ハーモニカ	405	5	5
ChurchOrgan	チャーチ・オルガン	19	0	19
Reed Organ	リード・オルガン	20	0	20
Organ 1	オルガン1	16	0	16
Organ 2	オルガン2	17	0	17
Organ 3	オルガン3	18	0	18
Musette	ミュゼット	21	0	21
Bandoneon	バンドネオン	23	0	23
Harmonica	ハーモニカ	22	0	22
Euro Pipe	ユーロ・パイプ	147	1	19
SmallPipe	スモール・パイプ	148	1	20
Gospel Org.	ゴスペル・オルガン	144	1	16
ClickOrgan	クリック・オルガン	145	1	17
Rotary Org.	ロータリー・オルガン	146	1	18
Fr.Musette	フレンチ・ミュゼット	149	1	21
Cassotto	キャソット	151	1	23
Akordeon	アコーデオン	150	1	22
Tone Wheel	トーン・ホイール	264	2	8
70' Organ	70' オルガン	265	2	9
Theatre Org.	シアター・オルガン	266	2	10
Velo Organ	タッチ・オルガン	267	2	11

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Flute/Sax	フルート/サクス		Bank #	Prog #
Melody Flute	メロディー・フルート	406	5	6
Melody FltAtk	メロディフルートAtk	407	5	7
Melody Tenor	メロディー・テナー	408	5	8
Soprano Sax	ソプラノ・サクス	64	0	64
Alto Sax	アルト・サクス	65	0	65
Tenor Sax	テナー・サクス	66	0	66
Baritone Sax	バリトン・サクス	67	0	67
Piccolo	ピッコロ	72	0	72
Flute	フルート	73	0	73
Clarinet	クラリネット	71	0	71
Oboe 1	オーボエ1	68	0	68
English Horn	イングリッシュ・ホルン	69	0	69
Bassoon	バスーン	70	0	70
Recorder	リコーダー	74	0	74
Ocarina 1	オカリナ1	79	0	79
Pan Flute	パン・フルート	75	0	75
Bottle Blow	ボトル・ブロー	76	0	76
Shaku 1	シャクハチ1	77	0	77
Bagpipe	バグパイプ	109	0	109
Shanai	シャナイ	111	0	111
Whistle 1	ホイッスル1	78	0	78
Syn.Calliope	シンセ・カリオペ	82	0	82
Chiffer Lead	チファー・リード	83	0	83
AltoBreath	アルト・ブレス	192	1	64
Folk Sax	フォーク・サクス	193	1	65
SoftTenor	ソフト・テナー	194	1	66
PerkySaxes	パーキー・サクス	195	1	67
Synth Fife	シンセ・フルート	200	1	72
BreathFlute	ブレス・フルート	201	1	73
Clarn.Ens.	クラリネット Ens.	199	1	71
Oboe 2	オーボエ2	196	1	68
Woodwinds	ウッドウィンズ	197	1	69
Small^Orch	スモール・オーケストラ	198	1	70
Traverso	トラヴェルソ	202	1	74
Ocarina 2	オカリナ2	207	1	79
Kawala	カワラ	203	1	75
BottleBlow	ボトル・ブロー	204	1	76
Shaku 2	シャクハチ2	205	1	77
Jaw Harp	ジョー・ハーブ	237	1	109
Hichiriki	ヒチリキ	239	1	111
Whistle 2	ホイッスル2	206	1	78
PurePanLd.	ピュア・パンリード	210	1	82
Velo Flute	ヴェロ・フルート	288	2	32
Flute/Muted	フルート/ミュート	289	2	33
Folk Clar.	フォーク・クラリネット	292	2	36
SectWinds	セクト・ウィンズ	293	2	37
Poppin'Pad	ポッピン・パッド	310	2	54

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Brass/Choir	ブラス/クワイア		Bank #	Prog #
MelodyTrumpet	メロディトランペット	409	5	9
Melody MuteTp	メロディーミュートTp	410	5	10
Trumpet	トランペット	56	0	56
MuteTrumpet	ミュート・トランペット	59	0	59
Trombone	トロンボーン	57	0	57
Tuba	チューバ	58	0	58
FrenchHorns	フレンチ・ホルン	60	0	60
Brass	ブラス	61	0	61
Syn.Brass 1	シンセ・ブラス1	62	0	62
Syn.Brass2	シンセ・ブラス2	63	0	63
FlugelHorn	フリューゲル・ホルン	184	1	56
Mute Ens.	ミュート・アンサンブル	187	1	59
Dynabone	ダイナボーン	185	1	57
OB. Tuba	OBチューバ	186	1	58
Horn Ens.	ホルン・アンサンブル	188	1	60
Brass Band	ブラス・バンド	189	1	61
Syn.Brass3	シンセ・ブラス3	190	1	62
Sfz<Brass	Sfz・ブラス	191	1	63

※「No.」は「ミキサー1/3」ページなどで使用するプログラム番号です。

・「MIDI Bank#」が「0」のプログラムはGMで使用するプログラムです。



DblBrass	ダブル・ブラス	268	2	12
Trump Ens.	トランペット Ens.	290	2	34
Brass Fall	ブラス・フォール	319	2	63
Choir Aahs	クワイア アー	52	0	52
Solo Vox	ソロ・ボックス	85	0	85
Space Voice	スペース・ボイス	91	0	91
Halo Pad	ハロー・パッド	94	0	94
Brightness	ブライトネス	100	0	100
Echo Drops	エコー・ドロップ	102	0	102
Voice Oohs	ボイス ウー	53	0	53
SynVox	シンセ・ボックス	54	0	54
Breath Noise	ブレス・ノイズ	121	0	121
Doolally	ドゥーラリー	180	1	52
Vox Lead	ボックス・リード	213	1	85
Heaven	ヘブン	219	1	91
Polar Pad	ポーラー・パッド	222	1	94
ElastikPad	イラスティックパッド	228	1	100
Big Panner	ビッグ・パンナー	230	1	102
AirVoxDbl	エアボックスダブル	181	1	53
Glassglide	グラスグライド	182	1	54
Laughing	ラフイング	249	1	121
DanceReMix	ダンス・リミックス	271	2	15
LiteVoices	ライト・ボイス	304	2	48
DigitalAir	デジタル・エアー	305	2	49
Air Vox	エアー・ボックス	306	2	50
Ambi.Voice	アンビエント・ボイス	307	2	51
Airways	エアー・ウェイズ	308	2	52

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Strings	ストリングス/ヴァイオリン		Bank #	Prog #
Melody Violin	メロディーバイオリン	411	5	11
Strings	ストリングス	48	0	48
Slow Strings	スロー・ストリングス	49	0	49
Tremolo Str.	トレモロ・ストリングス	44	0	44
PizzicatoStr.	ピチカートストリング	45	0	45
Violin	バイオリン	40	0	40
Viola	ビオラ	41	0	41
Cello	チェロ	42	0	42
Contrabass	コントラバス	43	0	43
Marcato	マルカート	176	1	48
Expr Str.	Exp.ストリングス	177	1	49
Octave Str.	オクターブストリング	172	1	44
OctavePizz.	オクターブピチカート	173	1	45
The Strings	ザ・ストリングス	168	1	40
ChambViola	チェンバー・ヴィオラ	169	1	41
Cello Ens.	チェロ・アンサンブル	170	1	42
ChamDBass	チェンバー・Wベース	171	1	43
i3 Strings	i3ストリングス	296	2	40
N-Strings	N-ストリングス	297	2	41
Light Pizz	ライト・ピチカート	302	2	46
DblStrings	ダブルストリングス	303	2	47
Stab Pad	スタブ・パッド	309	2	53
SynStrings 1	シンセ・ストリングス1	50	0	50
SynStrings 2	シンセ・ストリングス2	51	0	51
AnalogPad	アナログ・パッド	178	1	50
AnaStrings	アナログストリングス	179	1	51
Fiddle	フィドル	110	0	110
MandoTrem.	マンドリン・トレモロ	238	1	110
Harp	ハーブ	46	0	46
My dream	マイ・ドリーム	174	1	46
OrchestraHit	オーケストラ・ヒット	55	0	55
Impact Hit	インパクト・ヒット	183	1	55

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Guitar	ギター		Bank #	Prog #
Nylon Gtr.	ナイロン・ギター	24	0	24
SteelGtr.	スチール・ギター	25	0	25
Jazz Gtr.	ジャズ・ギター	26	0	26
Clean Gtr.	クリーン・ギター	27	0	27
Overdrive	オーバードライブ	29	0	29
Dist.Gtr.	ディスト・ギター	30	0	30
Muted Gtr.	ミュート・ギター	28	0	28
Charang	チャラン	84	0	84
GT.Harm.	ギター・ハーモニクス	31	0	31
L&R Ac.Gtr.	L&RアコースティックG	152	1	24
12 Strings	12 ゲン・ギター	153	1	25
PedalSteel	ペダル・スチール	154	1	26
L&R El.Gtr.	ステレオ・エレキギター	155	1	27
DistoMutes	ディスト・ミュート	157	1	29
Solo Dist.	ソロ・ディストーション	158	1	30
Clean Funk	クリーン・ファンク	156	1	28
Dist.Lead	ディスト・リード	212	1	84
PowerChord	パワー・コード	159	1	31
R&R Guitar	R&R ギター	272	2	16
ResonatedGtr	レゾネート・ギター	273	2	17
ElectricAc.	エレ・アコ・ギター	274	2	18
Mr.Clean	ミスター・クリーン	275	2	19
Hackbrett	ハックブレット	276	2	20
Gtr.Strings	ギター・ストリングス	277	2	21
StereoDist.	ステレオ・ディスト	278	2	22
Sitar	シタール	104	0	104
Banjo	バンジョー	105	0	105
Santur	サントール	15	0	15
Shamisen	シャミセン	106	0	106
Koto	コト	107	0	107
Gt.FretNoise	ギターフレットノイズ	120	0	120
Tambra	タンブーラ	232	1	104
Bouzouki	ブズーキ	233	1	105
Celtic Plug	ケルティック・プラグ	143	1	15
Oud	ウード	234	1	106
Kanoon	カヌーン	235	1	107
Ukulele	ウクレレ	236	1	108

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Bass	ベース		Bank #	Prog #
Acoustic Bs.	アコースティックベース	32	0	32
Fingered Bs.	フィンガー・ベース	33	0	33
Picked Bs.1	ピック・ベース1	34	0	34
Fretless Bs.	フレットレス・ベース	35	0	35
Slap Bass 1	スラップ・ベース1	36	0	36
Slap Bass 2	スラップ・ベース2	37	0	37
SynthBass 1	シンセ・ベース1	38	0	38
SynthBass 2	シンセ・ベース2	39	0	39
Upright	アップライト	160	1	32
Bass/Harm.	ベース・ハーモニクス	161	1	33
Picked Bs.2	ピック・ベース2	162	1	34
Fat Fretty	ファット・フレッティ	163	1	35
SuperRound	スーパー・ラウンド	164	1	36
DynaSlap	ダイナミックスラップ	165	1	37
Dance Bass	ダンス・ベース	166	1	38
SquareBass	スクエア・ベース	167	1	39
Ultra Rez	ウルトラ・レゾ	270	2	14
Gtr/Bass	ギター/ベース	279	2	23
FingerDark	フィンガー・ダーク	280	2	24
Dyno Bass	ダイノ・ベース	281	2	25
Bass/Mute	ベース/ミュート	282	2	26
Stick Bass	スティック・ベース	283	2	27
Deep House	ディープ・ハウス	284	2	28
Dr.Octave	ドクター・オクターブ	285	2	29
Rap Bass	ラップ・ベース	286	2	30
Zap bass	ザップ・ベース	287	2	31

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Synth/S.E.	シンセ/効果音		Bank #	Prog #
SquareWave	スクエア・ウェーブ	80	0	80
Saw Wave	ソウ・ウェーブ	81	0	81
5Th Wave	フィフス・ウェーブ	86	0	86
Bass & Lead	ベース&リード	87	0	87
PolySynth	ポリ・シンセ	90	0	90
Ice Rain	アイス・レイン	96	0	96
Warm Pad	ウォーム・パッド	89	0	89
BowedGlass	ボウド・グラス	92	0	92
Metal Pad	メタル・パッド	93	0	93
Sweep Pad	スイープ・パッド	95	0	95
Soundtrack	サウンドトラック	97	0	97
Atomosphere	アトモスフィア	99	0	99
Goblin	ゴブリン	101	0	101
Star Theme	スター・テーマ	103	0	103
Soft Solo	ソフト・ソロ	208	1	80
Big Lead	ビッグ・リード	209	1	81
Rubby	ラビー	211	1	83
Big Fives	ビッグ・ファイブス	214	1	86
Big & Raw	ビッグ&ロー	215	1	87
Thick Pad	シック・パッド	216	1	88
Soft Pad	ソフト・パッド	217	1	89
Farluce	ファールース	218	1	90
Glass Pad	グラス・パッド	220	1	92
Panner Pad	パンナー・パッド	221	1	93
Celestial	セレシヤル	223	1	95
Caribbean	カリビーン	224	1	96
AmbientPad	アンビエントパッド	227	1	99
Bell Choir	ベル・クワイア	229	1	101
Odyssey	オディッシー	231	1	103
Fresh Air	フレッシュ・エアー	259	2	3
SlowSunset	スロー・サンセット	269	2	13
FallAngels	フォール・エンジェルズ	294	2	38
Lylesircs	ライルサークス	295	2	39
Ravel Pad	ラヴェル・パッド	298	2	42
Dark Pad	ダーク・パッド	299	2	43
Yoshi Pad	ヨシ・パッド	300	2	44
Swell Pad	スウェル・パッド	301	2	45
MonoLead	モノ・リード	311	2	55
Space Wing	スペース・ウィング	313	2	57
SteamCloud	スチーム・クラウド	316	2	60
Fragments	フラグメンツ	318	2	62
Rave	レイブ	225	1	97
Heart Beat	ハート・ビート	248	1	120
Jet Star	ジェット・スター	312	2	56
Ambience	アンビエンス	314	2	58
Glide Fx	グライド Fx	315	2	59
WhiteNoise	ホワイト・ノイズ	317	2	61
Seashore	シーショアー	122	0	122
Bird	バード	123	0	123
Telephone 1	テレフォン1	124	0	124
Helicopter	ヘリコプター	125	0	125
Applause	アプローズ	126	0	126
Gun Shot	ガン・ショット	127	0	127
Wind	ウィンド	250	1	122
Gallop	ギャロップ	251	1	123
Telephone 2	テレホン2	252	1	124
Train	トレイン	253	1	125
Stadium!!	スタジアム	254	1	126
Explosion	エキスプロージョン	255	1	127

プログラム名 (English, Japanese)		No.*	MIDI	
Percussion	パーカッション		Bank #	Prog #
Celesta	チェレスタ	8	0	8
Glockenspiel	グロッケンシュピール	9	0	9
Music Box	ミュージックボックス	10	0	10
Kalimba	カリンバ	108	0	108
Vibraphone	ビブラフォン	11	0	11
Marimba	マリンバ	12	0	12
Xylophone	シロフォン	13	0	13
Tubular Bell	チューブラー・ベル	14	0	14
Timpani	ティンパニー	47	0	47
Soft Timpani	ソフト・ティンパニー	175	1	47
Agogo	アゴゴ	113	0	113
Steel Drums	スチール・ドラム	114	0	114
Woodblock	ウッドブロック	115	0	115
Crystal	クリスタル	98	0	98
Tinkle Bell	ティンクル・ベル	112	0	112
Taiko	タイコ	116	0	116
Melo. Tom	メロウ・タム	117	0	117
Synth Drum	シンセドラム	118	0	118
ReverseCym.	リバーズ・シンバル	119	0	119
SynCelesta	シンセ・チェレスタ	136	1	8
Sistro	シストロ	137	1	9
Orgel	オルゲル	138	1	10
SynVibes	シンセ・バイブス	139	1	11
Balaphone	バラフォン	140	1	12
Gamelan	ガムラン	141	1	13
ChurchBell	チャーチ・ベル	142	1	14
Cowbell	カウベル	241	1	113
Claves	クラベス	242	1	114
Castanets	カスタネット	243	1	115
WindChimes	ウィンド・チャイム	240	1	112
Tsuzumi	ツツミ	244	1	116
Oil Drum	オイル・ドラム	245	1	117
Rev.Tom	リバーズ・タム	246	1	118
Rev.Snare	リバーズ・スネア	247	1	119
GM Kit 1	GMキット1	384	4	0
GM Kit 2	GMキット2	385	4	1
Room Kit	ルーム・キット	386	4	8
Power Kit	パワー・キット	387	4	16
Electronic Kit	エレクトロニック・キット	388	4	24
Analog Kit	アナログ・キット	389	4	25
Dance Kit	ダンス・キット	390	4	26
Jazz Kit	ジャズ・キット	391	4	32
Brush Kit	ブラッシュ・キット	392	4	40
Orchestra Kit	オーケストラ・キット	393	4	48
Percussion Kit	パーカッション・キット	394	4	64
Latin Perc. Kit	ラテン・キット	395	4	65
Arabian Kit	アラビアン・キット	396	4	116
SFX Kit	SFXキット	397	4	56

# リズム・スタイル・リスト

グループ名 (English, Japanese)		No.*
8/16 BEAT	8/16 ビート	
8 Beat	8ビート	64
GuitarBallad	ギター・バラード	65
L.A. R&B	L.A. R&B	66
Sweet Beat	スウィート・ビート	67
Analog Night	アナログ・ナイト	68
8 Beat Rock	8ビート・ロック	69
ShuffleShade	シャッフル・シェード	70
Rhythm&Beat	リズム&ビート	71
16 Beat	16ビート	72
Windy Beat	ウィンディー・ビート	73
Home Beat	ホーム・ビート	74
ColorBeat	カラー・ビート	75
Miami Beat	マイアミ・ビート	76
Analogyt	アナログイスト	77
Thin Funk	シン・ファンク	78
Easy Rock	イージー・ロック	79

グループ名 (English, Japanese)		No.*
DANCE	ダンス	
Party Polka	パーティー・ポルカ	88
NonstopParty	ノンストップパーティー	89
Motown	モータウン	90
Love disco	ラブ・ディスコ	91
Disco '70	ディスコ'70	92
80's Dance	80'sダンス	93
House	ハウス	94
Techno	テクノ	95
Progressive	プログレッシブ	96
Underground	アンダーグラウンド	97
Jungle	ジャングル	98
Garage	ガラーヂュ	99
Euro Rap	ユーロ・ラップ	100
Hip Hop	ヒップ・ホップ	101
DancingTribe	ダンス・トライブ	102
Down Beat	ダウン・ビート	103

グループ名 (English, Japanese)		No.*
LATIN	ラテン	
Basic Bossa	ベーシックボサノバ	104
Bossa nueva	ボサノバ・ニューバ	105
Miss Bossa	ミス・ボサノバ	106
Samba	サンバ	107
Sambalegre	サンバレグレ	108
Beguine	ビギン	109
Last Rhumba	ラスト・ルンバ	110
Cha Cha Cha	チャ・チャ・チャ	111
Tango	タンゴ	112
Habanera	ハバネラ	113
Paso Doble	パソ・ドブレ	114
Cumbia	クンビア	115
By on	バイオン	116
Calypso	カリブソ	117
Reggae	レゲエ	118
Dance Reggae	ダンス・レゲエ	119

グループ名 (English, Japanese)		No.*
BALLROOM	ボールルーム	
Pop 6/8	ポップ6/8	80
Back to 60's	バック・トゥー・60's	81
Rock 6/8	ロック6/8	82
Flipper 6/8	フリップパー6/8	83
Flipper 4/4	フリップパー4/4	84
Twist	ツイスト	85
Hully Gully	ハリー・ガリー	86
Beach Surfer	ビーチ・サーファー	87
Mambo	マンボ	120
Salsa	サルサ	121
Merengue	メレンゲ	122
Meneito	メネイト	123
Macarena	マカレナ	124
Tikitikita	チキチキタ	125
Lambada	ランバダ	126
Disco Samba	ディスコ・サンバ	127

グループ名 (English, Japanese)		No.*
TRAD	トラッド	
Waltz	ワルツ	128
Mazurka	マズルカ	129
Polka	ポルカ	130
German Waltz	ジャーマン・ワルツ	131
Laendler	レンドラー	132
German Polka	ジャーマン・ポルカ	133
W. Musette	ワルツ・ミュゼット	134
French March	フレンチ・マーチ	135
WienerWaltz	ウィナー・ワルツ	136
Slow Waltz1	スロー・ワルツ1	137
Slow Waltz2	スロー・ワルツ2	138
Operetta	オペレッタ	139
Fox Trot	フォックス・トロット	140
Club Fox	クラブ・フォックス	141
Quick Step	クイック・ステップ	142
Charleston	チャールストン	143

グループ名 (English, Japanese)		No.*
JAZZ/FUNK	ジャズ/ファンク	
BigBand 40's	B.バンド40'S	144
Big Band	ビッグ・バンド	145
Fast BigBand	ファスト・B.バンド	146
Latin BigBand	ラテン・B.バンド	147
Broadway	ブロードウェイ	148
Hollywood	ハリウッド	149
Jazz Waltz	ジャズ・ワルツ	150
5/4 Swing	5/4スイング	151
Ballad	バラード	152
Medium Swing	ミディアムスイング	153
Be Bop	ビ・バップ	154
Acid Jazz	アシッド・ジャズ	155
Latin Jazz	ラテン・ジャズ	156
Still Life	スティール・ライフ	157
Party Funk	パーティー・ファンク	158
Groove	グルーブ	159



グループ名 (English, Japanese)		No.*
R&B/ROCK	R&B/ロック	
R. & B.	R. & B.	160
6/8 Blues	6/8ブルース	161
Gospel	ゴスペル	162
Blues Shuffle	ブルース・シャッフル	163
Pop Shuffle	ポップ・シャッフル	164
Uncle Funk	アンクル・ファンク	165
Get Funked	ゲット・ファンク	166
Electric Funk	エレクトリック・ファンク	167
Light Rock	ライト・ロック	168
Pop Rock	ポップ・ロック	169
Open Rock	オープン・ロック	170
Heavy Rock	ヘビー・ロック	171
Rock Ballad	ロック・バラード	172
Half Time	ハーフ・タイム	173
Rock & Roll	ロック&ロール	174
Rock Hip Hop	ロック・ヒップホップ	175

グループ名 (English, Japanese)		No.*
WORLD	ワールド	
Country	カントリー	176
Country Beat	カントリー・ビート	177
Country Bld.	カントリー・バラード	178
Dixieland	ディキシランド	179
On The Bridge	オン・ザ・ブリッジ	180
Tarantella	タランテラ	181
Sevillana	セビリアーナ	182
Gipsy	ジプシー	183
9/8 Roman	9/8ロマン	184
Ciftetelli	チフテデリ	185
Mariachi	マリアッチ	186
Raspa	ラスパ	187
Venezia	ベネチア	188
Minuetto	メヌエット	189
Bolero	ボレロ	190
New Age	ニュー・エイジ	191

グループ名 (English, Japanese)		No.*
PIANIST	ピアニスト	
Classic	クラシック	192
Classic 3/4	クラシック 3/4	193
Waltz	ワルツ	194
March	マーチ	195
Ragtime	ラグタイム	196
Swing	スイング	197
Jazz Waltz	ジャズ ワルツ	198
Arpeggio 1	アルペジオ 1	199
Arpeggio 2	アルペジオ 2	200
Ballad	バラード	201
Rock Ballad	ロックバラード	202
Pop 1	ポップ 1	203
Pop 2	ポップ 2	204
Pop 3	ポップ 3	205
Country	カントリー	206
Shuffle	シャッフル	207
Gospel	ゴスペル	208
Boogie Woogie	ブギ ウギ	209
50's Rock	50's ロック	210
Bossa Nova	ボサノバ	211
Tango	タンゴ	212
Ballad Trio 1	バラードトリオ 1	213
Ballad Trio 2	バラードトリオ 2	214
Ballad Quartet	バラードカルテット	215
Jazz Trio	ジャズトリオ	216
Latin Quartet	ラテンカルテット	217

# ドラム・キット・リスト

Key #	Note	GM Kit 1 Inst	Excl	GM Kit 2 Inst	Excl	Room Kit Inst	Excl	Power Kit Inst	Excl
21	A0	Syn Kick 1	--	Syn Kick 1	--	Syn Kick 2	--	Dance Kick	--
22	A#0	SynSnare 2	--	SynSnare 2	--	AmbiSnare1	--	SynSnare 2	--
23	B0	Syn Kick 3	--	Syn Kick 3	--	Syn Kick 3	--	Syn Kick 3	--
24	C1	SynSnare 1	--	SynSnare 1	--	SynSnare 1	--	SynSnare 1	--
25	C#1	FullRoomSD	--	FullRoomSD	--	LightSnare	--	PicloSnare	--
26	D1	GatedSnare	--	--	--	TightSnare	--	Snare 1	--
27	D#1	Dry Kick 2	--	Dry Kick 2	--	Fat Kick	--	Rock Kick	--
28	E1	Rock Kick	--	Ambi.Kick	--	Gated Kick	--	--	--
29	F1	Snare 2	--	AmbiSnare2	--	FullRoomSD	--	FullRoomSD	--
30	F#1	Open HH 1	1	Close HH	1	Open HH 1	1	Open HH 1	1
31	G1	Gated Kick	--	PillowKick	--	Real Kick	--	Fat Kick	--
32	G#1	Side Stick	--	--	--	Metronome2	--	Metronome2	--
33	A1	RollSnare2	7	RollSnare2	7	AmbiSnare2	--	AmbiSnare2	--
34	A#1	RollSnare1	7	RollSnare1	7	PowerSnare	--	FullRoomSD	--
35	B1	Fat Kick	--	ProcesKick	--	Rock Kick	--	Ambi.Kick	--
36	C2	Ambi.Kick	--	Fat Kick	--	Ambi.Kick	--	Gated Kick	--
37	C#2	Side Stick	--	Side Stick	--	Side Stick	--	Side Stick	--
38	D2	DrySnare 1	--	DrySnare 1	--	GatedSnare	--	PowerSnare	--
39	D#2	Syn Claps	--	Syn Claps	--	Syn Claps	--	Hand Claps	--
40	E2	FullRoomSD	--	Rock Snare	--	LightSnare	--	GatedSnare	--
41	F2	Tom 2 Lo	--	Tom 2 Lo	--	Tom 1 Lo	--	ProcessTom	--
42	F#2	Close HH	1	Close HH	1	Close HH	1	Close HH	1
43	G2	Tom 2 Lo	--	Tom 2 Lo	--	Tom 1 Lo	--	ProcessTom	--
44	G#2	Pedal HH 1	1	Pedal HH 1	1	Pedal HH 1	1	Pedal HH 1	1
45	A2	Tom 2 Lo	--	Tom 2 Lo	--	Tom 1 Lo	--	ProcessTom	--
46	A#2	Open HH 1	1	Open HH 1	1	Open HH 1	1	Open HH 1	1
47	B2	Tom 2 Lo	--	Tom 2 Hi	--	Tom 1 Lo	--	ProcessTom	--
48	C3	Tom 2 Hi	--	Tom 2 Hi	--	Tom 1 Lo	--	ProcessTom	--
49	C#3	Crash Cym	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--
50	D3	Tom 2 Hi	--	Tom 2 Hi	--	Tom 1 Lo	--	ProcessTom	--
51	D#3	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--
52	E3	China Cym	--	China Cym	--	China Cym	--	China Cym	--
53	F3	Ride Cup	--	Ride Cup	--	Ride Cup	--	Ride Cup	--
54	F#3	Tambourine	--	Tambourine	--	Tambourine	--	Tambourine	--
55	G3	Splash Cym	--	Splash Cym	--	Splash Cym	--	Splash Cym	--
56	G#3	Cowbell 1	--	Cowbell 1	--	Cowbell 1	--	Cowbell 1	--
57	A3	Crash Cym	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--
58	A#3	Viblaslap	--	Viblaslap	--	Viblaslap	--	Viblaslap	--
59	B3	Ride Cym 2	--	Ride Edge	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--
60	C4	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--
61	C#4	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--
62	D4	Slap Conga	--	Slap Conga	--	Slap Conga	--	Slap Conga	--
63	D#4	Open Conga	--	Open Conga	--	Open Conga	--	Open Conga	--
64	E4	Open Conga	--	Open Conga	--	Open Conga	--	Open Conga	--
65	F4	Timbal1HiO	--	Timbal1HiO	--	Timbal1HiO	--	Timbal1HiO	--
66	F#4	Timbal1LoO	--	Timbal1LoO	--	Timbal1LoO	--	Timbal1LoO	--
67	G4	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--
68	G#4	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--
69	A4	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--
70	A#4	SynMaracas	--	SynMaracas	--	SynMaracas	--	SynMaracas	--
71	B4	Whistle S	2	Whistle S	2	Whistle S	2	Whistle S	2
72	C5	Whistle L	2	Whistle L	2	Whistle L	2	Whistle L	2
73	C#5	Guiro S	4	Guiro S	4	Guiro S	4	Guiro S	4
74	D5	Guiro L	4	Guiro L	4	Guiro L	4	Guiro L	4
75	D#5	Claves	--	Claves	--	Claves	--	Claves	--
76	E5	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--
77	F5	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--
78	F#5	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3
79	G5	Open Cuica	3	Open Cuica	3	Open Cuica	3	Open Cuica	3
80	G#5	MuteTriang	5	MuteTriang	5	MuteTriang	5	MuteTriang	5
81	A5	OpenTriang	5	OpenTriang	5	OpenTriang	5	OpenTriang	5
82	A#5	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--
83	B5	JingleBell	--	JingleBell	--	JingleBell	--	JingleBell	--
84	C6	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--
85	C#6	Castanet1V	--	Castanet1V	--	Castanet1V	--	Castanet1V	--
86	D6	Baya 1	6	Baya 1	6	Baya 1	6	Baya 1	6
87	D#6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6



Key #	Note	Electronic Kit		Analog Kit		Dance Kit		Jazz Kit	
		Inst	Excl	Inst	Excl	Inst	Excl	Inst	Excl
21	A0	Dance Kick	--	Explosion	--	Snare 1	--	Syn Kick 1	--
22	A#0	SynSnare 2	--	AmbiSnare1	--	Snare 1	--	SynSnare 1	--
23	B0	Syn Kick 3	--	Real Kick	--	Syn Kick 3	--	Syn Kick 3	--
24	C1	SynSnare 1	--	GatedSnare	--	SynSnare 1	--	SynSnare 1	--
25	C#1	Rock Snare	--	PicloSnare	--	Snare 1	--	LightSnare	--
26	D1	OilDrum	--	Rock Snare	--	AmbiSnare2	--	AmbiSnare2	--
27	D#1	Syn Kick 1	--	Fat Kick	--	Ambi.Kick	--	Ambi.Kick	--
28	E1	Gated Kick	--	Dance Kick	--	Rock Snare	--	PillowKick	--
29	F1	PowerSnare	--	AmbiSnare2	--	WhiteNoise	--	FullRoomSD	--
30	F#1	ClosSynHH1	1	Close HH	1	Zap 2	1	Open HH 1	1
31	G1	Fat Kick	--	Ambi.Kick	--	Dry Kick 1	--	Dry Kick 1	--
32	G#1	Zap 1	--	Zap 1	--	Zap 1	--	Metronome2	--
33	A1	GatedSnare	--	FullRoomSD	--	Gun Shot 1	--	DrySnare 1	--
34	A#1	PowerSnare	--	Snare 1	--	SolidHit	--	FullRoomSD	--
35	B1	Ambi.Kick	--	Syn Kick 1	--	Syn Kick 1	--	Ambi.Kick	--
36	C2	Syn Kick 4	--	Syn Kick 3	--	Dance Kick	--	Dry Kick 2	--
37	C#2	Syn Rim	--	Syn Rim	--	Metronome2	--	Side Stick	--
38	D2	SynSnare 2	--	SynSnare 1	--	FullRoomSD	--	LightSnare	--
39	D#2	Syn Claps	--	Syn Claps	--	Syn Claps	--	Hand Claps	--
40	E2	AmbiSnare1	--	SynSnare 2	--	AmbiSnare1	--	Snare 2	--
41	F2	Syn Tom 1	--	SynTom2 Hi	--	ProcessTom	--	Tom 1 Lo	--
42	F#2	Close HH	1	ClosSynHH1	1	Close HH	1	Close HH	1
43	G2	Syn Tom 1	--	SynTom2 Hi	--	ProcessTom	--	Tom 1 Lo	--
44	G#2	Pedal HH 1	1	ClosSynHH1	1	ClosSynHH1	1	Pedal HH 1	1
45	A2	Syn Tom 1	--	SynTom2 Hi	--	ProcessTom	--	Tom 1 Lo	--
46	A#2	Open HH 1	1	OpenSynHH1	1	OpenSynHH1	1	Open HH 1	1
47	B2	Syn Tom 1	--	SynTom2 Hi	--	ProcessTom	--	Tom 1 Lo	--
48	C3	Syn Tom 1	--	SynTom2 Hi	--	ProcessTom	--	Tom 1 Hi	--
49	C#3	Crash Cym	--	OpenSynHH1	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--
50	D3	Syn Tom 1	--	SynTom2 Hi	--	ProcessTom	--	Tom 1 Hi	--
51	D#3	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--
52	E3	Rev.Cymbal	--	China Cym	--	Rev.Cymbal	--	China Cym	--
53	F3	Ride Cup	--	Ride Cup	--	Ride Cup	--	Ride Cup	--
54	F#3	Tambourine	--	Tambourine	--	Tambourine	--	Tambourine	--
55	G3	Splash Cym	--	Splash Cym	--	Splash Cym	--	Splash Cym	--
56	G#3	Cowbell 1	--	SynCowbell	--	SynCowbell	--	Cowbell 1	--
57	A3	Crash Cym	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--
58	A#3	Viblaslap	--	Viblaslap	--	Viblaslap	--	Viblaslap	--
59	B3	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--
60	C4	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--
61	C#4	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--
62	D4	Slap Conga	--	SynTom2 Hi	--	Palm Conga	--	Slap Conga	--
63	D#4	Open Conga	--	SynTom2 Hi	--	Open Conga	--	Open Conga	--
64	E4	Open Conga	--	SynTom2 Lo	--	Open Conga	--	Open Conga	--
65	F4	Timbal1HiO	--	Timbal1HiO	--	Timbal1HiO	--	Timbal1HiO	--
66	F#4	Timbal1LoO	--	Timbal1LoO	--	Timbal1LoO	--	Timbal1LoO	--
67	G4	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--
68	G#4	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--	Agogo 1	--
69	A4	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--
70	A#4	SynMaracas	--	SynMaracas	--	SynMaracas	--	SynMaracas	--
71	B4	Whistle S	2	Whistle S	2	Whistle S	2	Whistle S	2
72	C5	Whistle L	2	Whistle L	2	Whistle L	2	Whistle L	2
73	C#5	Guiro S	4	Guiro S	4	Guiro S	4	Guiro S	4
74	D5	Guiro L	4	Guiro L	4	Guiro L	4	Guiro L	4
75	D#5	Claves	--	Syn Claves	--	Syn Claves	--	Claves	--
76	E5	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--
77	F5	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--
78	F#5	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3
79	G5	Open Cuica	3	Open Cuica	3	Open Cuica	3	Open Cuica	3
80	G#5	MuteTriang	5	MuteTriang	5	MuteTriang	5	MuteTriang	5
81	A5	OpenTriang	5	OpenTriang	5	OpenTriang	5	OpenTriang	5
82	A#5	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--	Cabasa	--
83	B5	JingleBell	--	JingleBell	--	JingleBell	--	JingleBell	--
84	C6	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--
85	C#6	Castanet1V	--	Castanet1V	--	Castanet1V	--	Castanet1V	--
86	D6	Baya 1	6	Baya 1	6	Baya 1	6	Baya 1	6
87	D#6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6

Key #	Note	Brush Kit Inst	Excl	Orchestra Kit Inst	Excl	Percussion Kit Inst	Excl	Latin Perc. Kit Inst	Excl
21	A0	Tom 1 Lo	---	OFF	---	OFF	---	OFF	---
22	A#0	Tom 1 Lo	---	OFF	---	OFF	---	MuteTriang	7
23	B0	Tom 1 Lo	---	OFF	---	OFF	---	OpenTriang	7
24	C1	Tom 1 Lo	---	RollSnare2	7	Flexatone	---	Flexatone	---
25	C#1	Tom 1 Hi	---	RollSnare1	7	FingCymbal	---	FingCymbal	---
26	D1	DrySnare 1	---	FingrSnap1	---	Tsuzumi	---	SynCowbell	---
27	D#1	Orch B.Drm	---	Close HH	1	Lo Bongo	---	Castanet 1	6
28	E1	Punch Kick	---	---	1	Hi Bongo	---	Castanet1V	---
29	F1	FingrSnap1	---	Open HH 1	1	Lo Bongo	---	FingrSnap1	---
30	F#1	Open HH 1	1	Ride Edge	---	Tambourine	---	Snap	---
31	G1	Dry Kick 1	---	Stick Hit	---	Agogo 1	---	MetalHitHi	---
32	G#1	Side Stick	---	Snap	---	Wind	---	MetalHitLo	---
33	A1	Brush Tap	---	Metronome1	---	Agogo 1	---	Tsuzumi	---
34	A#1	Brush Tap	---	Tubular 3	---	Slap Bongo	---	Tsuzumi	---
35	B1	PillowKick	---	Real Kick	---	WoodBlockL	---	Tsuzumi	---
36	C2	Dry Kick 2	---	Orch B.Drm	---	Claves	---	Orch B.Drm	1
37	C#2	Side Stick	---	Side Stick	---	WoodBlockM	---	Orch B.Drm	1
38	D2	BrushNoise	---	DrySnare 1	---	BongBellOp	---	Agogo 1	---
39	D#2	Brush Snap	---	Castanet1V	---	WoodBlockH	---	Agogo 1	---
40	E2	BrushSwish	---	DrySnare 1	---	Castanet 1	---	Open Conga	---
41	F2	Brush Tom	---	Timpani	---	Baya 2	---	Mute Conga	---
42	F#2	Close HH	1	Timpani	---	Shaker 1	---	Palm Conga	---
43	G2	Brush Tom	---	Timpani	---	Baya 1	---	Slap Conga	---
44	G#2	Pedal HH 1	1	Timpani	---	Maracas 1	---	SynMaracas	---
45	A2	Brush Tom	---	Timpani	---	Baya 2	---	Open Conga	---
46	A#2	Open HH 1	1	Timpani	---	Cabasa	---	MuteTriang	2
47	B2	Brush Tom	---	Timpani	---	Tabla 3	1	OpenTriang	2
48	C3	Brush Tom	---	Timpani	---	Tabla 2	1	Mute Conga	---
49	C#3	Crash Cym	---	Timpani	---	Viblaslap	---	Palm Conga	---
50	D3	Brush Tom	---	Timpani	---	Tabla 1	1	Slap Conga	---
51	D#3	Ride Cym 2	---	Timpani	---	MuteTriang	3	Tambourine	---
52	E3	China Cym	---	Timpani	---	Orch B.Drm	---	Open Conga	---
53	F3	Ride Edge	---	Timpani	---	OpenTriang	3	Lo Bongo	---
54	F#3	Tambourine	---	Tambourine	---	Guio S	2	Lo Bongo	---
55	G3	Splash Cym	---	Splash Cym	---	JingleBell	---	Hi Bongo	---
56	G#3	Cowbell 1	---	Cowbell 1	---	Guio L	2	Timbal1LoO	---
57	A3	Crash Cym	---	Crash Cym	---	MarcTree 1	---	Slap Bongo	---
58	A#3	Viblaslap	---	Viblaslap	---	MarcTree 2	---	Timbal1LoO	---
59	B3	Ride Cym 1	---	Orch Cym	---	Maracas 1	---	Tambourine	---
60	C4	Hi Bongo	---	Hi Bongo	---	Hand Claps	---	Timbal1Pil	---
61	C#4	Lo Bongo	---	Lo Bongo	---	Syn Claps	---	Timbal1HiO	---
62	D4	Slap Conga	---	Slap Conga	---	Scratch Lo	---	Timbal1Pil	---
63	D#4	Open Conga	---	Open Conga	---	Scratch Hi	---	Timbal1HiO	---
64	E4	Open Conga	---	Open Conga	---	ScratchDbl	---	Timbal1HiR	---
65	F4	Timbal1HiO	---	Timbal1HiO	---	Whistle S	4	Timbal1HiR	---
66	F#4	Timbal1LoO	---	Timbal1LoO	---	Whistle L	4	Rek Dom 2	---
67	G4	Agogo 1	---	Agogo 1	---	Slap Conga	---	Rek Dom 2	---
68	G#4	Agogo 1	---	Agogo 1	---	Mute Conga	---	Rek Dom 2	---
69	A4	Cabasa	---	Cabasa	---	Open Conga	---	Rek Slap	---
70	A#4	SynMaracas	---	SynMaracas	---	Open Conga	---	BongBellOp	---
71	B4	Whistle S	2	Whistle S	2	Mute Cuica	---	WoodBlockL	---
72	C5	Whistle L	2	Whistle L	2	Open Cuica	---	WoodBlockM	---
73	C#5	Guio S	4	Guio S	4	Timbal1Pil	---	BongBellMt	---
74	D5	Guio L	4	Guio L	4	Timbal1HiR	---	Maracas 1	---
75	D#5	Claves	---	Claves	---	Timbal1HiO	---	Manbo Bell	---
76	E5	WoodBlockM	---	WoodBlockM	---	Timbal1LoO	---	Cabasa	---
77	F5	WoodBlockM	---	WoodBlockM	---	Syn Claves	---	Shaker 3	---
78	F#5	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3	SynCowbell	---	Cowbell 1	---
79	G5	Open Cuica	3	Open Cuica	3	FingrSnap1	---	Shaker 1	---
80	G#5	MuteTriang	5	MuteTriang	5	Taiko Hi	---	Shaker 1	---
81	A5	OpenTriang	5	OpenTriang	5	Taiko Lo	---	Shaker 2	---
82	A#5	Cabasa	---	Cabasa	---	Zap 2	---	Tambourim3	---
83	B5	JingleBell	---	JingleBell	---	RollSnare1	5	Tambourim1	---
84	C6	MarcTree 1	---	MarcTree 1	---	RollSnare2	5	Tambourim2	---
85	C#6	Castanet1V	---	Castanet1V	---	Orch Cym	6	Tambourim2	---
86	D6	Baya 1	6	Baya 1	6	Orch Cym	6	Tambourim1	---
87	D#6	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6	Udu	---	Udu	---
88	E6	OFF	---	Applause 1	1	Orch Hit	---	DjembeOpen	---
89	F6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Maracas 1	---
90	F#6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Maracas 1	---
91	G6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Mute Cuica	---
92	G#6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Guio L	3
93	A6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Guio S	3
94	A#6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Guio S	3
95	B6	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Open Cuica	---
96	C7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Claves	---
97	C#7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Whistle S	4
98	D7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Whistle L	4
99	D#7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Sagat Open	5
100	E7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Sagat HiOp	5
101	F7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	SagatClose	5
102	F#7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	JingleBell	---
103	G7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	MarcTree 1	---
104	G#7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	MarcTree 2	---
105	A7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Tri Roll	2
106	A#7	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Cast Roll	6
107	G8	OFF	---	OFF	---	Orch Hit	---	Metronome1	---

Key #	Note	Arabian Kit Inst	Excl	SFX Kit Inst	Excl	Techno Kit(CID-00PJ.PRG) Inst	Excl	Rock Kit(CID-00PJ.PRG) Inst	Excl
21	A0	Metronome2	--	OFF		Dry Kick 2	--	Syn Kick 1	--
22	A#0	Tubular 3	--	OFF		Rock Snare	--	SynSnare 2	--
23	B0	Cowbell 1	--	OFF		Gated Kick	--	SynTom2 Lo	--
24	C1	Cowbell 1	--	OFF		FullRoomSD	--	SynSnare 1	--
25	C#1	RollSnare1	--	OFF		PicloSnare	--	LightSnare	--
26	D1	FingSnap1	--	OFF		Rock Snare	--	AmbiSnare2	--
27	D#1	Zap 2	--	OFF		Syn Kick 1	--	Dry Kick 2	--
28	E1	Tite HH 1	--	OFF		Dance Kick	--	PillowKick	--
29	F1	Gt Scratch	--	OFF		Snare 1	--	PicloSnare	--
30	F#1	Gt Scratch	--	OFF		Close HH	1	ClosSynHH1	1
31	G1	Stick Hit	--	Scratch b	1	Ambi.Kick	--	Ambi.Kick	--
32	G#1	Palm Conga	--	Scratch c	1	Zap 1	--	Metronome2	--
33	A1	Metronome2	--	GtCutNois1	--	FullRoomSD	--	DrySnare 1	--
34	A#1	Metronome1	--	GtCutNois2	--	SynSnare 2	--	LightSnare	--
35	B1	Ambi.Kick	--	Chic 2	--	Syn Kick 1	--	Metal Kick	--
36	C2	Real Kick	--	Chic 1	--	Syn Kick 1	--	Gated Kick	--
37	C#2	Side Stick	--	Bass Slide	--	Zap 1	--	Metronome2	--
38	D2	Snare 1	--	Gt Scratch	--	SynSnare 1	--	Rock Snare	--
39	D#2	Hand Claps	--	Zap 1	--	Syn Claps	--	Hand Claps	--
40	E2	Snare 1	--	WhiteNoise	--	LightSnare	--	FullRoomSD	--
41	F2	Tom 1 Lo	--	Scratch Hi	2	OilDrum	--	Tom 1 Lo	--
42	F#2	Tite HH 1	1	Scratch Lo	2	Ride Edge	1	Tite HH 1	1
43	G2	Tom 1 Lo	--	Stick Hit	--	OilDrum	--	Tom 1 Lo	--
44	G#2	Tite HH 1	1	Footstep 2	--	Ride Edge	1	Pedal HH 1	1
45	A2	Tom 1 Lo	--	Metronome2	--	OilDrum	--	Tom 1 Lo	--
46	A#2	Open HH 1	1	Metronome1	--	Crash LP	1	Open HH 1	1
47	B2	Tom 1 Hi	--	Gtr Slide	--	OilDrum	--	Tom 1 Lo	--
48	C3	Tom 1 Hi	--	GtCutNois1	--	OilDrum	--	Tom 1 Hi	--
49	C#3	Crash Cym	2	GtCutNois1	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--
50	D3	Tom 1 Hi	--	StringSlap	--	OilDrum	--	Tom 1 Hi	--
51	D#3	Ride Cym 2	3	StringSlap	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--
52	E3	Darabuka O	--	Laughing V	--	China Cym	--	China Cym	--
53	F3	Darabuka M	--	Scream	--	Ride Cup	--	Ride Cup	--
54	F#3	Tambourine	--	Punch	--	Tambourine	--	Tambourin	--
55	G3	Darabuka R	--	Hart Beat	--	Splash Cym	--	Splash Cym	--
56	G#3	Cowbell 1	--	Footstep 1	--	SynCowbell	--	Cowbell 1	--
57	A3	Darabuka R	--	Footstep 1	--	Crash Cym	--	Crash Cym	--
58	A#3	Cabasa	--	Applause 1	--	Zap 2	--	Viblaslap	--
59	B3	Douf Dom	--	Door Creak	--	Ride Cym 2	--	Ride Cym 2	--
60	C4	Douf Tak 2	--	Door Slam	--	Hi Bongo	--	Hi Bongo	--
61	C#4	Lo Bongo	--	Scratch a	--	Lo Bongo	--	Lo Bongo	--
62	D4	Douf Tak 1	--	MarcTree 2	--	Douf Rim	--	Slap Conga	--
63	D#4	Hi Bongo	--	Car Engine	--	Douf Dom	--	Open Conga	--
64	E4	Douf Rim	--	Car Stop	--	Douf Dom	--	Open Conga	--
65	F4	Tabla Dom	--	Car Pass	--	SolidHit	--	Timbal1HiO	--
66	F#4	Tabla Roll	4	Car Crash	--	SolidHit	--	Timbal1LoO	--
67	G4	Tabla Tak	4	Siren	--	MouthHarp1	--	Agogo 1	--
68	G#4	Tabla Flam	--	Train	--	MouthHarp1	--	Agogo 1	--
69	A4	Tabla Rim	--	Jetstar	--	Cabasa	--	Cabasa	--
70	A#4	Slap Bongo	--	Helicopter	--	SynMaracas	--	SynMaracas	--
71	B4	Tabla 2	--	Laser Gun	--	Explosion	2	Whistle S	2
72	C5	Rek Dom 2	--	Gun Shot 2	--	Jetstar	2	Whistle L	2
73	C#5	Rek Tak	--	MachineGun	--	Rev.Cymbal	4	Guiro S	4
74	D5	Rek Dom 1	--	Laser Gun	--	Crash Cym	4	Guiro L	4
75	D#5	Rek Rim	--	Explosion	--	Syn Claves	--	Claves	--
76	E5	Rek Rim	--	Dog	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--
77	F5	Rek Slap	--	Gallop	--	WoodBlockM	--	WoodBlockM	--
78	F#5	Tambourine	--	Bird 1	3	Mute Cuica	3	Mute Cuica	3
79	G5	Rek Dom 2	--	Rain	--	Open Cuica	3	Open Cuica	3
80	G#5	Tambourine	2	Thunder	--	MuteTriang	5	MuteTriang	5
81	A5	Rek Tak	2	Wind	--	OpenTriang	5	OpenTriang	5
82	A#5	Rek Rim	--	Seashore	--	Cabasa	--	Cabasa	--
83	B5	Rek Slap	--	Stream	--	JingleBell	--	JingleBell	--
84	C6	Sagat Open	5	Bubble	--	MarcTree 1	--	MarcTree 1	--
85	C#6	Sagat HfOp	5	Kitty	--	Castanet1V	--	Castanet1V	--
86	D6	SagatClose	5	Bird 2	--	Baya 1	6	Baya 1	6
87	D#6	JingleBell	--	Growl 2	--	Tom 2 Hi V	6	Tom 2 Hi V	6
88	E6	DjembeOpen	6	Stadium	--	OFF		OFF	
89	F6	DjembeOpen	6	Telephone1	--	OFF		OFF	
90	F#6	Darabuka O	6	Telephone2	--	OFF		OFF	
91	G6	Sagat Open	7	OFF		OFF		OFF	
92	G#6	Sagat HfOp	7	OFF		OFF		OFF	
93	A6	SagatClose	7	OFF		OFF		OFF	
94	A#6	JingleBell	--	OFF		OFF		OFF	
95	B6	Real Kick	--	OFF		OFF		OFF	
96	C7	Cast Roll	--	OFF		OFF		OFF	
97	C#7	OFF		OFF		OFF		OFF	
98	D7	OFF		OFF		OFF		OFF	
99	D#7	OFF		OFF		OFF		OFF	
100	E7	OFF		OFF		OFF		OFF	
101	F7	OFF		OFF		OFF		OFF	
102	F#7	OFF		OFF		OFF		OFF	
103	G7	OFF		OFF		OFF		OFF	
104	G#7	OFF		OFF		OFF		OFF	
105	A7	OFF		OFF		OFF		OFF	
106	A#7	OFF		OFF		OFF		OFF	
107	G8	OFF		OFF		OFF		OFF	



# デモ曲・リスト

## ピアノ曲・デモ

曲名	LCD画面表示
1 L.v.ベートーヴェン/エリーゼのために L.v.Beethoven/For Elise	L.v.ベートーヴェン/エリーゼ/タメニ L.v.Beethoven/For Elise
2 W.A.モーツァルト/ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」 W.A.Mozart/Sonata K.331	W.A.モーツァルト/トルコマーチ W.A.Mozart/Sonata K.331
3 F.ブルグミュラー/貴婦人の乗馬 Op.100-25 F.Burgmuller/La chevaleresque Op.100-25	F.ブルグミュラー/キフジン/ジョウバ F.Burgmuller/La chevaleresque
4 F.メンデルスゾーン/春の歌 Op.62-6 F.Mendelssohn/Springs Song Op.62-6	F.メンデルスゾーン/ハルノウタ Op.62-6 F.Mendelssohn/Springs Song
5 R.シューマン/トロイメライ Op.15-7 R.Schumann/A Dream Op.15-7	R.シューマン/トロイメライ Op.15-7 R.Schumann/A Dream Op.15-7
6 F.ショパン/別れの曲 Op.10-3 F.Chopin/Etude Op.10-3	F.ショパン/ワカレノキョク Op.10-3 F.Chopin/Etude Op.10-3
7 F.ショパン/ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」 Op.64-1 F.Chopin/Waltz No.6 Db-major Op.64-1	F.ショパン/コイヌノワルツ Op.64-1 F.Chopin/Waltz Op.64-1
8 F.ショパン/ノクターン第2番 Op.9-2 F.Chopin/Nocturne Op.9-2	F.ショパン/ノクターン No.2 Op.9-2 F.Chopin/Nocturne Op.9-2
9 C.ドビュッシー/アラベスク 第1番 C.Debussy/Arabesque No.1	C.ドビュッシー/アラベスク No.1 C.Debussy/Arabesque No.1
10 C.ドビュッシー/月の光 C.Debussy/Claire de lune	C.ドビュッシー/ツキノヒカリ C.Debussy/Claire de lune
11 E.サティ/ジムノペディ第1番 E.Satie/Gymnopédie No.1	E.サティ/ジムノペディ No.1 E.Satie/Gymnopédie No.1
12 J.S.バッハ/主よ人の望みよ、喜びを J.S.Bach/Chorale from Cantata No.147	J.S.バッハ/シュヨヒトノノゾミヨ... J.S.Bach/Cantata No.147
13 A.エルメンライヒ/紡ぎ歌 A.Ellmenreich/Spinning Song	A.エルメンライヒ/ツムギウタ A.Ellmenreich/Spinning Song
14 E.エルガー/愛の挨拶 E.Elgar/Salut d'Amour	E.エルガー/アイノアイサツ E.Elgar/Salut d'Amour

## スタイル・デモ

グループ名	スタイル名 (LCD画面表示)	Style	Style Name (Display)
1 8/16 ビート	ギター・バラード	8/16 BEAT	Guitar Ballad
2 ダンス	ジャングル	DANCE	Jungle
3 ラテン	ミス・ボサノバ	LATIN	Miss Bossa
4 ボールルーム	サルサ	BALLROOM	Salsa
5 トラッド	ジャーマン・ワルツ	TRAD	German Waltz
6 ジャズ/ファンク	ビッグ・バンド	JAZZ/FUNK	Big Band
7 R&B/ロック	R. & B.	R&B/ROCK	R. & B.
8 ワールド	カントリー	WORLD	Country
9 ピアニスト	ロックバラード	PIANIST	Rock Ballad

## プログラム・デモ

グループ名	プログラムデモ (音色デモ)	LCD画面表示
1 ピアノ PIANO	F.ショパン/幻想即興曲 Op.66 F.Chopin/Fantasy-Impromptu Op.66	F.ショパン/ゲンソウソウソッキョウキョク F.Chopin/FantasyImpromptu
2 エレクトリックピアノ E.PIANO	KORGオリジナル/The Harp of Wind KORG Original/The Harp of Wind	KORGオリジナル/The Harp of Wind KORG Original/The Harp of Wind
3 オルガン ORGAN	F.メンデルスゾーン/ウェディング・マーチ F.Mendelssohn/Wedding March	F.メンデルスゾーン/ウェディング・マーチ F.Mendelssohn/Wedding March
4 フルート/サクソ FLUTE/SAX	P.チャイコフスキー/くるみ割り人形 ~ 行進曲 Op.71a P.Tschaikowsky/Nutcracker ~ March Op.71a	P.チャイコフスキー/クルミワリニンギョウ~マーチ P.Tschaikowsky/Nutcracker ~ March
5 ブラス/クワイア BRASS/CHOIR	M.ムソルグスキー/展覧会の絵~プロムナード M. Moussorgsky / Pictures at an Exhibition ~ Promenade	M.ムソルグスキー/テンランカイノエプロムナード M. Moussorgsky / Pict. Exhibition
6 スtrings STRINGS	J.S.バッハ/G線上のアリア J.S.Bach/Air on the G string	J.S.バッハ/Gセンジョウノアリア J.S.Bach/Air on the G str.
7 ギター GUITAR	J.S.バッハ/ブーレ J.S.Bach/Bourree	J.S.バッハ/ブーレ J.S.Bach/Bourree
8 ベース BASS	KORGオリジナル/Movement KORG Original/Movement	KORGオリジナル/Movement KORG Original/Movement
9 シンセ/効果音 SYNTH/S.E.	KORGオリジナル/Synth Pict. KORG Original/Synth Pict.	KORGオリジナル/Synth Pict. KORG Original/Synth Pict.
10 パーカッション PERCUSSION	KORGオリジナル/A Target, R.コルサコフ/熊蜂の飛行 KORG Original/A Target, R.Korsakov/The Flight of The Bumble Bee	オリジナル/R.コルサコフ: Target/クマバチノヒコウ Orig./R.Korsakov: A Target/BumbleBee

# 付属ディスク・リスト(CID-001PJ)

## プログラム (CID-00PJ.PRG)

プログラム名(English)	MIDI		
	No*	Bank#	Prog#
Ambipiano	320	3	0
Respiano	321	3	1
FusionEP	322	3	2
Click EP	323	3	3
SoftEP/Pad	324	3	4
Reed EP	325	3	5
BuzzBassEP	326	3	6
Syn Piano	327	3	7
ScannerOrg	328	3	8
Iced Organ	329	3	9
Cheese4Dnr	330	3	10
Gurgie Org	331	3	11
Glide Dark	332	3	12
Late Comet	333	3	13
Breathery	334	3	14
Answer Pad	335	3	15
SyntharGT1	336	3	16
Guitarlog	337	3	17
Electr.Gap	338	3	18
CompChorGT	339	3	19
Si/Guitar	340	3	20
CompBuzzGT	341	3	21
Over GT.	342	3	22
Ethnic Str	343	3	23
Bass&Lead2	344	3	24
SpittingLd	345	3	25
BlurredAtk	346	3	26
RunningLd	347	3	27
Mayceinery	348	3	28
DistoFlute	349	3	29
DigiMeow	350	3	30
Digi Bop	351	3	31
ViolinoVib	352	3	32
Viola Vib	353	3	33
Cello Vib	354	3	34
SlowAirSax	355	3	35
B.BandSolo	356	3	36
Flute Vib	357	3	37
FluteVoice	358	3	38
Soft Trp	359	3	39
Energy Str	360	3	40
AnaLow Str	361	3	41
AnaAnalogy	362	3	42
Digitoyd	363	3	43
Digi Brass	364	3	44
HybridBrs	365	3	45
OB Brass	366	3	46
TrptsThing	367	3	47
Long Piano	368	3	48
Planar 00	369	3	49
Planar 07	370	3	50
Planar 09	371	3	51
E.Pianarm1	372	3	52
ParisPad 1	373	3	53
Stratopad 1	374	3	54
Arpa Pad	375	3	55
AmbassFret	376	3	56
Trombell	377	3	57
Paddonbelz	378	3	58
Marimboyd	379	3	59
Sharp Edge	380	3	60
Undermetal	381	3	61
Radioactiv	382	3	62
Introspect	383	3	63
Techno Kit	398	4	72
Rock Kit	399	4	73

## リズム・スタイル(CID-00PJ.ARR)

スタイル名(English)	No.*
Pop Ballad	00
Pop Ballad 2	01
4/4 Ballad	02
4/4 Ballad 2	03
8 Beat 5	04
Unplugged	05
16 Beat 5	06
Analog Soul	07
Red Rose	08
Sunflower	09
Lite Bossa	10
Black Shape	11
Light Rock 2	12
Light Crunch	13
Mdn Country	14
Greyhound	15
6/8 Swing	16
Warm Ballad	17
Mood Swing	18
Jimmy's mood	19
SwingShuffle	20
All Star	21
The Duke	22
The Count	23
60's Rock	24
Jhonny...	25
60's Dance	26
VibraBeach	27
Energy	28
Trance	29
Toonchi	30
Rave Party	31
Mondo Beat	32
Love Ballad	33
On the road	34
Many Stories	35
True Love	36
Heart Beat	37
Rock & Soul	38
Phaser Funk	39
Romance	40
SynphoBeat	41
Soft Beat	42
Shuffle Beat	43
Blue Tales	44
12/8 beat	45
Europe	46
Electro Pop	47
DiscoTrance	48
Still Dance	49
...Go on!	50
GuitarDance	51
Cool Cumbia	52
Caribbean	53
HawaiianDream	54
Sirtaki	55
Fast Walzer A	56
Folk Mazurka	57
Hit Polka	58
Paris Valzer	59
Thin Fox	60
Big Fox	61
Organ Swing	62
Soft Bossa	63

※工場出荷時に[USER/DISK]に読み込まれているときの  
NoとMIDI No.です。



## レコーダー・デモ曲

リズム・スタイル	曲名
JAZZ/FUNK	Groove
ジャズ/ファンク	グループ

## XFファイル・リスト

曲名	ファイル名
LOVEマシーン	1LOVE-M.MID 作詞:つんく 作曲:つんく
CAN YOU CELEBRATE?	2CANYOU.MID 作詞:TETSUYA KOMURO 作曲:TETSUYA KOMURO
White Love	3WHITE-L.MID 作詞:伊秩 弘将 作曲:伊秩 弘将
夜空ノムコウ	4YOZORA.MID 作詞:スガ シカオ 作曲:川村 結花
小さな世界	5CHISANA.MID 作詞:R.M.Sherman/R.B.Sherman 作曲: R.M.Sherman/R.B.Sherman
川の流れるように	6KAWANO.MID 作詞:秋元 康 作曲:見岳 章

## 付属フロッピー・ディスクに記録されているファイル

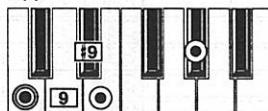
CID_00PJ.ARG	オール・セットアップ・データ(※p.84)
CID_00PJ.ARR	リズム・スタイル・データ(※p.47)
CID_00PJ.BSQ	レコーダー曲データ(※p.67)
CID_00PJ.KBS	レジストレーション・データ(※p.83)
CID_00PJ.PRG	プログラム・データ(※p.32)
CID_00PJ.STY	リズム・スタイル・データ(※p.47)
CID_00PJ.GBL	オール・セットアップ・データ(※p.84)

## 認識できるコード一覧

右図のコードはすべて、ルート音がCの根音位置となっています。本機がメジャー6thとマイナー6thを正しく認識するには、このような根音位置でコードを弾く必要があります。というのは、これらのコードが関係短調のマイナー7thとマイナー7th  $\flat 5$ のコードと同じ音で構成されているからです。たとえば、ド・ミ・ソ・ラの組合せはC6にもAm7にもなります。

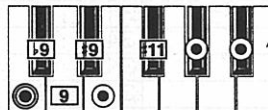
### Augmented "Caug"

3音



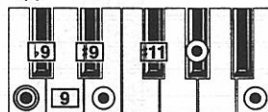
### Augmented 7th "Caug7"

4音



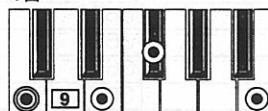
### Augmented Major 7th "CaugM7"

4音



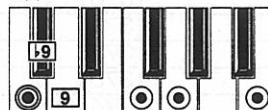
### Major 7th $\flat 5$ "CM7 $\flat 5$ "

4音



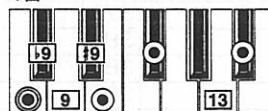
### Major 7th Sus 4 "CM7sus4"

4音



### Dominant 7th $\flat 5$ "C7 $\flat 5$ "

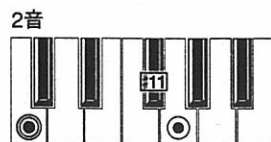
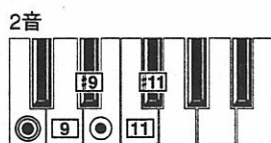
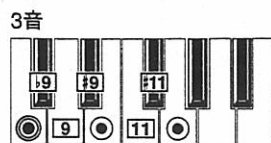
4音



●: 根音      ○: コードの構成音  
 □: テンションとして使用できる音

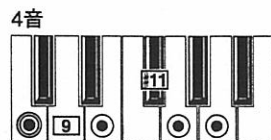
## Major

### "C"



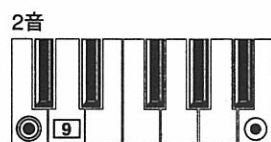
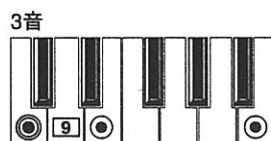
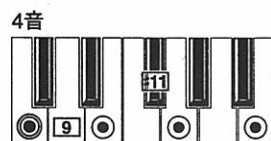
## Major 6th

### "C6"



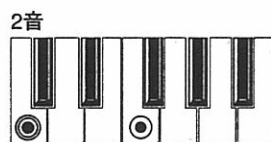
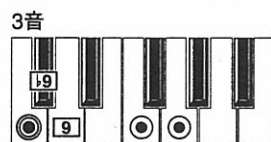
## Major 7th

### "CM7"



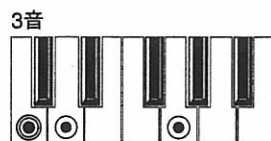
## Sus 4

### "Csus4"



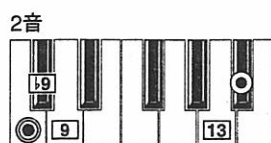
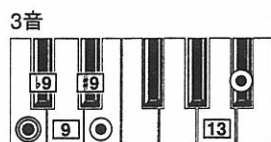
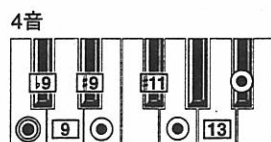
## Sus 2

### "Csus2"

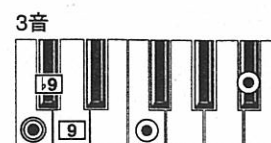
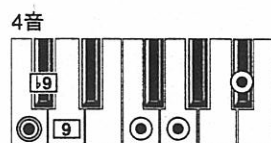


## Dominant 7th

### "C7"

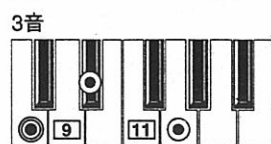


## Dominant 7th Sus 4 "C7sus4"



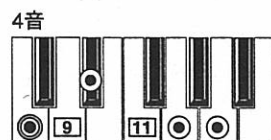
## Minor

### "Cm"



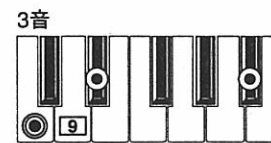
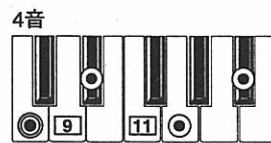
## Minor 6th

### "Cm6"

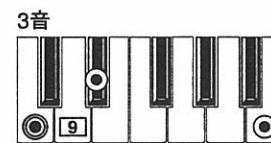
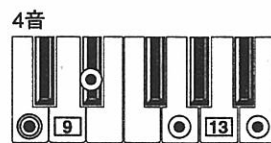


## Minor 7th

### "Cm7"

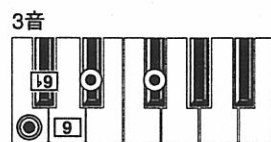


## Minor-Major 7th "CmM7"

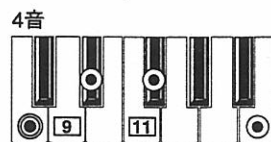


## Diminished

### "Cdim"

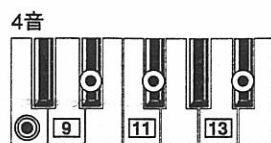


## Diminished Major 7th "CdimM7"



## Minor 7th b5

### "Cm7b5"

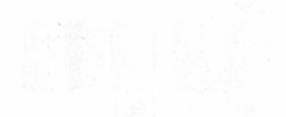
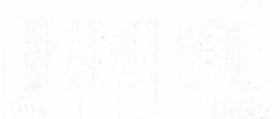




11-11-11

11-11-11

11-11-11



ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時	1-16	1-16	記憶される
	設定可能	1-16	1-16	
モード	電源ON時	× *****	3	
	メッセージ 代用		×	
ノート ナンバー:	音域	15-113 *****	0-127 21-108	レコーダーデータは送信時0-127 一部の音色で受信0-127
ベロシティ:	ノート・オン	○9n, V=1-127	○9n, V=1-127	レコーダーデータは送信時2-126
	ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ:	キー別	×	○	チャンネル別として機能
	チャンネル別	×	○	
ピッチ・ベンダー		×	○	
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンク・セレクト(MSB, LSB) *P
	1, 2	×	○	モジュレーション(ピッチ、カットオフ) *C
	7	○	○	ボリューム *C
	11	○	○	エクスプレッション *C
	10	○	○	パンポット *C
	91	○	○	リバーブ *C
	93	○	○	コーラス *C
	64	○0-127	○0-127	ダンパー・ペダル *C
	66	○	○	ソステヌート・ペダル *C
	67	○0-127	○0-127	ソフト・ペダル *C
	120, 121	○	○	オールサウンドオフ、リセットオールコントロール *C
	0-101	○	○	レコーダ・データ *P*C
	プログラム チェンジ:	○0-127 *****	○0-127 0-127	*P
設定可能範囲				
エクスクルーシブ		○	○	*E
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	○	○	*1
	コマンド	○	○	*1
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○	
	オール・ノート・オフ	○	○123-127	
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	
備考 *C コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *P プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *E エクスクルーシブがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *1 クロックがインターナルのとき送信し、受信しない。エクスターナルのときは受信し、送信しない。				

モード1: オムニオン、ポリ モード2: オムニオン、モノ  
モード3: オムニオフ、ポリ モード4: オムニオフ、モノ

○: あり  
×: なし

## アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一、保証期間内に製造上の不備による故障が生じた場合は、無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし、次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が、不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■修理や運送費用が、製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめコルグ・サービスステーションまたはインフォメーションへご相談ください。運送にかかる往復の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。

■当社の修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。コルグ・サービスステーションまたはインフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし、外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼▲▼株式会社コルグ ▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17	TEL (03) 5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17	TEL (03) 3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51	TEL (052) 832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F	TEL (06) 6374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F	TEL (092) 531-0166

■修理等は、最寄りの各営業所または下記までお問い合わせください。

営業技術課	〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1	
	明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	TEL (03) 3799-9085

#### <WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

# KORG

■本社: 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12 TEL (03) 3325-5691  
 ■インフォメーション: 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17 TEL (03) 5376-5022  
 ■東京営業所: 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17 TEL (03) 3323-5241  
 ■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ: 〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51 TEL (052) 832-1419  
 ■大阪営業所: 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F TEL (06) 6374-0691  
 ■福岡営業所: 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F TEL (092) 531-0166



# KORG MIDI Driver のインストールと セットアップ

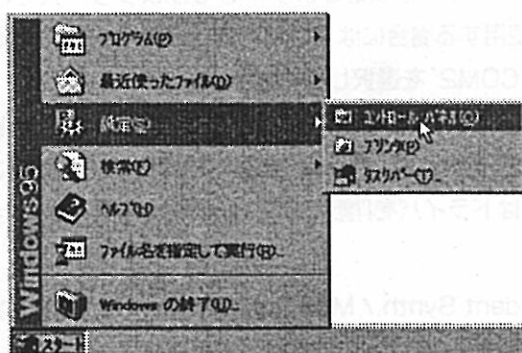
## KORG MIDI Driver の Windows95/98 へのインストー ルと設定

### KORG MIDI Driver の Windows95/ 98 へのインストール方法

お使いになるアプリケーション(シーケンサー)が Windows に対応している場合、KORG MIDI Driver を使用しますと、シリアル・ポート(COM、RS-232C)に接続した KORG の音源を MIDI デバイスとして扱えるようになります。

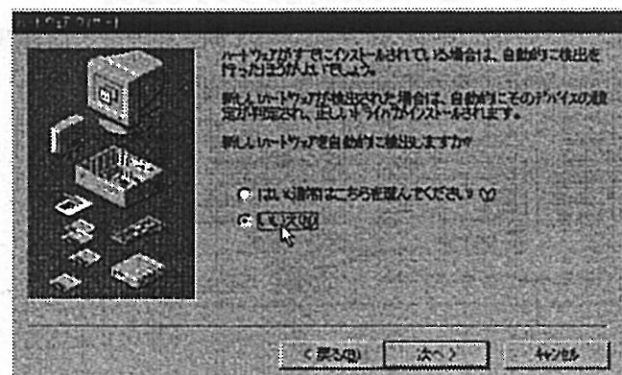
⚠ お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI IN データを正しく受信できないことがあります。Windows NT はサポートしていません。

- ① タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、設定の中の[コントロールパネル]をクリックします。

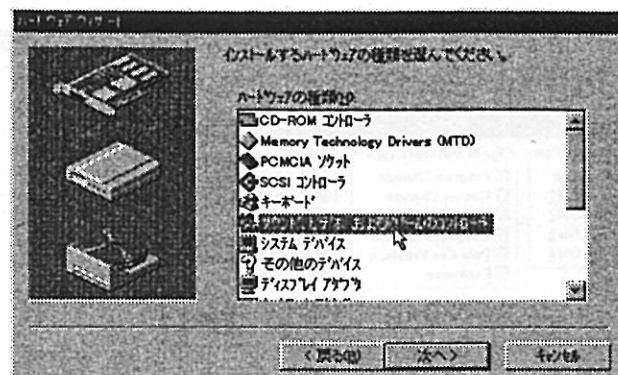


- ② コントロールパネルの中の「ハードウェア」または「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックすると、「ハードウェア ウizard」が起動するので、Windows95では[次へ>]をクリックします。Windows98では[次へ>]をクリックして、次の説明が表示されたら再度[次へ>]をクリックします。

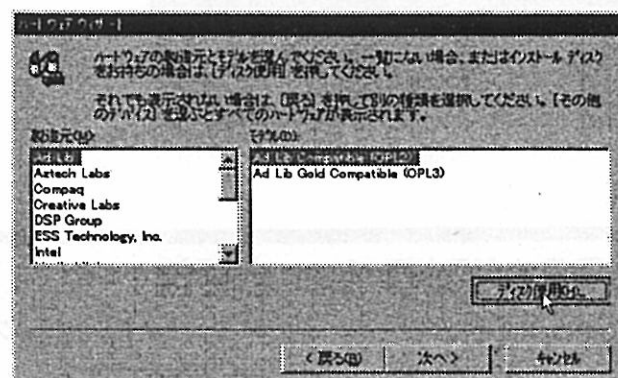
そして「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」で必ず「いいえ」を選択して[次へ>]をクリックします。



- ③ 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロール」を選択して[次へ>]をクリックします。



- ④ [ディスク使用]をクリックします。



- ⑤ ドライブおよびディレクトリを求めてくるので、AG-001B、AG-003BなどKORG PC I/F Driverの入ったディスクをフロッピー・ドライブに入れ、そのドライブ名を入力します。例えばAドライブの場合は「A:¥」と入力します。ボーナス・ディスク\*などIBM(DOS/V機)用とPC-98xxシリーズ用の両方が入っているディスクの場合には、次のように入力します。

DOS/V機やNECの98NXの場合は、

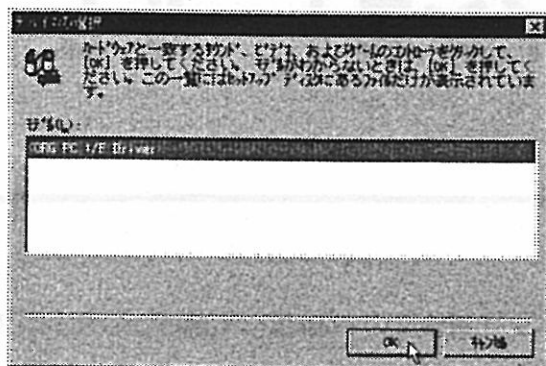
「A:¥IBM」(Bの場合は「B:¥IBM」)

NECのPC-98xxシリーズの場合は、

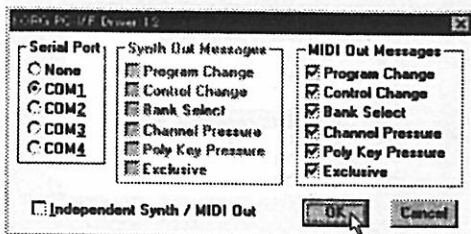
「A:¥PC98」(Bの場合は「B:¥PC98」)

と入力します。

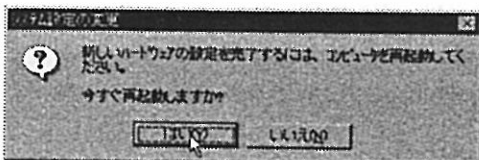
[OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。



- ⑥ 後半で説明する「KORG MIDI Driverのセットアップ」に従って設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。

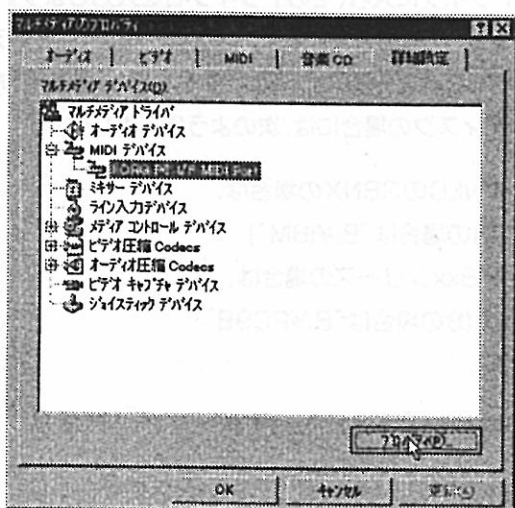


- ⑦ ドライバを有効にするために必ず再起動させてください。

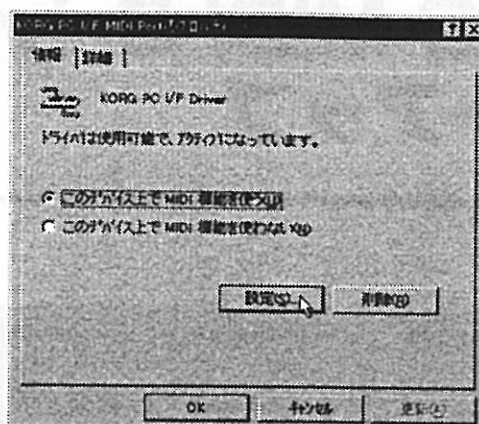


## KORG MIDI Driverの設定

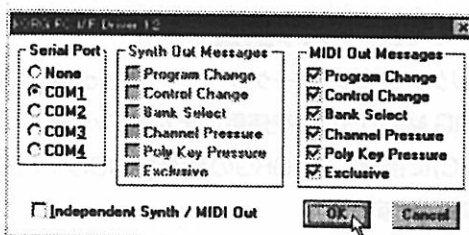
- ① 「コントロールパネル」の中の「マルチメディア」アイコンをダブルクリックすると、「マルチメディアのフックアップ」ダイアログが表示されます。右上の「詳細設定」タブをクリックします。「MIDIデバイス」の左端の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります)、「KORG PC I/F MIDI Port」をクリックします。そして[フックアップ]ボタンをクリックします。



- ② 「KORG PC I/F MIDI Portのフックアップ」が表示されるので、[設定]ボタンをクリックします。

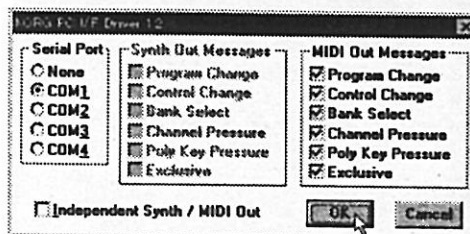


- ③ 後半で説明する「KORG MIDI Driverのセットアップ」に従って設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。



## KORG MIDI Driverのセットアップ

- ① Serial Portでは本機を接続したシリアル・ポートを「COM1」から「COM4」の中から選びます(PC-98xxシリーズでRS-232Cを使用する場合には「COM1」を、SERIAL2を使用する場合には「COM2」を選択してください)。KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアル・ポートを別の用途に使うときには、「None」を選んでドライバを無効にするか、またはドライバを「削除」してWindowsを再起動させてください。
- ② "Independent Synth / MIDI Out" はサポートされていないため、チェックしないでください。
- ただし、C-8500、C-4500 をご使用になる場合は、「Independent Synth / MIDI Out」をチェックしてください。このときMIDI Outポートは「Synth-A」に設定してください。
- ③ Synth Out Messagesでは本機へ送るメッセージを選ぶことができます。また、MIDI Out Messagesでは音源装置のMIDI OUTから出力されるメッセージを選ぶことができます。
- ④ 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。また、変更を取り消したい場合は[Cancel]をクリックします。設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。





## KORG MIDI Driverの Macintoshへのインストール

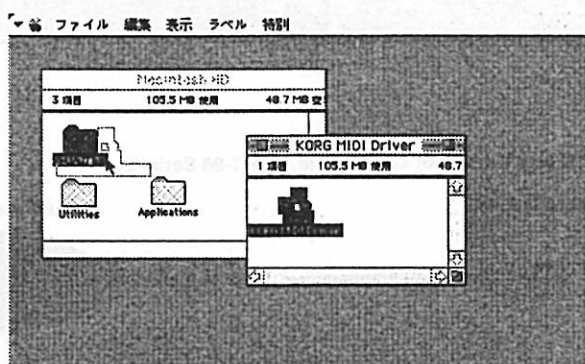
KORG MIDI Driverは、ご使用になるMIDIアプリケーション(シーケンサ)がApple MIDI Manager上で動作する場合に、使用することができます。

Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーションを使う場合は、KORG MIDI Driverをインストールする必要はありません。MIDIアプリケーションのMIDIの出力ポート設定で本機が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1 MHz]に設定してください。

**!** KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002Bには付属していません。

KORG MIDI Driverを使うと、“Modem MIDI Out/Port setting”ダイアログで、本機に送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が不要な場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合はP.4を参照してください。

- ① AG-002Bの付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。



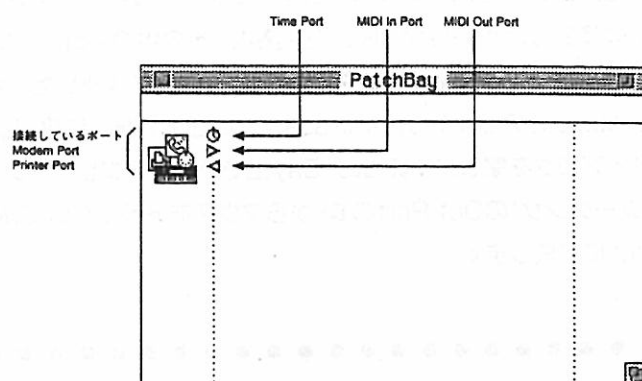
- ② システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。

**!** KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。

- ③ 特別メニューから“再起動”を選択します。

## KORG MIDI Driver (Macintosh)のセットアップ

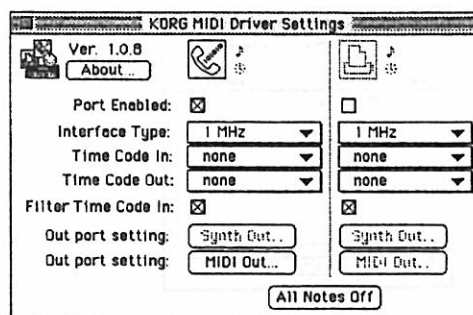
- ① PatchBayを起動します。



インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると上図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)

- ② PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

セットアップダイアログが表示されます。

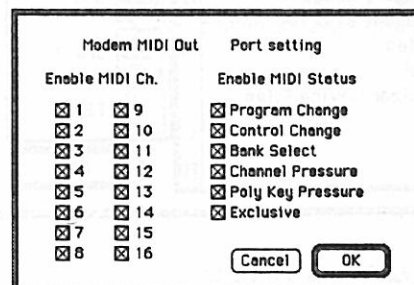


- ③ 本機を接続しているポートの Port Enableをチェックし、Interface Typeを[1 MHz]に設定します。

本機にはKORG PC IFが内蔵されていないので、[KORG PCIF]を選択しないでください。

- ④ [Out Port Setting]ボタンを押します。

次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。



- ⑤ 設定後、[OK]ボタンを押します。

- ⑥ MIDIアプリケーション(シーケンサ)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの▷からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。

② PatchBayの使用方法については、“Apple”メニューの“About PatchBay...”等の説明をご覧ください。

## Apple MIDI Driver を使用する場合

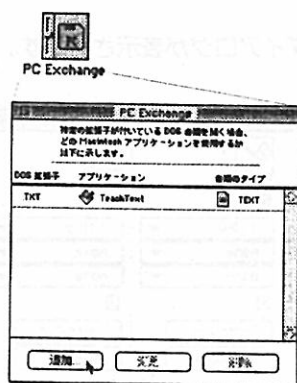
(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後)PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、本機を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサ)のOut Portの▷からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

## PC ExchangeによるSMFの変換方法

市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。

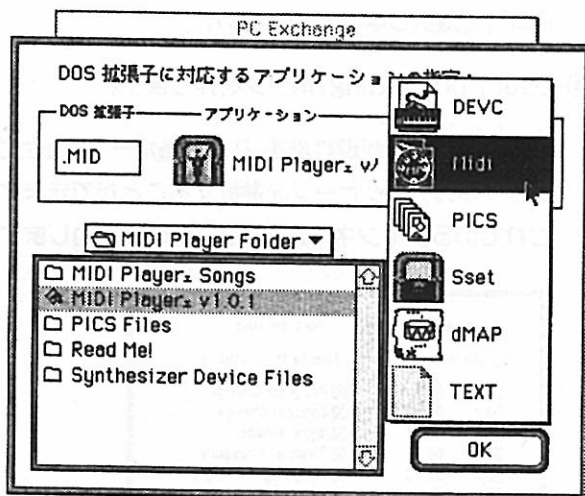
PC Exchangeを使用すると、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

① コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。



② [追加...]ボタンを押します。

[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。

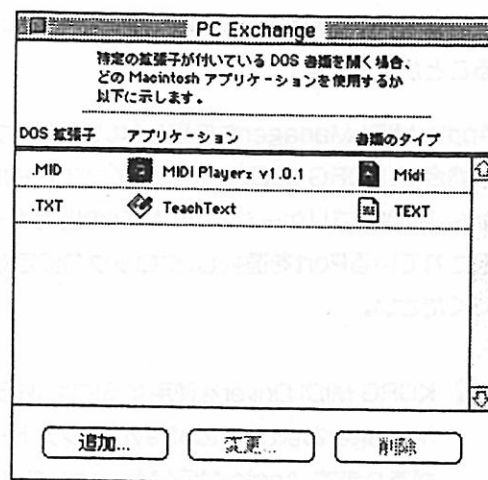


③ DOS拡張子項目に“.MID”と入力します。

MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字をファイル名の後につけます。SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。

④ ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱うMIDIアプリケーション(シーケンサ)を選びます。

アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。



⑤ [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

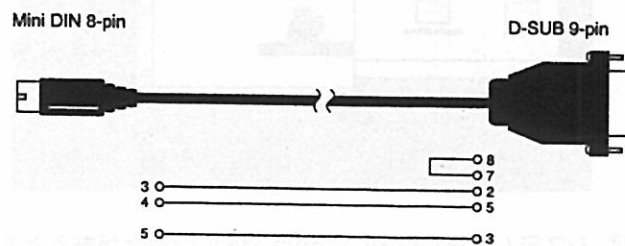
PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

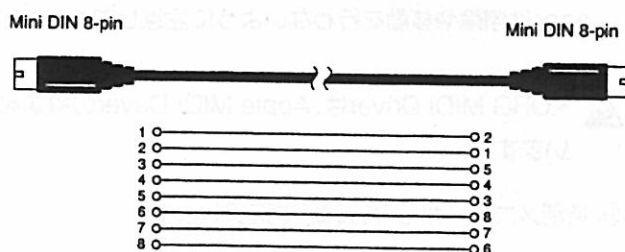
詳しくは“Macintosh PC Exchange”の解説をご覧ください。

## 専用接続ケーブル配線図

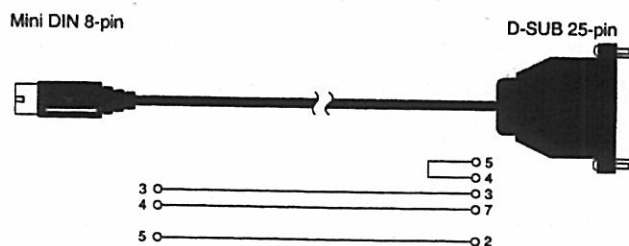
(1) AG-001B (for IBM PC or Compatible, or PC-98 Serial 2)



(2) AG-002B (for Macintosh)



(3) AG-003B (for NEC PC-98)



For details on using PatchBay, refer to "About PatchBay..." etc. in the Apple menu.

To use the Apple MIDI Driver, you must first delete or move the Korg MIDI Driver if it exists in your system folder. Then start up PatchBay, double-click the Apple MIDI Driver icon that appears, check Enabled for the Port to which the instrument is connected, set Interface Type to [1 MHz], and close the dialog box. In PatchBay, drag the mouse from the OutPort ▢ of the MIDI application (sequencer) to connect it to MIDI Out.

### Using PC Exchange to convert SMF data

Most commercially available Standard MIDI File (SMF) song data is saved in MS-DOS format. You can use PC Exchange to make MS-DOS format SMF song files recognizable by the Macintosh.

- ① In the control panel, open PC Exchange.

The PC Exchange control panel will appear.

- ② Press the [Add...] button.

The [Specify application associated with DOS extension] window will appear.

- ③ Input ".MID" into the DOS extension field.

In order to distinguish different types of file, MS-DOS adds an extension consisting of a period and three characters to the end of the filename. It is customary for SMF data to have an extension of ".MID"

- ④ From the list that appears in the lower part of the dialog box, select your SMF-compatible MIDI application (sequencer).

The selected icon will appear in the Application field.

- ⑤ From the [Document type] popup menu, choose [Midi], and click the [OK] button.

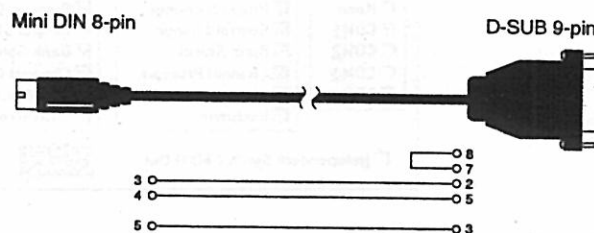
The item which was added to the PC Exchange window will appear, and has now been registered.

Now when an MS-DOS SMF disk is inserted into the disk drive, it can be used immediately.

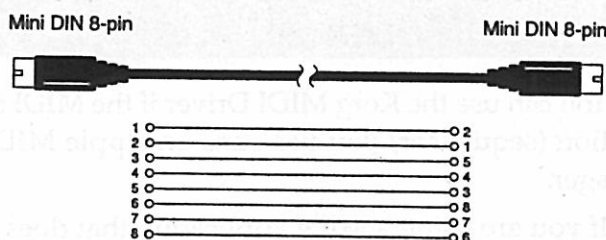
For details refer to the documentation for "Macintosh PC Exchange."

## Wiring diagram for special connection cables

### (1) AG-001B (for IBM PC or Compatible)

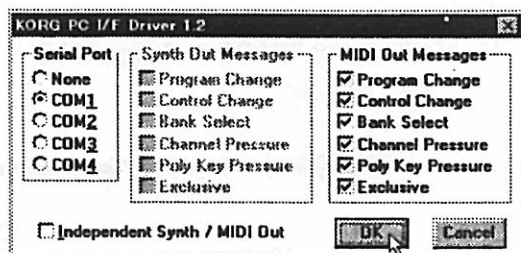


### (2) AG-002B (for Macintosh)





- ④ When you finish making settings, click the [OK] button. Alternatively, if you wish to cancel the changes you made, click [Cancel]. If you have made changes, you must restart Windows.



## Installing the Korg MIDI Driver into a Macintosh

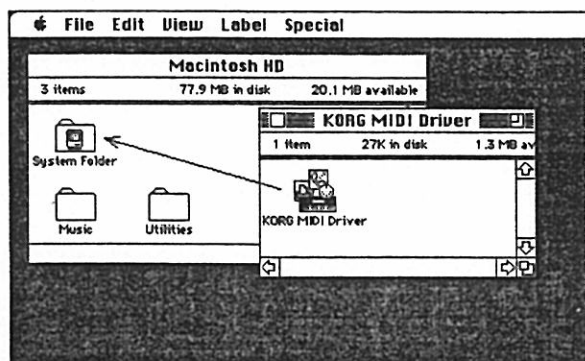
You can use the Korg MIDI Driver if the MIDI application (sequencer) you use runs on Apple MIDI Manager.

If you are using a MIDI application that does not use Apple MIDI Manager, it is not necessary to install the Korg MIDI Driver. Set the MIDI output port of your MIDI application to the port to which the instrument is connected, and set the Clock setting to [1 MHz].

➤ In order to use the Korg MIDI Driver, the Apple MIDI Manager and PatchBay must already be installed. Use the versions of Apple MIDI Manager and PatchBay that are included with your MIDI application. They are not included with the AG-002B.

When the Korg MIDI Driver is used, the "Modem MIDI Out/Port setting" dialog box will allow you to specify the MIDI channels and types of messages which will be transmitted to the instrument. If you do not need this functionality, you can simply use the Apple MIDI Driver without the Korg MIDI Driver.

- ① Copy the KORG MIDI Driver from the disk included with the AG-002B into the system folder of your startup disk.



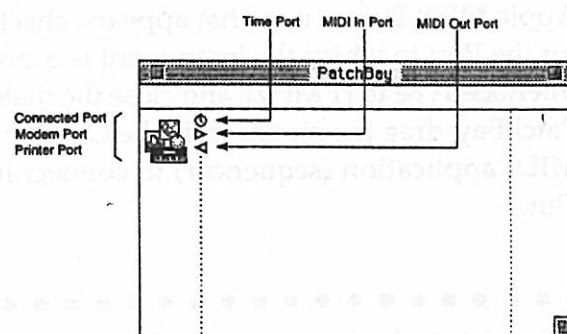
- ② If there is a copy of Apple MIDI Driver in your system folder, either delete it, or move it to another folder. Be careful not to delete or move the Apple MIDI Manager.

➤ The KORG MIDI Driver includes the functionality of the Apple MIDI Driver.

- ③ From the Special menu, select "Restart."

## Setting up the Korg MIDI Driver (Macintosh)

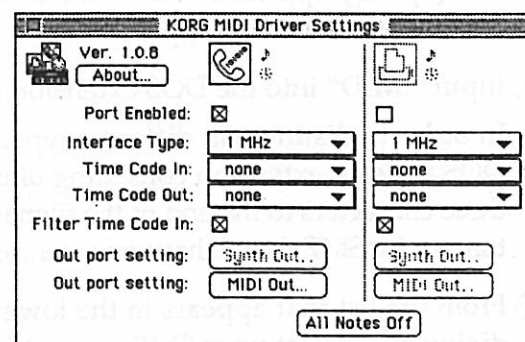
- ① Start up PatchBay.



If installation has been performed correctly, the KORG MIDI Driver icon shown above will appear in the PatchBay window when PatchBay is started up. (The modem and printer ports will be displayed differently depending on the setup condition.)

- ② In PatchBay, double-click the KORG MIDI Driver icon.

The setup dialog box will appear.

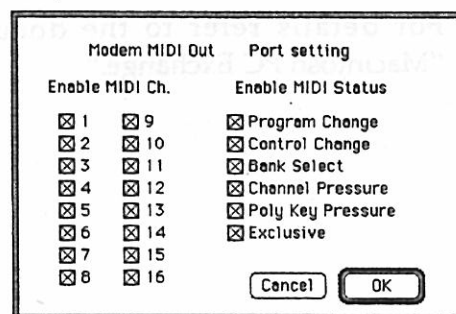


- ③ Check the Port Enable box for the port to which the instrument is connected, and specify [1 MHz].

Since the instrument does not contain a KORG PC IF, do not select [KORG PCIF].

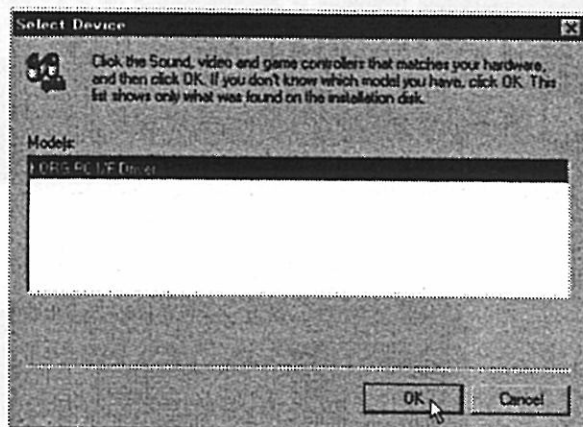
- ④ Press the [Out Port Setting] button.

The following dialog box will appear. Here you can select the MIDI channels/messages which will be output to each port. Only those channels/messages whose box is checked will be output.

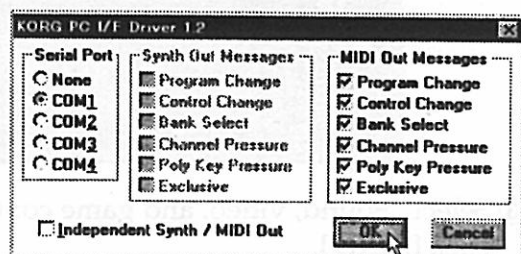


- ⑤ When you have finished making settings, click the [OK] button.

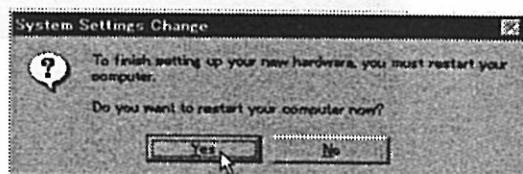
- ⑥ Start up your MIDI application (sequencer), and drag the mouse from the > of the your MIDI application's Out Port to connect it to the MIDI Out of the MIDI Driver.



- ⑥ Make settings as described in "Setting up the Korg MIDI Driver" (below), and click the [OK] button.



- ⑦ Be sure to restart your computer so that the new driver becomes effective.

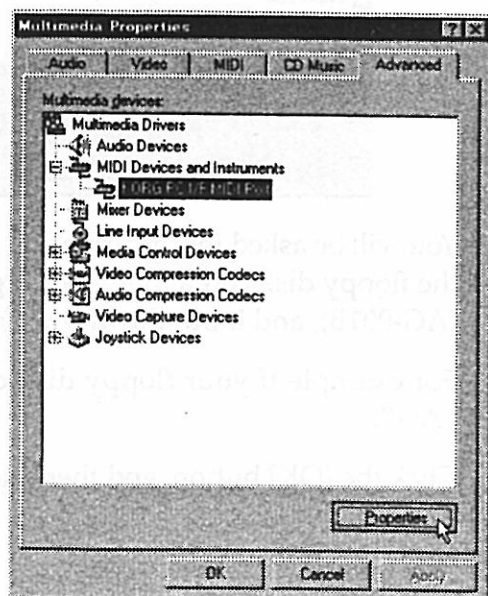


## Korg MIDI Driver settings

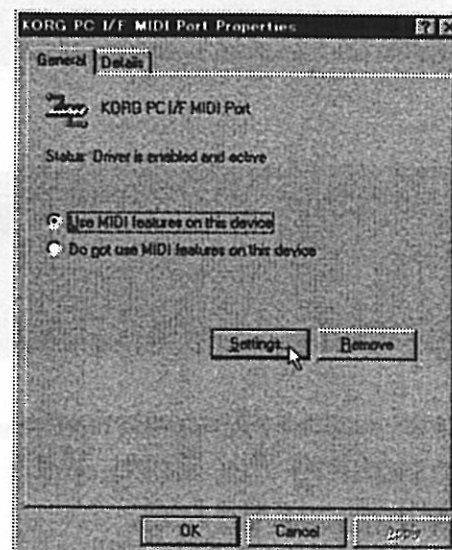
- ① In "Control panel," double-click the "Multimedia" icon, and the "Multimedia Properties" dialog box will appear.

Click the "Advanced" tab located at the upper right. Click the [+] located at the left of "MIDI Devices and Instruments" (the display will change to [-]), and click "KORG PC I/F MIDI Port."

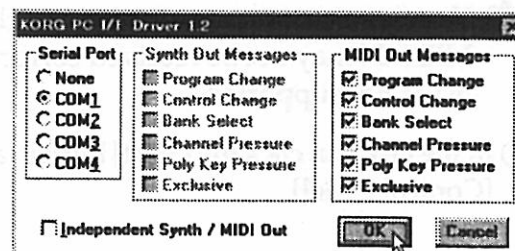
Then click the [Properties] button.



- ② "KORG PC I/F MIDI Port Properties" will appear. Click the [Settings] button.



- ③ Make settings as described in "Setting up the Korg MIDI Driver" (below), and click the [OK] button. If you change the settings, you must restart Windows.



## Setting up the Korg MIDI Driver (Windows)

- ① For Serial Port, select the serial port ("COM1" to "COM4") to which the instrument is connected. If you wish to use the serial port for a different purpose after installing the Korg MIDI Driver, you can either select "None" to disable the driver, or "Delete" the driver and restart Windows.

- ② Since "Independent Synth / MIDI Out" is not supported, do not check it.

However if you are using the C-8500, C-4500, or A-4501, you should check "Independent Synth / MIDI Out." In this case, set the MIDI Out port to "Synth-A."

- ③ Synth Out Messages allows you to select the messages that will be transmitted to the instrument. MIDI Out Messages allows you to select the messages that will be output from the MIDI OUT of the tone generator.



# Installing and setting up the Korg MIDI Driver

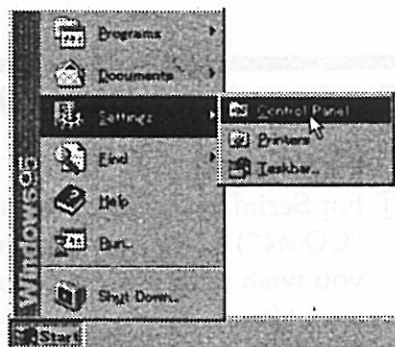
## Installing the Korg MIDI Driver into Windows 95/98 and making settings

### Installing the Korg MIDI Driver into Windows 95/98

If your application (sequencer) is Windows-compatible, using the Korg MIDI Driver will allow you to use a Korg tone generator connected to the serial port (COM, RS-232C) as a MIDI device.

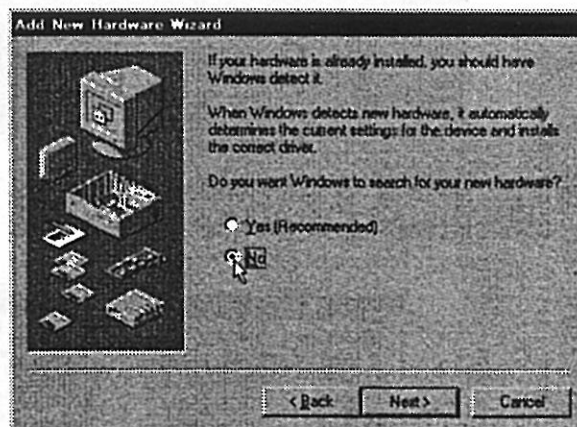
⚠ If your computer is not fast enough, the data at MIDI IN may not be received correctly. Windows NT is not supported.

- ① In the task bar, click the [Start] button, and then click [Control Panel].

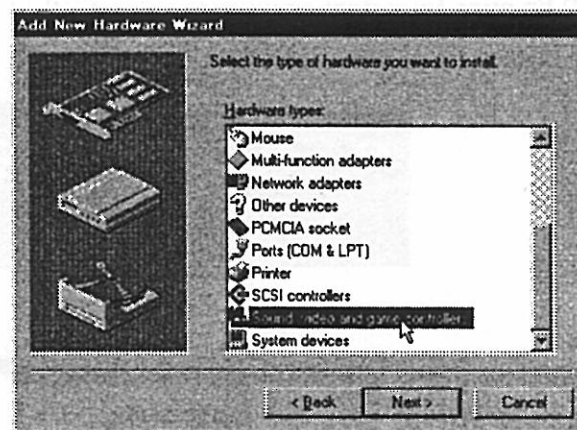


- ② In the control panel, double-click the "Hardware" or "Add hardware" icon, and the "Hardware wizard" will start up. On Windows 95 click [Next>]. On Windows 98, click [Next>] and when an explanation appears, click [Next>] once again.

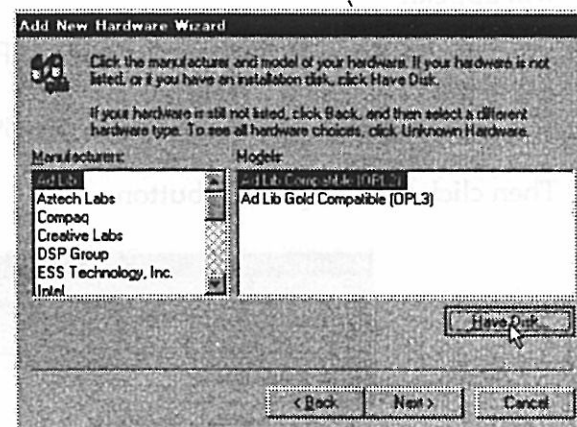
In response to "Do you want Windows to search for your new hardware?" be sure to select "No," and then click [Next>].



- ③ Select "Sound, video, and game controllers," and click [Next>].



- ④ Click [Have Disk].



- ⑤ You will be asked for the drive and directory. Insert the floppy disk containing the Korg PC I/F Driver (AG-001B), and input the drive name.

For example if your floppy disk drive is A, type "A:\".

Click the [OK] button, and then click [OK] again.

# Ci-9600/8600 仕様追加・補足

◎ 以下の内容の仕様を追加させていただきます。

付属の「Ci-9600/8600取扱説明書」とあわせてお読みください。

## p.30 6/8拍子の追加

メトロノームの拍子設定に「6/8」を追加しました。

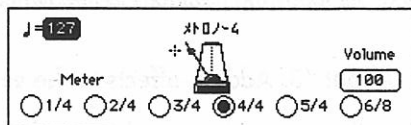
## p.30、p.42 テンポ設定方法の追加

[TEMPO UP、DOWN]スイッチの他に、以下の方法でテンポの変更が行えます。

“メトロノーム”ページの“テンポ”セルを押して、ダイヤルまたは[VALUE]スイッチでテンポを変更してください。

**MeMO** 本機のテンポ表示は「4分音符が1分間に刻まれる数」を基準としています。拍子を「6/8」に設定したときはテンポの半分の値を入力してください。

例: ♩ = 96 のときは、“48”



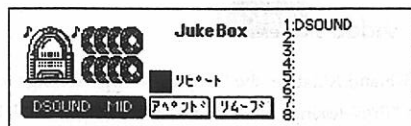
## P30 MeMO の変更

電源をオンにした直後のメトロノームの音量(“Volume”)の値が127から100に変更になりました。

## p.57 ソングの連続再生機能を追加

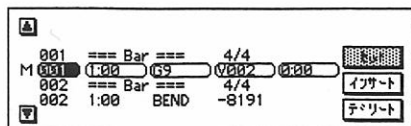
“JukeBox”ページに“リピート”チェック・ボックスを追加しました。

登録したすべてのソングをくり返し連続して再生するときは、“リピート”チェック・ボックスをオンにしてください。



## p.64 イベント・エディットの“セット”ボタンについて

エディット画面で、変更していないときは“セット”ボタンがグレー表示になります。値を変更したときは、“セット”ボタンが表示され、“セット”ボタンを押して変更を決定します。“セット”ボタンを押した後は再びグレー表示になります。

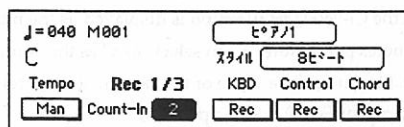


## p.66 「カウント・イン機能」の追加

“Rec1/3”ページに“Count-In”セルを追加しました。レコーディング開始時のプリカウントが“2”(2小節)、“1”(1小節)、“0”(ゼロ小節)から選択できるようになりました。

**MeMO** メトロノームを使っているときは、[START/STOP]スイッチを押すとメトロノームは1拍目(強拍)から始まります。

**MeMO** “Count-In”セルを“0”に設定して、1拍目から録音したいときは、“ファンクション3/13”ページの“Pedal Assign”セルを“Start/Stop”にしてセンター・ペダルで録音スタートすると便利です。



○ 以下の内容の補足を、取扱説明書に追加させていただきます。

## p.26 「3. 音色に効果を加える」について

鍵盤で演奏するときに、選んだプログラムによっては、リバーブやコーラス(エフェクト)の効果がかりにくいことがあります。

ドラム・キットを選んだときは[CHORUSetc.]スイッチを押しても、効果はかかりません。

## p.54 MeMO の追加

**MeMO** Upp1、Upp2、Lowのパートでは“Prog.”セル、“Reverb”セル、“Chorus”セルについての設定できません。

## p.59 MeMO の追加

**MeMO** XF、XGデータでは、“Pan”の“Off”と“Prg”の設定が、“Chorus”と“Reverb”の“Prg”の設定は無効になります。

## p.73 オート・パンチ・イン/アウト

手順7を訂正します。

誤) [SONG CONTROL]の[PLAY/STOP]スイッチを押すと…  
正) [SONG CONTROL]の[PAUSE]スイッチを押すと…

## p.83 レジストレーションで記憶できる内容

記憶できる内容の「コード指定方法」を訂正します。

“FullKeyboard”が選ばれているときは記憶します。“One Finger”、“Fingered1”、“Fingered2”のときは記憶しません。

# Ci-9600/8600 additions and supplements

*The following functionality has been added.*

Please read this in conjunction with the included "Ci-9600/8600 owner's manual."

## p.30 6/8 time signature added

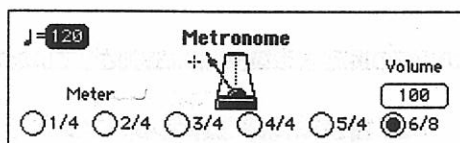
"6/8" has been added to the metronome time signature settings.

## p.30, p.42 Additional method to set tempo

As an alternative to using the [TEMPO UP, DOWN] switches, you can also change the tempo as follows.

Press the "Tempo" cell in the "Metronome" page, and use the dial or the [VALUE] switches to modify the tempo.

**MeMO** On the Ci-9600/8600, tempo is displayed as the number of quarter notes per minute. If you select "6/8" as the time signature, you must input half the value of the "actual" (8th note) tempb. Example: For ♩ = 96, input "48"

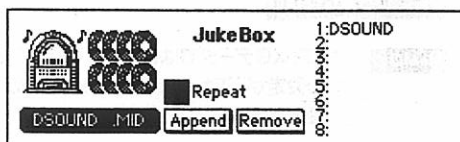


**MeMO** The metronome volume setting ("Volume") that will be in effect immediately after the power is turned on has been changed from 127 to 100.

## p.57 Repeated song playback function has been added

A "Repeat" check box has been added to the "JukeBox" page.

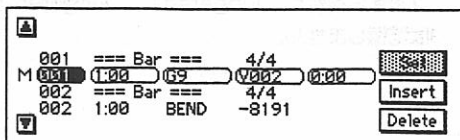
Turn on the "Repeat" check box when you wish to play back all the registered songs repeatedly.



## p.64 About the Event Edit "Set" button

In the edit screens, the "Set" button will be grayed out if the settings have not been modified.

The "Set" button will be displayed when you modify the settings, so that you can press the "Set" button to finalize your changes. After you press the "Set" button, it will once again be grayed out.

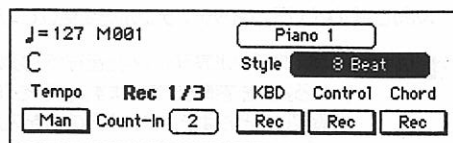


## p.66 "Count In function" has been added

A "Count-in" cell has been added to the "Rec 1/3" page. You can now choose from a pre-count of "2" (two measures), "1" (one measure), or "0" (no measures) before recording begins.

**MeMO** If you are using the metronome, pressing the [START/STOP] switch will start the metronome from the first beat (strong beat).

**MeMO** If you wish to set the "Count-In" cell to "0" and start recording from the first beat, it is convenient to set the "Pedal Assign" cell of the "Function 3/13" page to "Start/Stop," and use the center pedal to start recording.



*Please make the following additions to the owner's manual.*

## p.26 About "3. Adding effects to the sound"

Depending on the program that you select, reverb or chorus (effects) may not apply as strongly as you expect when you play the keyboard.

If you have selected a drum kit, no effect will apply even if you press the [CHORUS etc.] switch.

## p.54 Added MeMO

**MeMO** For the Upp1, Upp2, and Low parts, it is not possible to set the "Prog." cell, "Reverb" cell, and "Chorus" cell.

## p.59 Added MeMO

**MeMO** In XF and XG data, the "Off" and "Prg" settings for "Pan," and the "Prg" settings for "Chorus" and "Reverb" will be ignored.